ISSN 0918－9106

徳島県立博物館年報

第17号（平成19年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum

No. 17 (for the fiscal year of 2007)

目　　次

Ⅰ　資料の収集・保存と活用
1．採集資料……2
2．購入資料……2
3．寄贈資料……2
4．寄託資料……4
5．資料の貸し出し……4
6．写真・映像の提供……4
7．資料の提供……5
8．資料の交換……5
9．館蔵資料数……5
10．資料収集委員会……5
11．文献資料の収集……6
12．資料の保存……6

Ⅱ　調査研究
1．課題調査……8
2．分野別（個別）調査研究……9
3．科学研究費補助金等による研究……11
4．他機関との共同研究……11
5．研究成果の公表……11

Ⅲ　展　示
1．常設展……16
2．企画展……17
3．特別陳列……21
4．企画展示室の会場提供……22
5．館外での展示……22
6．常設展の更新及び活性化に向けての取り組み……23
7．展示関係出版物……24

Ⅳ　普及教育
1．普及行事……30
2．学校教育支援事業……32
3．博物館友の会……35
4．普及教育関係出版物……36

Ⅴ　シンクタンクとしての社会貢献
1．レファレンス業務……38
2．各種委員会委員等の受諾……38
3．講師の派遣……39
4．大学教育への寄与……40
5．学会・研究会等の運営への寄与……41
6．博物館ネットワーク……42

Ⅵ　情報の発信と公開
1．博物館の広報活動……43
2．テレビ・ラジオへの出演等……43
3．インターネットによる情報提供……44
4．外部ネットワークとの連携……45
5．情報システムの概要……45

Ⅶ　管理運営・マネージメント
1．組織・職員……47
2．予算……47
3．博物館協議会……47
4．県民参加の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討……48
5．視察等博物館関係来訪者……49

Ⅷ　中期活動目標と自己点検・評価
1．中期活動目標……50
2．19年度実績と自己点検・評価……55

Ⅸ　観覧者統計……65

Ⅹ　施設の概要
1．沿革……68
2．施設の概要……68
3．博物館各室面積……70

Ⅺ　例　規……72

Ⅰ　資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来次の４つを基本方針として資料を収集している。

１）徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
２）地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
３）徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
４）一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。

収集した資料は、調査研究に役立てているだけでなく、展示や教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

19年度は４名（人文２、自然３）の文化推進員・臨時補助員の補助を得て、資料の整理作業を進めた（人文課の１名は鳥居記念博物館での資料整理を担当した）。

１．採集資料

●動物（脊椎動物）

鳴門市竜宮の磯産魚類　１式
シコクトガリネズミ　１点
キジ　１点
吉野川第十堰産魚類　１式

●動物（無脊椎動物）

鳴門市竜宮の磯産ウミケムシ　１点
鳴門市竜宮の磯産甲殻類　多数

●動物（昆虫）

徳島市川内町小松海岸のハマベツチカメムシほか　多数
阿南市那賀川河口のハマベツチカメムシ、スナコバネナガカメムシ　多数
県内各地のイチジクヒトリモドキ　多数
鳴門市・徳島市のキョウチクトウスズメ　５点
徳島市のクロメンガタスズメ　１点
阿南市のアジアイトトンボ　７点

●植物

県内各地の標本　多数
海浜生植物標本　多数

●地学

県内および北海道産白亜紀動物化石　多数
鹿児島県・長崎県・高知県産第三紀～第四紀化石　多数

２．購入資料

なし

購入資料合計　０点

３．寄贈資料

●動物（脊椎動物）

平成18年度河川水辺の国勢調査報告書（那賀川）　１式　国土交通省那賀川河川事務所
卵生メダカ標本　５点　吉田卓史氏
卵生メダカ標本　２点　西山　亨氏
キツネ　１点　海陽町役場
佐那河内村ナガレホトケドジョウ調査報告書　１点　徳島県徳島土木事務所
シコクトガリネズミ　２点　友成孟宏氏
ハシボソガラス　１点　文化の森保安センター
カラス幼鳥　１点　石橋啓治氏
水産用炭素繊維（魚礁用）　１点　高橋弘明氏
平成13年度河川水辺の国勢調査報告書（魚類・底生動物）および魚類標本　１式　国土交通省徳島河川国道事務所
フクロウ　１点　北川小学校
平成17年度および18年度「園瀬川外魚類基礎踏査報告書」　２点　徳島県土地改良事業団体連合会
静岡県産オカメハゼ標本　４点　北原佳郎氏
平成18年度東環状大橋環境モニタリング調査標本および同報告書　１式　徳島県都市道路整備局
静岡県産ヒナモロコ（活魚）　６点　北原佳郎氏
園瀬川水系産タウナギ（活魚）１点　曽良寛武氏
神山町産キツネ画像　２点　東　鶴代氏
カワセミ　１点　文化の森保安センター

タヌキ置物剥製　1点　鈴木幹一郎氏
国営附帯経営農地防災事業　唐園地区魚類標本
1点　田代優秋氏
静岡県産サツキハゼ標本　4点　北原佳郎氏
桑野川産アリゲーターガー（活魚）
1点　徳島県南部総合県民局
ヤマネ画像　1点　徳島新聞美馬支局
キツネ剥製　1点　駒坂仁史氏
キツネ　1点　徳島県川島農林事務所
四国横断自動車道鳴門市域カワバタモロコ生息調査報告書および魚類標本　1式
徳島大学環境防災研究センター
タヌキおよびアカゲラ　2点　遠藤憲佑氏
勝浦川田浦堰調査魚類標本　1式
徳島県徳島土木事務所
カワヨウジほか静岡県産魚類標本
4点　北原佳郎氏
キツネ・テン　2点　曽良寛武氏
タヌキ　1点　筒井誉史氏
メジロ　1点
徳島県鳴門藍住農業支援センター
カミツキガメ　1点　南部総合県民局
岡川産色素異常ウナギ　1点
農林水産省那賀川農地防災事業所
ニホンザル　1点　徳島県川島農林事務所
カモシカ頭骨　1点　徳島県文化財課

●動物（無脊椎動物）
平成15・16年度東環状大橋（仮称）モニタリング調査ベントス標本　1式
徳島県都市道路整備局
クチキレムシオイ　1点　浜野龍夫氏
牟岐漁港の水生生物　20点　大林史典氏
ホタルミミズ　2点　楠本治吉氏

●動物（昆虫）
徳島県産クロバエ科標本　162点　吉田正隆氏
ヒラズゲンセイ　1点　津田正人氏
オオキンカメムシ　1点　東條善雄氏
徳島県産クワガタムシ　109点　増田敏雄氏
鹿児島県産クロマダラソテツシジミ
多数　二町一成氏
鹿児島県産ヤシオオオサゾウムシ
4点　中峯浩司氏

●植物
徳島県産標本　多数　木下　覚氏
徳島県産標本　1点　佐治まゆみ・成田愛治氏
土地改良関連調査証拠標本　多数
徳島県土地改良事業団体連合会
徳島県産標本　1点　森本康滋氏
徳島県産標本　1点　田渕武樹氏
沖縄県産イネ科標本　6点　川上　勲氏
東環状大橋関係アセスメント標本　多数
ニタコンサルタント株式会社
参考標本　第7集　帰化植物　25点
国立科学博物館植物研究部
極東ロシア産イネ科標本　20点　池田　博氏
ヒゲナガスズメノテッポウ　1点　岡本泰典氏
ミズタカモジ　1点　中村俊之氏
ムギクサ　1点　稲山文雄氏
ミャンマー産イネ科標本
19点　高知県立牧野植物園
北米産植物標本　266点　オレゴン州立大学（OSC）

●地学
愛媛県産藍晶石ほか岩石・鉱物
11点　神野裕之氏
鳴門海峡海底産化石　22点　小野　守氏
唐ノ浜層群産貝化石　25点　三本健二氏
中国産ダオネラ化石　1点　中尾賢一氏
高越山産ルチルほか岩石・鉱物・化石
20点　阿部　肇氏
羽ノ浦・上勝・勝浦・那賀町産化石
13点　平島　昭氏
中国澄江産カンブリア紀化石および新生代虫入りコハク・コパール　46点　両角芳郎氏
戦前の岩石・鉱物組標本　1点　喜瀬典子氏
白井憲治氏採集和泉層群産化石
206点　橋本寿夫氏
唐浜産クダマキガイ科化石　1点　川村政彦氏

●考古
石棒　1点　清水一史氏

●歴史
日露戦争凱旋紀念杯　3点　福島千晶氏
近藤辰郎氏旧蔵書　342点　近藤拓美氏
四国遍路関係資料　19点　松本　修氏
板戸　1点　山西博哉氏

●民俗
日本万国博覧会 EXPO’70関連資料
377点　笠井正一氏
座敷箒ほか　5点　松本　修氏
モロブタほか　97点　矢間多恵子氏
映画『眉山』スチール写真ほか　8点　多喜田昌裕氏
神札・護符ほか　9点　桑村嘉次郎氏
能楽謡本「猩々」　1点　新居邦武氏
民俗資料　495点　永井　久氏
魚籠　2点　岡島一郎氏

生活用具一式　631点　倉橋寿満子氏
遊具（スマートボール）　1点　山西博哉氏
●美術工芸
狩野宴信筆　能楽図　1点
（財）徳島県母子寡婦福祉連合会

4．寄託資料

平成19年度に新たに寄託された資料は次のとおり。
●歴史
弘法大師由来ほか　2点　武田和昭氏
梅林孝次関係資料　22点　梅林俊子氏
観音画像板碑　1点　浄智寺
●民俗
粟飯原家人形頭コレクション　16点　粟飯原一平氏
●美術工芸
鳴門紀行屏風　1点　兼子幸祐氏

5．資料の貸し出し

実物、レプリカ、および模型などの貸し出し資料。学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」の中（p.34）に記載した。
●動物
昆虫標本　ドイツ式標本箱　20箱
三好市教育委員会
軟体動物門腹足綱　14点　和田賢次氏
シマドジョウ標本　18点　洲澤　譲氏
鳥類および両生爬虫類剥製・レプリカ
23点　四国自然史科学研究センター
●地学
カメ化石ほか　6点　三笠市立博物館
●考古
節句山1号墳・2号墳出土品
5点　徳島市立考古資料館
神山町鍋岩出土石棒　1点　神山町教育委員会
袈裟襷文銅鐸（徳島市安都真出土）2号鐸　1点
（財）徳島県埋蔵文化財センター
●歴史
四国遍礼絵図ほか　13点
国立大学法人鳴門教育大学附属図書館
徳島空襲関係資料　42点
徳島県立人権教育啓発推進センター
徳島空襲関係資料　14点
徳島県立あすたむらんど子ども科学館
御国産名物見立相撲
1点　徳島市立徳島城博物館
伝三好長輝木像ほか　2点　藍住町教育委員会
三好長慶錦絵ほか　9点　徳島市立徳島城博物館
●民俗
四国遍礼霊場記ほか　3点
国立大学法人鳴門教育大学附属図書館
全国銘菓の由来（パッケージ一式）
79点　阿波市立図書館
人形芝居映画演劇検閲書類ほか　9点
徳島県立文書館
●美術工芸
珉平焼　7点　兵庫陶芸美術館
筝　銘九江ほか　2点　徳島市立徳島城博物館
鈴木鳴門筆　川中島合戦図ほか　2点
徳島市立徳島城博物館
太刀　銘泰国作ほか　23点
第22回国民文化祭海陽町実行委員会

6．写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出しおよびデジタルデータの提供を含む。
●動物（無脊椎動物）
阿部近一氏の写真　1点　多田　昭氏
●植物
ナルトサワギクの写真
1点　財団法人河川情報センター
ハナハギ他標本写真　6点　高知県立牧野植物園
キレンゲショウマ写真　1点
財団法人徳島地域政策研究所
●地学
チタノサウルス全身骨格写真　1枚　中日新聞
●歴史
徳島藩蒸汽船購入関係資料写真
12枚　横田　淳氏
徳島城復元模型写真　1枚
株式会社新人物往来社
徳島藩蒸汽船購入関係資料写真
12枚　水野浩一氏
江戸職人歌合写真　1枚　NHK大津放送局
七十一番職人歌合写真　1枚　学校法人河合塾
細川頼之画像（複製）ほか写真　2枚
有限会社リゲル社
海部郡宍喰浦同郡伊座利浦マデ略絵図分間
1枚
美波町立日和佐図書・資料館
職人尽歌合写真　2枚　有限会社海鳥社

1945年アメリカ軍撮影空中写真
1枚　徳島県立文書館
「解放令」布達文書写写真　1枚
徳島県中学校人権教育研究会
板戸写真　1枚　森本幾子氏
板碑拓本写真　13点　岡山真知子氏
七十一番職人歌合写真　3枚　学校法人河合塾
兵庫北関入船納帳(複製)写真　1枚
マルトキ木工有限会社

●民俗

かずら橋プリント写真　1枚　株式会社山川出版社
大江巳之助写真　1枚
財団法人とくしま地域政策研究所

●美術工芸

小野小町姫一世記デジタルデータ
1枚　三笠市立博物館
吉成葭亭筆　阿波盆踊図屏風写真
1枚　株式会社山川出版社
吉成葭亭筆　阿波盆踊図屏風ほかポジフィルム
3点　第22回国民文化祭徳島市実行委員会
渡辺広輝筆　祖谷山絵巻写真　1点　須藤茂樹氏

7．資料の提供

●植物

徳島県産等植物標本　144点
オレゴン州立大学(OSC)
徳島県産等植物標本　249点
東北大学（TUS）
徳島県産等植物標本　108点
北海道大学（SAPS）
徳島県産等植物標本　82点
福島大学（FUKU）
徳島県産等植物標本　100点
神奈川県立生命の星地球博物館（KPM）

8．資料の交換

研究や展示、普及といった様々な活動に活用するために国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。

植物標本については、現在、東北大学、北海道大学、福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学と定期的な標本交換を行っている（本章の「3．寄贈資料」および「7．資料の提供」を参照)。

9．館蔵資料数

平成20年3月末日現在の分野別収蔵資料数は下表のとおり。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースを作成している。

10．資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館の購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が設置されている。本委員会は、平成17年3月末での徳島県美術品等取得基金の廃止に伴う資料購入手順の見直しにより、1件100万円以上の資料について審査することになっている。

委員は常任委員（5名以内・任期2年）と特別委員（3名以内）から構成されており、特別委員は、購入資料に応じて特に必要がある場合にその都度委嘱される。

●分野別収蔵資料数（平成20年3月31日現在）

分野	点数	内訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物(脊椎)	22,403	22,329	55	13	6
(無脊椎)	36,963	36,903	0	58	2
(昆虫)	187,259	186,855	0	7	397
植物	189,895	189,545	61	8	281
地学	8,267	8,170	95	2	0
考古	3,744	3,599	73	13	59
歴史	9,809	9,021	26	4	758
民俗	10,297	10,287	5	5	0
美術工芸	9,757	9,748	0	4	5
合計	478,394	476,457	315	114	1,508

19年度は、委員会は開催できなかった。

●博物館資料収集委員会委員

（◎委員長、○副委員長）

氏　　名	役　職（専門分野）
◎石田　啓祐	徳島大学総合科学部教授（地学）
米澤　義彦	鳴門教育大学学校教育学部教授（生物）
○福原　健生	元徳島市立徳島城博物館長（美術工芸）
坂本　憲一	元㈶徳島県文化振興財団事業部主幹（民俗）
桑原　　恵	徳島大学総合科学部教授（歴史）

11．文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●購入図書冊数（データベース登録数による）

12,319冊（うち平成19年度分　145冊）

●購入雑誌

自然史系（27タイトル）：生物科学、科学、日経サイエンス、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、プランタ、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、月刊地球、American Journal of Botany, Cladistics, Episodes, Evolution, Geology, Journal of Evolutionary Biology, Journal of Paleontology, Nature, Paleobiology, Blumea, Canadian Journal of Botany, Kew Bulletin, Science, Systematic Botany, The American Naturalist, Trends in Ecology and Evolution, Lethaia, Palaeontology

人文系（35タイトル）：美術研究、美術史、仏教芸術、地方史研究、地理、芸術新潮、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、文化人類学、日本の美術、日本民俗学、日本歴史、日本史研究、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、歴史地理学、史林、史学雑誌、信濃、ミュゼ、環境社会学研究、考古学と自然科学、古文化財の科学

●当館刊行物の定期発送先（平成20年３月末現在）

博物館ニュース		1,403カ所
博物館年報		469カ所
研究報告	（国内）	552カ所
	（国外）	151カ所
展示解説		231カ所
企画展図録	（自然）	135カ所
	（人文）	238カ所

12．資料の保存

●資料の燻蒸

害虫やカビは資料を劣化させる原因となる。そこで収集した資料や貸し出し後返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では資料の形態や量などによって、次の⑴～⑶の３種類の燻蒸を行ってきた。

⑴ 減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130cm×よこ120cm×奥行140cm（約2.3m^3）である。

17年１月からはこれまでの燻蒸剤に代わって酸化エチレン製剤を使用している。

19年度は減圧燻蒸装置による燻蒸は行っていない。

⑵ 常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫（24時間空調）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は床面積20m^2×高さ３m（約60m^3）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。

17年１月からはこれまでの燻蒸剤に代わって酸化エチレン製剤を使用している。

19年度は３回の常圧燻蒸庫での燻蒸を行った。

⑶ 収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにともなって、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として３年に１回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

前回は17年度に実施したため、19年度は実施していない。次回の実施は20年度の予定である。

●常設展示室における害虫の発生と対策

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間でないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。実際にこれまでも、害虫の発生が確認されている。

19年度には、部門展示室のケース内でタバコシバンムシの発生を確認した。発生場所は、殺虫処理が十分ではなかったと思われる植物標本であることがわかり、これらの資料の燻蒸を行った。その後の調査では、生息数は激減している。

以上の燻蒸にはいずれも酸化エチレン製剤を用いた。

Ⅱ　調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなす活動である。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じて館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長を含む13名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1．課題調査

平成19年度は、次の３つの課題調査を行った。

⑴ 徳島県における融和運動史の基礎資料調査

昨年度からの継続調査として、徳島県における融和運動の実態検討や関係資料の収集を目指した。

●調査メンバー

博物館学芸員：長谷川賢二（歴史）

館外調査員：朝治　武（大阪人権博物館）、駒井忠之（水平社博物館）関口　寛（四国大学経営情報学部）、生駒佳也（徳島市立高等学校　※休職）、松山隆博（徳島県教育委員会）

●調査日程と調査地

10月13日～14日：第１回調査会（徳島市）

３月29日～30日：第２回調査会（京都市）

●調査概要および結果

井藤正一日記の解読・検討、全国的な融和運動の情勢と徳島県の位置づけをとらえるための資料探索・収集を行った。とくに、立命館大学や部落問題研究所等、県外所在機関が所蔵している資料の複写物・デジタルデータの収集や古書等の実物資料の蓄積が進んだことは特筆される。

⑵ 徳島県の海岸植物群落の昆虫相

19年度も継続して海岸周辺の昆虫相調査を行った。吉野川河口部や那賀川河口部の干潟などを重点的に調査した。工事等によって影響を受けやすい海浜性植物群落や干潟、海岸林などに生息する生物相の調査は、現状の把握と今後の変化をモニタリングするためにはできるだけ多くの情報を収集しておくべきであると考えている。

●調査メンバー

博物館学芸員：大原賢二（動物）、山田量崇（動物）

館外調査者：林　正美（埼玉大学教育学部教授）

●調査の概要及び成果

2007年12月３～５日、阿南市那賀川河口、北の脇海岸、徳島市川内町小松海岸、月見ヶ丘海岸

2008年３月28～30日、淡路市海岸、那賀川河口、海部郡美波町木岐、鳴門市里浦海岸

（館外調査者は、2007年12月と2008年３月の２回参加、そのほか大原、山田が数回の調査を行った）

・各調査地点共に、砂の中に生息する半翅目昆虫を主な指標種として調査を行った。シバに依存するスナコバネナガカメムシや、ハマベツチカメムシなどを各地点で採集できた。

・淡路島に希少種が生息しているという情報があり、その生息環境を調査したが、本来の生息環境とは考えられないような場所であった。

・ここ数年、調査の対象としていたウミミズカメムシが得られたが、これは徳島県から初めての記録となる。

⑶ 鳴門海峡海底化石

渦潮で有名な鳴門海峡周辺海域からは、ナウマンゾウやシカ類などの陸棲哺乳動物およびトウキョウホタテなどの貝化石が底曳網の漁網にかかって得られている。これらは海底の地層から洗い出された化石である。ともに過去数十万年以内（更新世中期～後期）に数回あったいずれかの氷期のものであることは確かだが、化石を含む地層の年代や層序が不明確であるのが難点である。現状では、それぞれの化石の年代や、陸棲哺乳動物化石と海棲貝化石との関係など全くわかっていない。

本調査では、鳴門海峡海底産化石のうち特に貝化石についてAMS法で炭素14年代測定を実施し、地史学的位置づけを行うことを目的とする。

●調査メンバー
博物館学芸員：中尾賢一（地学）
●調査概要および結果
トウキョウホタ３点およびヒラタヌマコダキガイ、サルボウ各１点について年代測定を行った。このうちサルボウはヒラタヌマコダキガイ密集層に伴うもので、生息年代はヒラタヌマコダキガイとほぼ同一と考えられる。この結果、トウキョウホタテからは＞44,000の未補正14C 年代が得られ、サルボウおよびヒラタヌマコダキガイからはこれより新しい未補正14C 年代が得られた。これらの結果は、次年度以降に行う調査結果と併せて、学会誌または博物館研究報告に投稿予定である。

２．分野別（個別）調査研究

大原賢二（動物・昆虫）
①日本産ハナアブ科の分類学的研究
②アサギマダラの移動調査
アサギマダラの移動に関する標識再捕法による調査を19年度も行った。春期の移動記録は得られなかった。
秋季の移動で、徳島県で再捕獲された個体は40個体であった。３個体は標識地などが不明である。再捕獲された個体のうち、富山県、石川県、福井県の北陸地方で標識されたものが８個体で、滋賀県ビワ湖バレイからの飛来の５個体を合わせるとこの方向からの飛来個体がこれまでになく多かった。
さらに特徴的であったのは、高知県からの個体が６頭も再捕獲されたことである。四国の他の県でも2007年秋季の移動では、通常とは逆方向の北や東側への記録がかなり出ていることから、四国内を短距離でいろいろな方向へ動いたように見える。
2007年秋季に徳島県で標識を付けられ、他の地域へ移動した個体は21個体であった。そのうち18個体が高知県への移動であり、愛媛県、鹿児島県、沖縄県（竹富島）へとそれぞれ１個体ずつが移動した。これまでの記録から見ても高知県での再捕獲記録が非常に多く、他の県、特に九州方面への移動が少なかった。
沖縄県竹富島への移動個体が確認されたのは、年を越した2008年１月７日で、10月23日にマークされて76日後のことであった。
佐藤陽一（動物・脊椎動物）
①徳島県産淡水魚類相調査
園瀬川ほか、県内各地で採集調査を行った。
②カワバタモロコの保全生物学的研究
徳島大学環境防災研究センター「四国横断自動車道鳴門市域カワバタモロコ生息状況に関する調査研究」の一環として、カワバタモロコ生息環境因果モデルの検討を行ったほか、県外生息地として静岡、三重、及び佐賀の生息地を視察した。
③徳島市域における魚類生息調査
徳島市からの協力依頼で、魚類標本データを提供し、解析の助言を行った。
④那賀川水系桑野川におけるオヤニラミ保全対策の検討
桑野川におけるオヤニラミの生息が可能な支川の調査を行った。
山田量崇（動物・無脊椎動物）
①ハナカメムシ科の系統分類学的研究
東南アジアを中心に生物多様性保全ならびに生物的防除の観点から本科の系統分類学的研究を行った。
②南方系昆虫類の分布調査
最近徳島県で見られるようになった南方系蛾類の県内の分布状況について調査した。
③徳島県および四国の昆虫相の解明
半翅類を中心として県内各地で調査を行い標本の蓄積に努めた。
④県産無脊椎動物相の調査
主に海産および汽水産甲殻類の標本収集を行った。
小川　誠（植物）
①美馬市「旧木屋平村」の植物相調査
平成19年度阿波学会の調査の一環として、美馬市「旧木屋平村」の植物相調査を行った（木下　覚氏らと共同）。
②ヨモギ属の分布調査
日本産ヨモギ属の分化と分布の現状を探るため、栃木県での分布調査を行った。
③インターネットでの情報公開に関する研究
インターネットで高精度画像を公開する方法について検討し、Zoomifyer　EZ を用いて植物標本の画像を公開した。また、同様の手法で公開した高精度画像による展示解説書のアクセス数を解析し、その効果を確かめた。
④県内産絶滅危惧種の保全に関する調査
絶滅危惧種ワタヨモギの保全に関する計画を立案し、徳島県環境局自然共生室、鳴門市などと共同し、移植を行った。

茨木　靖（植物）

①県産植物相の調査

神山町を中心に、徳島県の植物相の調査を行った。

②ススキ属他イネ科植物の比較研究

国内外各地のイネ植物について、その異同、分布などに関しての調査を行った。

③県内における海流種子等の漂着状況を調査した（池渕正明氏と共同）。

中尾賢一（地学）

①浅海成鮮新統～更新統の堆積環境と貝化石相の調査

長崎県と鹿児島県で堆積構造の観察と貝化石の採集を行った。

②美馬市旧木屋平地域の地質に関する研究

平成19年度阿波学会の調査の一環として、旧木屋平村地域の地質に関する野外調査を行った（石田啓祐氏らと共同）。

③鮮新世後期以降の貝類に関する古生物地理学的研究

「大陸沿岸系貝類」とよばれている貝類群について古生物地理学的検討を行った。

④鳴門海峡海底から産出する更新世貝化石の調査

群集古生態学的検討を行い、一部を放射性炭素により年代測定した。

辻野泰之（地学）

①上部白亜系のアンモナイト化石に関する研究

北海道蝦夷層群から産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類学的研究。

②上部白亜系オウムガイ化石に関する研究

高知県四万十市佐田石灰岩より産出したオウムガイ化石の分類学的研究。

③上部ジュラ系坂州層群栗坂層に関する研究

那賀町に分布する上部ジュラ系坂州層群栗坂層から産出する動物化石や地質に関する研究を行った（佐藤　正氏・石田啓祐氏・香西　武氏らと共同）。

④美馬市旧木屋平地域の地質に関する研究

平成19年度阿波学会の調査の一環として、旧木屋平村地域の地質に関する野外調査を行った（石田啓祐氏らと共同）。

高島芳弘（考古）

①若杉山遺跡を中心とする徳島県における朱採掘遺跡の確認調査

阿南市の津乃峰山中腹の岩屋周辺の採集資料の確認及びここと若杉山遺跡の中間地帯での、石杵の採集を通じて、朱の採掘遺跡の広がりを追求した。

②新発見考古速報展の地域展示に係わる資料調査

『眉山周辺の遺跡群』展示資料の選定から展示の構成に向けた資料調査を行った。

③中世城館総合調査

徳島県教育委員会の中世城館総合調査の調査員として阿南市を担当した。本年度は主に山城の確認調査を行った（須藤茂樹氏、福永素久氏、向井公紀氏と共同）。

魚島純一（保存科学・考古）

①臭化メチル燻蒸に替わる低酸素濃度処理法の研究

小型の窒素発生装置を使った中型資料までの低酸素濃度処理法による殺虫処理の実用化を開始した。また、昨年度改修した燻蒸装置を利用して、減圧燻蒸庫における大型の窒素発生装置による大型資料の低酸素濃度処理時の酸素濃度の推移の実測などを行い、実用化を開始する準備を行った。

②展示室内等における害虫の生息調査

昨年度までに引き続き、展示室内等での害虫の生息調査を実施し、どの時期にどの場所でどのような害虫が捕獲できるかを調査した。これまでの調査で、展示室内での害虫発生の場所およびサイクルの確認ができた。今後は、調査の成果を害虫被害の防除に役立てる予定である。

③外部依頼による調査、保存処理等

・徳島大学埋蔵文化財調査室、藍住町教育委員会、愛媛県埋蔵文化財調査センター、香川県歴史博物館などの依頼を受け、出土文化財の蛍光X線分析による材質調査、X線透過撮影による構造調査を行った。

・阿波学会建築班の依頼を受け、棟札の赤外線TVカメラでの調査を行った。

・県内・外の博物館施設等からの虫害防除等に関する相談を受け、現地調査、アドバイス等を行った。

長谷川賢二（歴史）

①熊野信仰をめぐる「宗派」的理解の再検討

熊野信仰にかかわる宗教者の法流が「宗派」で割り切れないことに注目することで、修験道成立史再考の手がかりとなると考え、事例の収集を進めた。

②四国における歴史博物館発達史の調査

昨年度からの継続で、戦前・戦中の四国地方における歴史博物館の展開について、とくに郷土史研究との関連について検討し、現時点での知見をまとめた。

③剣山の宗教空間の調査

幕末期の美馬市木屋平の分間図をもとに現地調査を行い、剣山周辺の寺社等宗教施設の配置とその意味について検討した（羽山久男氏と共同）。

④軍記における城館関係記載の調査

徳島県教育委員会による中世城館跡総合調査の一環として、軍記における城館関係記載を抽出した。

庄武憲子（民俗）

①神札・護符資料の整理と調査

家屋内に保管されてきた神札・護符資料を整理し、発給元の調査を行った。

②海部地方の盆棚習俗の事例収集と整理

海部地方において、盆におけるまつりに地域的特徴が見られるかを確認することを目的として、現行されている盆棚習俗の事例収集、整理を行った。漁業従事者が多数を占める地域で、無縁仏をまつる意識が強い傾向、海部川上から那賀川上流の地域では、川岸でのまつりが盛んである傾向を把握した。

磯本宏紀（民俗）

①潜水漁及びイサリ漁の漁具・漁法調査

県南部の漁村を中心に、潜水漁及びイサリ漁で使用される漁具及び漁法の調査を行った。

②伊島潜水漁民の出稼ぎ・移住に関する民俗学的研究

阿南市伊島からの近代以降の出稼ぎ・移住に関する調査を行った。器械潜水漁を生業とすることによって生じた出稼ぎ移住の実態と、それにともなった文化伝播の痕跡を明らかにすることを目的として検討した。

③からさおの地域差に関する調査

徳島県内のからさおの形態、材質、使用形態などの特質及び仕事唄について調査した。また、これらのデータをもとに地域差についての検討も行った。なおこれらのデータは、県内を含む四国からさお調査の一部をなすものである。

④徳島県内の念仏踊りの調査及び撮影

つるぎ町の踊り念仏、三好市の鉦踊りの調査及び撮影を行った。

大橋俊雄（美術工芸）

①飯塚桃葉に関する調査

阿波藩御用蒔絵師飯塚桃葉について、作品の探索と、漆芸史上の位置づけについて調査をおこなった。

②塗師藤重に関する調査

藤重は、戦国期に奈良から上京し、桃山期に茶の湯の塗師として栄え、江戸時代には幕府諸大名に出入りした家である。蜂須賀家にも出入りしたため、子孫の家がいまも徳島県下にある。藤重についておおよその輪郭を捉えることを目指した。

③阿波における好古の思潮と藩絵師

18世紀後半から現れる好古考証の思潮は、老中松平定信の登場により大きな流れとなった。阿波でも、定信のブレーンである柴野栗山、屋代弘賢が藩主家と関わりをもったことからその気風があらわれた。藩絵師の渡辺広輝、守住貫魚をとおして阿波の好古について調べた。

3．科学研究費補助金等による研究

●若手研究(B)：伊島潜水漁民の出稼ぎ・移住に関する民俗学的研究（平成17年度～19年度）

研究代表者：磯本宏紀

●基盤研究(B)：北米太平洋岸に分布する海成白亜系の高時間精度年代層序と海生生物群の時空変遷（平成18～平成20年度）

研究代表者：棚部一成
（東京大学大学院理学研究科教授）

当館の研究分担者：辻野泰之

4．他機関との共同研究

●徳島大学環境防災研究センター「四国横断自動車道鳴門市域カワバタモロコ生息状況に関する調査研究」

研究代表者：岡部健士（徳島大学環境防災研究センター長）

当館の研究分担者：佐藤陽一

5．研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第18号の発行

2008年３月31日発行、Ｂ５判92ページ、1100部

（＊は館外研究者）

論文

佐藤　正*・辻野泰之・石田啓祐*・香西　武*・蜂矢喜一郎*：徳島県那賀町栗坂から新たに採集されたジュラ紀後期アンモナイト．p.1-20.

三本健二*・中尾賢一：高知県の鮮新統唐ノ浜穴内層から新たに確認された貝類(３)．p.21-33.

磯本宏紀：潜水器漁業の導入と朝鮮海出漁―伊島漁民の植民地漁業経営と技術伝播をめぐって―．p.35-55.

調査報告・事業報告

山田量崇・大原賢二・豊﨑　勲：徳島県における南方系蛾類３種の分布記録．p.57-66.

大原賢二・山田量崇：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録（2007年）．p.67-83.

小川　誠：高精度植物標本画像のインターネットでの公開．p.85-92.

(2)　公表論文・報告・記事等一覧

（＊印：館外研究者）

●動物

〈論文・調査報告〉（☆：査読付学術雑誌）

大原賢二・山田量崇（2008.3）アサギマダラの移動に関する徳島県の記録（2007年）．徳島県立博物館研究報告，(18)：p.67-83.

佐藤陽一（2008.3）.「第２章　カワバタモロコ生息地視察」および「第３章　カワバタモロコの生息環境因果モデル」．国立大学法人徳島大学環境防災研究センター編，四国横断自動車道鳴門市域カワバタモロコ生息状況に関する調査研究報告書．国立大学法人徳島大学環境防災研究センター．

☆Yamada, K. and T. Hirowatari*(2007.4) The genus *Physopleurella* Reuter (Hemiptera: Heteroptera: Anthocoridae) from southeastern Asia. Proceedings of the Entomological Society of Washington, 109 (2)：440-453.

☆Yamada, K. and T. Hirowatari*(2007.6) The flower bug genus *Cardiastethus* (Insecta: Heteroptera: Anthocoridae) from the Ogasawara Islands, Japan. Species Diversity, 12（２）：113-120.

☆Yamada, K., T. Hirowatari*, W. Susila* and S. Okajima*, (2007.10) The flower bug genus *Montandoniola* Poppius (Hemiptera: Heteroptera: Anthocoridae) from Indonesia, with descriptions of two new species. Zootaxa, 1604：37-45.

山田量崇・大原賢二・豊﨑　勲（2008.3）徳島県における南方系蛾類３種の分布状況．徳島県立博物館研究報告，(18)：57-66.

〈普及的記事〉

大原賢二（2007.12）クロマダラソテツシジミ．徳島県立博物館ニュース（野外博物館），(69)：6.

佐藤陽一（2007.5）さかな博士の吉野川魚図鑑　連載第18回：ウグイ．四国三郎吉野川，2007年春号，25：6.

佐藤陽一（2007.7）磯の生きものを飼ってみよう．徳島県立博物館ニュース（野外自然かんさつ），(67)：7.

佐藤陽一（2007.7）用水路で魚採り．［特集：水辺の生きものたち］私たちの自然［(財)日本鳥類保護連盟］，(528)，p.5-7.

佐藤陽一（2007.8）さかな博士の吉野川魚図鑑　連載第19回：コイ．四国三郎吉野川，2007年夏号，26：10.

佐藤陽一（2007.12）絶滅危惧種の保全―環境との関係の探り方―．博物館ニュース（情報ボックス），(69)：4.

山田量崇(2007.9)カメムシのはなし―よいカメムシ・わるいカメムシ・ただのカメムシ―．徳島県立博物館ニュース（カルチャークラブ），(68)：2-3.

●植物

〈論文・調査報告〉（☆：査読付学術雑誌）

木下　覺*・片山泰雄*・成田愛治*・佐治まゆみ*・小川　誠・茨木　靖・小松研一*・真鍋邦男*(2007.7)三好市「旧東祖谷山村」の植物．阿波学会紀要，53：25-37.

☆藤井伸二・小林史郎・小川　誠（2008.1）再発見された四万十川のマイヅルテンナンショウ（サトイモ科）と国内の分布および生育環境．分類，８（１）：73-79.

小川　誠(2008.3)高精度植物標本画像のインターネットでの公開．徳島県立博物館研究報告，(18)：85-92.

☆角野康郎*・茨木　靖（2007.9）岐阜県西濃地域の湧水地に遺存分布するハイドジョウツナギ.分類，7（２）：149-152.

☆茨木　靖・岡本泰典*（2008.1)イネ科の新帰化植物ヒゲナガスズメノテッポウ．植物地理分類研究，55（１）：41-42.

〈普及的記事〉

小川　誠（2007.12）遺伝子汚染って何ですか？徳島県立博物館ニュース(レファレンスQ&A)，(69)：7.

茨木　靖（2007.9）ハネフクベの不思議な種子と果実．徳島県立博物館ニュース（館蔵品紹介），(68)：6.

茨木　靖（2008.3）絶滅寸前!?祖谷の美味しい珍作物ヤツマタ．徳島県立博物館ニュース（レファレンスQ&A），(70)：7.

●地学

〈論文・調査報告〉（☆：査読付学術雑誌）

石田啓祐*・西山賢一*・中尾賢一・元山茂樹*・高谷精二*・香西　武*・小澤大成*（2007.7）徳島県祖谷川上流域の御荷鉾帯の地質と地形．阿波学会紀要，(53)：1-12.

☆中尾賢一（2007.8）長崎県島原半島に分布する更新統北有馬層の堆積相と貝化石相．第四紀研究，46（４）：341-354.

石田啓祐*・中尾賢一・東明省三*（2007.12）徳島県産国会議事堂大理石の研究―その２．採掘関連聞き取り調査と検証―．徳島大学総合科学部自然科学研究，21：33-46.

石田啓祐*・西山賢一*・中尾賢一・元山茂樹*・高谷精二*・香西　武*・小澤大成*（2007.12）徳島県祖谷川上流域の御荷鉾帯と秩父帯．徳島大学総合科学

部自然科学研究，21：47-64.

中尾賢一（2007.12）九州北西部の下部～中部更新統口之津層群産貝化石群の古生物地理学的研究．兵庫教育大学連合大学院博士論文，ii＋99p.

三本健二*・中尾賢一（2008.3）高知県の鮮新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類（3）．徳島県立博物館研究報告，(18)，21-33.

☆Yasuyuki Tsujino and Haruyoshi Maeda*（2007.9）：Fossil bivalve assemblages and depositional environments of the upper part of the Cretaceous Yezo Surpergroup, Kotanbetsu-Haboro area, Hokkaido, Japan. Paleontological Research, 11（3）：251-264.

佐藤　正*・辻野泰之・石田啓祐*・香西　武*・蜂矢喜一郎*：徳島県那賀町栗坂から新たに採集されたジュラ紀後期アンモナイト．徳島県立博物館研究報告，(18)．1-20.

〈普及的記事〉

中尾賢一（2007.5）鉱物の特徴と魅力―県立博物館「ミネラルズ」展から―「水晶」．徳島新聞５月12日朝刊.

中尾賢一（2007.5）鉱物の特徴と魅力―県立博物館「ミネラルズ」展から―「かんらん石」「ダイヤモンド」．徳島新聞５月14日朝刊.

中尾賢一（2007.5）鉱物の特徴と魅力―県立博物館「ミネラルズ」展から―「自然金」「ルビー」．徳島新聞５月15日朝刊.

中尾賢一（2007.5）鉱物の特徴と魅力―県立博物館「ミネラルズ」展から―「輝安鉱」「ルチル」．徳島新聞５月16日朝刊.

中尾賢一（2007.9）化石の名前を調べるのに役立つ図鑑を教えてください．徳島県立博物館ニュース（レファレンスQ&A），(68)：7.

中尾賢一（2008.3）「日本の地質百選」に宍喰の漣痕が選ばれました．徳島県立博物館ニュース（情報ボックス），(70)：4.

辻野泰之（2007.6）高知県四万十市から発見されたオウムガイ化石．徳島県立博物館ニュース（情報ボックス），(67)：4.

辻野泰之（2008.3）世界的なアンモナイト産地：蝦夷層群．徳島県立博物館ニュース（カルチャークラブ），(70)：2-3.

辻野泰之（2008.3）日本古生物学会第156回例会シンポジウム「古生物学のアウトリーチ　―博物館での取り組みを例にして―」総合討論報告．化石，(83)：20-21.

両角芳郎*・辻野泰之・大野照文*（2008.3）古生物学のアウトリーチ　―博物館での取り組みを例にして―．化石，(83)：5

●考古

〈単行本・図書〉

高島芳弘（2008.3）芹沢長介先生の「鳥居龍蔵論」を読む．「芹沢長介先生追悼　考古・民族・歴史学論叢」，芹沢長介先生追悼論文集刊行会：717-721.

〈普及的記事〉

高島芳弘（2007.11）名東遺跡（徳島）発掘された日本列島2007　5　朝日新聞11月26日朝刊.

高島芳弘（2007.11）新発見考古速報展　発掘された日本列島2007〈上〉徳島新聞11月28日朝刊.

高島芳弘（2007.11）新発見考古速報展　発掘された日本列島2007〈下〉徳島新聞11月29日朝刊.

高島芳弘（2008.3）樋殿谷の蔵骨器．徳島県立博物館ニュース（館蔵品紹介），(70)：6.

魚島純一（2007.9）博物館におけるX線の利用．徳島県立博物館ニュース（情報ボックス），(68)：4.

●歴史

〈普及的記事〉

長谷川賢二（2007.6）大般若経巻521．徳島県立博物館ニュース（館蔵品紹介），(67)：6.

長谷川賢二（2007.12）事例紹介：ボランティアとともに取り組む体験キットの開発．文化庁月報，(471)：17.

長谷川賢二（2008.3）二つの徳島県通史によせて―書評『徳島・淡路と鳴門海峡』『徳島県の歴史』―．史窓，(38)：56 - 63.

長谷川賢二（2008.3）東大寺写経所請経文．徳島県立博物館ニュース，(70)：1.

●民俗

〈単行本・図書〉

織野英史*・磯本宏紀共編（2007.11）「四国のからさお―四国連枷調査報告集―」，四国民具研究会.

〈論文・調査報告〉（☆：査読付学術雑誌）

庄武憲子（2008.3）海陽町浅川，海部川上流域の盆棚．徳島地域文化研究，（6）：44-57.

磯本宏紀（2007.7）東祖谷におけるソバウチとカラサオ，阿波学会紀要（53）：179-182.

磯本宏紀（2007.8）問題提起　伊島漁民の潜水器漁業出漁をめぐる「内」と「外」．地方史研究，57（4）：55-58.

磯本宏紀（2008.3）伝統的磯漁としてのイサリとアマ（1）―美波町木岐・牟岐町牟岐浦の事例―．徳島地域文化研究，（6）：32-43.

磯本宏紀（2008.3）農具市における露店の空間配置．徳島地域文化研究，（6）：166-168.

磯本宏紀（2008.3）潜水器漁業の導入と朝鮮海出漁―伊島漁民の植民地漁業経営と技術伝播をめぐっ

て―．徳島県立博物館研究報告，(18)：35-55.

〈普及的記事〉

庄武憲子（2007.4）とくしまの風習「鎌の魔除け」．SALALA，(230)，徳島新聞社：7

庄武憲子(2007.5)とくしまの風習「猿幟」．SALALA，(231)，徳島新聞社：13.

庄武憲子(2007.6)とくしまの風習「虫送り」.SALALA，(234)，徳島新聞社：10.

庄武憲子(2007.7)とくしまの風習「七夕」．SALALA，(235)，徳島新聞社：14.

庄武憲子（2007.12）わがやのぞうに―博物館Ｖキング「博物館冒険ツアー」の成果から―　徳島県立博物館ニュース（Culture Club)，(69)：2-3.

庄武憲子（2008.3）新刊紹介　社団法人徳島自治研究所編『阿波の遍路文化．徳島地域文化研究，(６)，徳島地域文化研究会：175-177.

磯本宏紀(2007.6)小正月の火祭りと２つのサギッチョ（左義長)，徳島県立博物館ニュース（Culture Club)，(67)：2-3.

磯本宏紀（2007.9）流通した民具．徳島新聞９月12日朝刊.

磯本宏紀（2007.12）眉山山中に残る沢の祠（徳島市八万町柿谷)．徳島県立博物館ニュース（表紙)，(69)：1.

磯本宏紀（2008.3）新刊紹介　武田信一著『南淡路の民俗』．徳島地域文化研究，(６)：178-179.

●美術工芸

〈普及的記事〉

大橋俊雄（2008.2）特別陳列「徳島城下町の世界」庸八焼―冨永庸八の人物像・作品．徳島新聞２月11日朝刊

(3) 学会・研究会等での発表（＊印：館外研究者）

●動物

市川俊英*・大原賢二（2007.7）ケヤキ樹液滲出箇所周辺で発見されたケブカハチモドキハナアブとヒサマツハチモドキハナアブ．日本昆虫学会四国支部大会（高松市).

佐藤陽一・田代優秋*（2007.6）カワバタモロコの生息環境因果モデル．GORI 研究会（東京).

田代優秋*・佐藤陽一・上月康則（2007.6）徳島県における外来魚カダヤシの分布制限要因について．GORI 研究会（東京).

佐藤陽一・田代優秋*（2007.10）カワバタモロコの生息環境因果モデル．2007年度日本魚類学会年会（札幌).

田代優秋*・佐藤陽一（2007.10）GIS を用いた徳島県における外来魚カダヤシの潜在生息域の推定．2007年度日本魚類学会年会（札幌).

Uyeno, T.*, Y. Yabumoto*, K. Sakamoto*, Y. Suda* & Y. Sato（2008.3）Miocene marine fishes from Tottori, Japan, with comments on the origin of some coastal fishes of the western Pacific. International Symposium on Systematics and Diversity of Fishes, National Museum of Nature and Science（Tokyo).

佐藤陽一・田代優秋*（2008.3）カワバタモロコ保全のための生息可能性評価．四国魚類研究会（高知県いの町).

田代優秋*・佐藤陽一（2008.3）空間解析による絶滅危惧種カワバタモロコの保全のためのゾーニング．四国魚類研究会（高知県いの町).

田代優秋・佐藤陽一・岡部健士・鎌田磨人・上月康則（2008.3）徳島県におけるカワバタモロコの保全に向けたゾーンニングと“産官学と農家”による取り組み．第55回日本生態学会大会（福岡).

山田量崇（2007.4）東アジア産ハナカメムシ科の分類学的研究．研究集会「東アジア産カメムシ類の分類的研究の現状と展望」，(東京).

山田量崇・石川　忠*・W.Susila*・岡島秀治*(2007.9)インドネシアのヒメハナカメムシ族（カメムシ目：ハナカメムシ科)．日本昆虫学会第67回大会(神戸).

山田量崇（2007.9）スペシャリストからジェネラリストへ―学芸員への道―．日本昆虫学会第67回大会，昆虫分類学若手懇談会シンポジウム（神戸).

Yamada, K., T. Ishikawa*, K. Sumiartha*, W. Susila*, & S. Okajima*（2007.12）The flower bug tribe Oriini（Heteroptera : Anthocoridae）in Indonesia. ISSAAS International Congress, Faculty of Agriculture, Universiti Putra Malaysia（Malaysia).

山田量崇・小汐千春*・大原賢二（2008.2）徳島県における南方系の蛾３種について．日本鱗翅学会四国支部第13回例会，愛媛県科学総合博物館(新居浜).

●植物

小川　誠（2007.5）徳島県産植物に関する２～３の新知見，その４．四国植物研究会（香川).

藤田　卓*・小川　誠・勝山輝男*・角野康郎*・川窪伸光*・芹沢俊介*・高橋英樹*・高宮正之*・藤井伸二*・松田裕之*・宗田一男*・横田昌嗣*・米倉浩司*・矢原徹一*（2008.3）日本の絶滅危惧種の現状について減少要因としての食害．第55回日本生態学会（福岡).

●地学

石田啓祐*・西山賢一*・中尾賢一・元山茂樹*・高谷精二*・香西　武*・小澤大成*（2007.9）徳島県祖

谷川上流域の御荷鉾帯と秩父帯．日本地質学会第114年学術大会（北海道）．

辻野泰之（2007.6）高知県四万十市の上部白亜系佐田石灰岩からのオウムガイ類：*Aturoidea* の産出とその意義．日本古生物学会2007年年会（大阪市）．

Yasuyuki Tsujino (2007.9) *Aturoidea* (Nautilida) from Upper Cretaceous Sada Limestone in Shimanto City, Kochi Prefecture, Japan. Seventh International Symposium Cephalopods-Present&Past (Sapporo).

●考古

近藤　玲*・植地岳彦*・魚島純一（2007.6）徳島市下中筋遺跡から出土したガラス製勾玉の復元的研究．日本文化財科学会第24回大会（奈良市）．

魚島純一・森　清治*（2007.6）徳島県鳴門市所在ドイツ兵俘虜慰霊碑の応急的保存処理．文化財保存修復学会第29回大会（静岡市）．

魚島純一（2007.7）博物館における文化財保存―環境のコントロールによる文化財保存―．イカリクリンネス大学四国文化講座（四国中央市）．

魚島純一（2007.11）低酸素濃度処理法による博物館資料の生物被害防除．奈良大学保存科学研究会第10回記念研究会（奈良市）．

●歴史

長谷川賢二（2008.3）徳島県立博物館における常設展更新検討の経緯と課題；学生ボランティアとの協業によるキット開発．第４回四国ミュージアム研究会（徳島）．

●民俗

庄武憲子（2008.3）海部地方の盆棚．徳島民俗学会（徳島）．

磯本宏紀（2007.5）伊島潜水漁民の出稼ぎ・移住にともなうネットワークの展開．地方史協議会徳島例会（徳島）．

磯本宏紀（2007.10）伊島漁民による潜水技術の移動と出漁地における受容―受容すること・受容しないこと―．日本民俗学会年会（京都）．

磯本宏紀（2007.11）討論四国のからさお．パネル報告「徳島県のからさお概要」．近畿民具学会・日本民具学会・四国民具研究会合同研究会（徳島）．

磯本宏紀（2007.12）潜水器漁業の導入と朝鮮海出漁―徳島県伊島の事例―．九州大学韓国研究センター主催　国際研究集会2007「見る・学ぶ・暮らす―比較植民地学の樹立を目指して―」（福岡）．

●美術工芸

大橋俊雄（2007.11）京都藤重家の系譜．第31回漆工史学会総会（京都）．

Ⅲ　展示

博物館の展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていないことから、常設展の更新（リニューアル）が大きな課題となっている。しかし、厳しい財政状況のもとで、開館20周年が近づいているものの、事業化のめどは立っていない。

企画展は、専用の企画展示室を使って年３回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりの資料の展示など様々なテーマをおりまぜ、２、３年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。しかしながら、年々企画展予算が削減され、規模の大きな企画展の開催は難しくなっている。

１．常設展

⑴ 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の３つから構成されている。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の７つの大テーマにそって展示が展開されている。

１．日本列島と四国のおいたち
２．狩人たちの足跡
３．ムラからクニへ
４．古代・中世の阿波
５．藩政のもとで
６．近代の徳島
７．徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：焼物のうつりかわり／阿波の美術工芸／徳島の歴史・民俗資料　など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ　など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

メガテリウム全身骨格（レプリカ）
パノクツス全身骨格及び甲羅
マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
トクソドン全身骨格（レプリカ）
スミロドン全身骨格（レプリカ）
ヒッピディオン全身骨格（レプリカ）
ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

⑵ 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成19年度は次の展示を行った。

●牟岐大島の考古資料

前年度～４月１日(日)

牟岐大島で実施した課題調査の成果を紹介した。

●阿波古式打毬の道具と衣装

４月３日(火)～７月１日(日)

平成18年11月21日に県指定有形民俗文化財に指定された当館所蔵の阿波古式打毬の道具と衣装を通してうかがえる、阿波古式打毬の様相を紹介した。

●流通した民具

７月３日(火)～10月８日(月)

民具に記された墨書や焼印などに焦点を当てることで、使用されていた当時の状況を読み解くことのできる民具を紹介した。

●職人絵の世界

10月10日(水)～１月20日(日)

館蔵の中世・近世の職人尽絵をもとに、当時の社会的分業と身分について紹介した。

●レントゲンでのぞいた博物館の資料たち

１月22日(火)～３月30日(日)

これまでの博物館資料のＸ線透過撮影調査結果の一部を紹介するとともに、透過撮影以外へのＸ線の応用についても紹介した。

展示替え案内チラシ

⑶ トピックコーナーの展示替え

未公開資料の活用を中心として、常設展に変化をつけるため、ラプラタ記念ホール出口に展示ケースを設置してトピックコーナーとして、小展示を行っている。平成19年度は次の展示を行った。

●阿讃山脈から産出した和泉層群の化石

前年度～４月１日（日）

阿讃山脈から見つかったウミガメ類（オサガメ科）やアンモナイト、二枚貝、巻貝などの化石を紹介した。

●尾崎家資料―幕末・明治の阿波金工師―

４月３日（火）～５月13日（日）

幕末から明治にかけて活躍した金工師　尾崎保周（おざき・やすちか）が用いたデザイン集などを展示した（平成13年、尾崎家から寄贈されたもの）。

●海士の突き漁と水中銃

５月15日（火）～７月22日（日）

牟岐町で使用されていた突き漁漁具を紹介した。

●外来種の問題（哺乳類）

７月24日（火）～９月17日（日）

野生生物を減少・絶滅させる要因の一つとして外来種の問題がある。外来種のうち哺乳類に焦点を絞ってアライグマなど５種を紹介した。

●カメムシの世界

９月19日（火）～10月28日（日）

カメムシの多様で魅力的な世界について標本やパネルを用いて紹介した。

●徳島県のカエデ

10月30日（火）～12月９日（日）

紅葉の季節にちなんで、徳島県に生育するカエデ属の全種類を標本とパネルで紹介した。

●北上する昆虫たち

12月11日（火）～１月29日（火）

近年、徳島県で見られるようになった南方系の昆虫類について紹介した。

●銅鐸を復元する

１月30日（水）～３月30日（日）

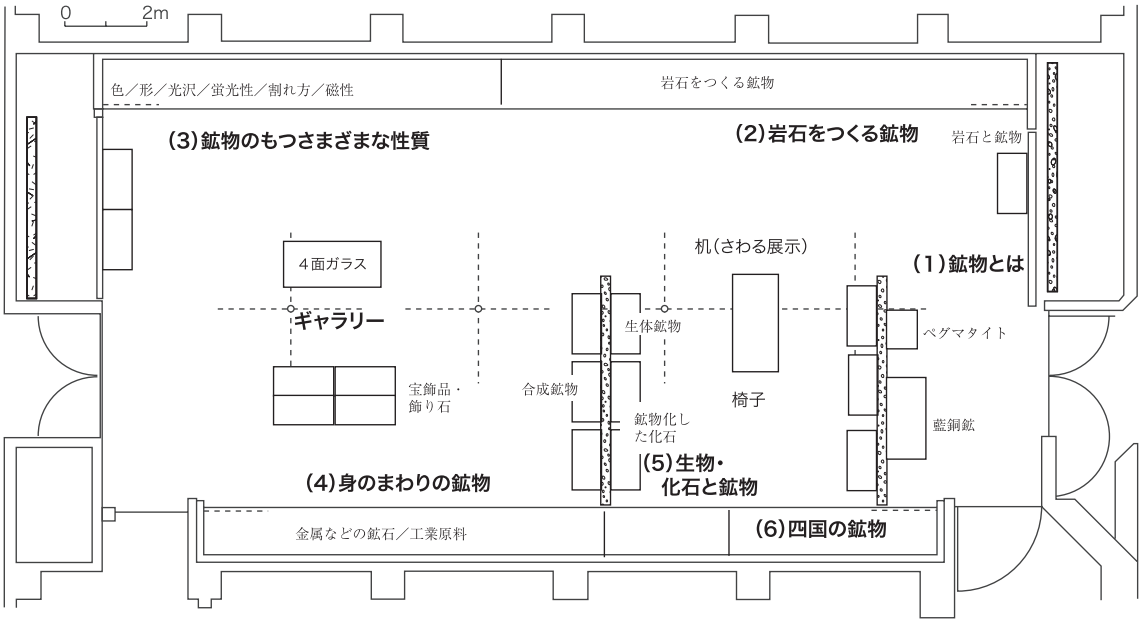
復元銅鐸製作関連資料により、銅鐸の製作技法や本来の姿を紹介した。

２．企画展

平成19年度は、次の３回の企画展を行った。

⑴ 第１回企画展「ミネラルズ―不思議な、きれいな、そして意外に身近な鉱物の世界―」

当館では、平成８年度に企画展「鉱物の世界」を開催した。当時は現在ほど鉱物が社会的に認知されていなかったが、近年の日本では良質の解説書や図鑑が普及し、ミネラルフェアなどの標本即売会なども開催されるようになったため、鉱物は化石と同程度に広く人



「ミネラルズ」展　配置図

気のあるジャンルとなっている。この企画展では、「鉱物の世界」で試みたコンセプトや展示手法をさらに発展させ、まずは自然の造形のおもしろさを感じてもらい、その上で岩石の構成要素、さまざまな性質、天然資源など、鉱物の持つさまざまな面を紹介した。

●**主催**　徳島県立博物館

●**期間**　平成18年４月27日(金)～６月３日(日)
(33日間)

「ミネラルズ」展　チラシ

●**会場**　博物館企画展示室

●**展示構成**

⑴鉱物とは
　岩石と鉱物／岩石をつくる鉱物

⑵鉱物のもつさまざまな性質
　色／形／光沢／蛍光性／硬さ／割れ方／磁性　その他

⑶身のまわりの鉱物
　金属などの鉱石／工業原料／宝飾品・飾り石／合成鉱物

⑷生物・化石と鉱物
　生物がつくる鉱物／鉱物化した化石

⑸四国の鉱物
　ギャラリー

●**展示資料点数**　665点

●**観覧料**　一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

●**期間中の観覧者数**　9,863人

●**展示解説**

第１回：４月29日(日) 14：00～14：30
　　参加者約100人

第２回：５月６日(日) 14：00～14：30
　　参加者209人

臨　時：６月３日（日）10：00～10：45
　　参加者52人

(2) 第２回企画展「世界の甲虫―石田コレクションのビートルズ―」

すべての生物の中で、もっとも種数の多いのは昆虫のなかまで、その種数は100万種とも150万種ともいわれる。その中でも、約40万種が知られ、形や色の多様性に富んでいるのが、甲虫（こうちゅう）のなかま（beetles　ビートルズ）である。

今回の企画展は、甲虫類に魅せられ、一生を甲虫類の研究に捧げられた故石田正明氏の７万個体にも及ぶコレクションの一部を紹介し、甲虫類の魅力を紹介した。

石田正明氏は、大正９年に京都府福知山市に生まれ、東京大学文学部教育学科を卒業後、昭和24年から同52年まで東京大学教育学部附属中学・高校教諭、その後平成５年まで東京経済大学教授を務め、同11年に逝去された。

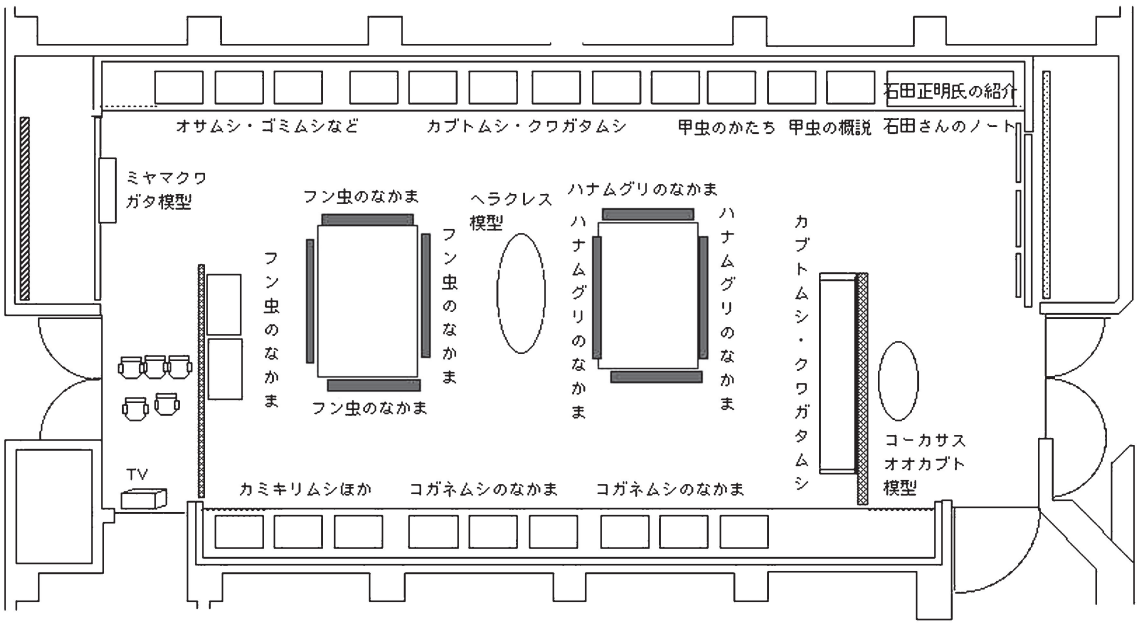
石田氏のおもな研究対象は、日本産のコガネムシのなかまであった。しかし、それだけにとどまらず、フンコロガシのなかまは特に多くの標本を集めていた。

「世界の昆虫」展　チラシ

また大型のカブトムシやクワガタムシなどもほとんどの地域のものが揃っており、これらのグループなどもかなり力を入れて集めていたようである。氏が集めたこれらの甲虫のいろいろなグループの世界各地の標本を用いて甲虫の色や形の多様さ、美しさを紹介した。

●**期間**　平成19年７月21日（土）～９月24日（日）

●**会場**　博物館企画展示室



「世界の昆虫」展　配置図

●展示構成

⑴甲虫類（鞘翅目）の分類学的位置づけ…甲虫類の系統関係や形の特徴などを紹介した。

・形態…形態学的な特徴の紹介

⑵世界の甲虫…石田正明氏が研究したさまざまな世界の甲虫達を紹介した。

・各分類群ごとの概要と標本展示

・カブトムシ、クワガタムシ

・フンを食べる虫たち　など

⑶トピックコーナー…甲虫の世界のおもしろいテーマを紹介した。

⑷大型模型で体のつくりを見てみよう…大きな模型を使って体のつくりを紹介した。

●展示資料点数　合計約60,000点

●観覧料　一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

●期間中の観覧者数　24,144人

●展示解説

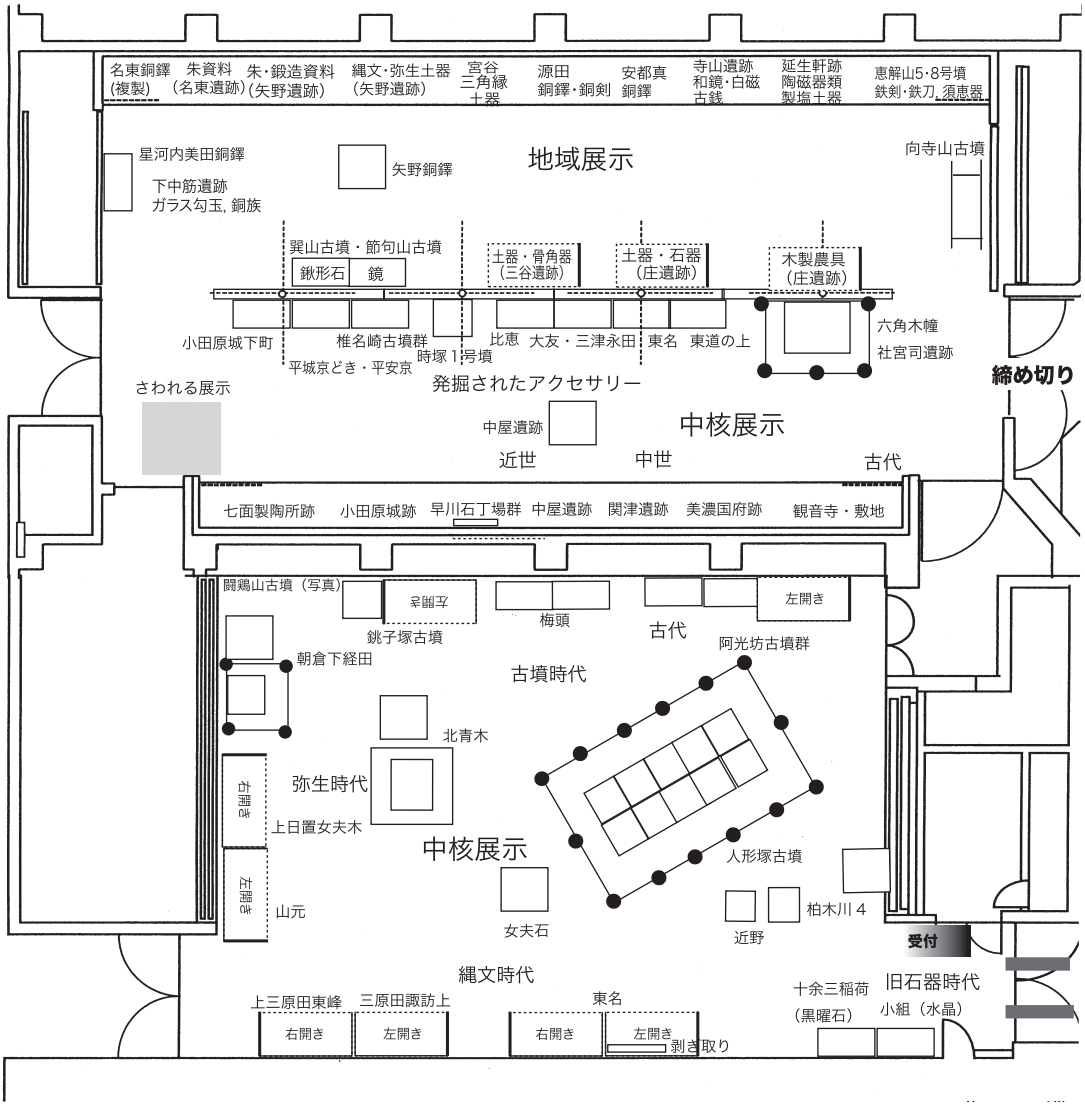
第１回：８月５日（日）14：00～14：30 参加者80人

第２回：８月19日（日）14：00～14：30 参加者68人

⑶ 第３回企画展「発掘された日本列島2007―新発見考古速報展―」

新発見考古速報展は文化庁の主催により、平成７年から行われており、日本列島各地で発掘された新たな資料が、毎年各地を巡回して紹介されてきた。当館では、平成11年にこの考古速報展を開催し、それから８年が経過した19年度に再度の開催となった。全国各地から出土した最新の代表的資料を目の当たりにでき、極めて有意義だった。

また、全国展示にあわせて、地域展示（開催地に関係した考古資料の展示）も行った。今回は、（財）徳島県埋蔵文化財センターの協力を得て、文化の森の周辺、園瀬川や鮎喰川流域など眉山周辺の遺跡群の調査



「発掘された日本列島2007」展　配置図

によって得られた出土資料を紹介した。

●**主催**　文化庁・徳島県立博物館
●**共催**　全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会・全国埋蔵文化財法人連絡協議会
●**特別協力**　朝日新聞社
●**協力**　(財)徳島県埋蔵文化財センター、インターネットミュージアム事務局
●**後援**　NHK
●**協賛**　(株)ジャパン通信情報センター、(株)東都文化財保存研究所
●**期間**　平成19年11月13日(火)～12月９日(日)(27日間)
●**会場**　博物館企画展示室・二十一世紀館多目的活動室
●**展示構成**
⑴全国展示
⑵地域展示　眉山周辺の遺跡群
●**展示資料数**　全国展示970点　地域展示220点
●**観覧料**　一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円
●**期間中の観覧者数**　4,256人
●**企画展関連行事**
①記念講演会
　日　時　11月18日(日)　13：30～15：00
　講　師　禰冝田佳男氏（文化庁記念物課調査官）
　演　題　ここが見どころ「発掘された日本列島2007」―銅鐸の謎を探る―
　会　場　文化の森・二十一世紀館イベントホール
　参加者　109名
②歴史体験「勾玉をつくろう」
　日　時　11月25日(日) 13：30～16：00
　　参加者　29名
③展示解説
　日　時　12月２日(日) 14：30～15：30
　　参加者　147名
④歴史体験「トンボ玉をつくろう」
　日　時　12月９日(日)　13：30～16：00
　　参加者　23名

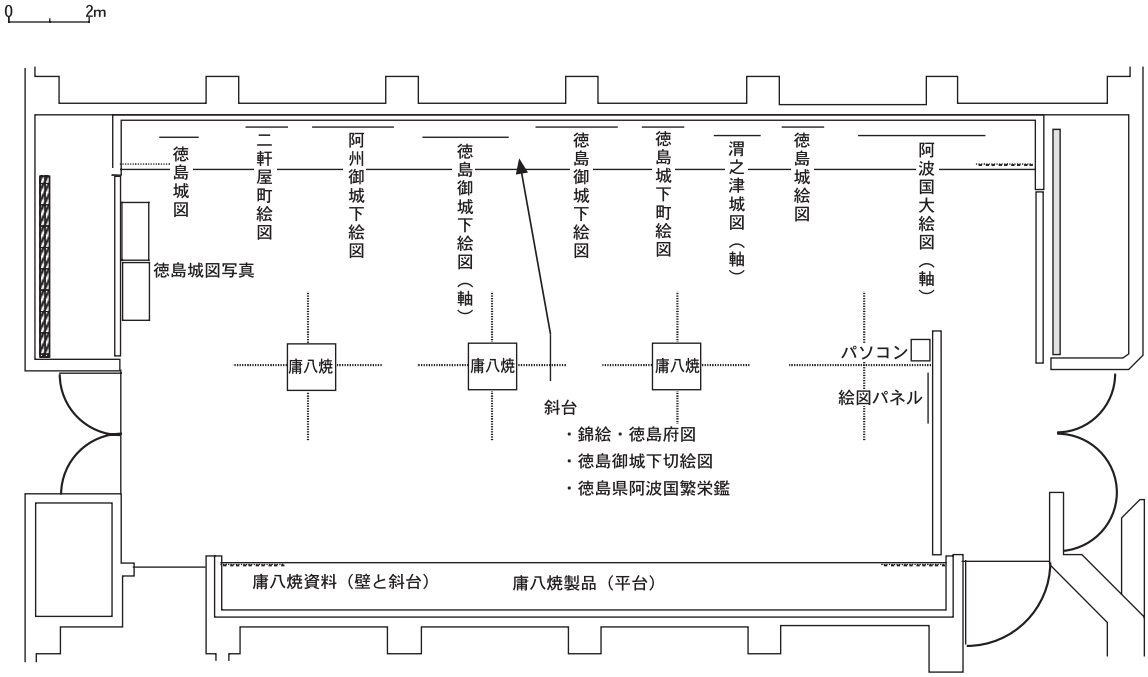
３．特別陳列

⑴ 徳島城下町の世界

徳島県教育委員会による阿波歴史体感ネットワーク「いにしえ夢街道」推進事業に協賛して開催した。館蔵の阿波国絵図、徳島城下町絵図、城下の二軒屋で焼かれた庸八焼など、これまで展示する機会の少なかった資料を公開した。

特別陳列「徳島城下町の世界」　チラシ

●**期間**　平成20年１月17日(木)～平成20年３月２日(日)(45日間)
●**会場**　博物館企画展示室
●**展示の構成とおもな資料**
⑴絵図をみる
　阿波国大絵図
　阿波国徳島城絵図
　渭津城絵図
　徳島城下絵図
　徳島御城下絵図
⑵街の陶匠　冨永庸八
　楽瓢花入
　寿老人置物
　蛙香合
　梅画水指
　富士画赤茶碗
⑶庸八の素顔
　庸八画　天神図
　守住貫魚画　焼物道具描留
　守住貫魚　和漢書目録
コラム：須木一胤、徳島城図をえがく
　　須木一胤画　旧徳島城図
　　一胤画徳島城図写真
　　徳島城風景写真



特別陳列「徳島城下町の世界」　配置図

●**展示資料数**　合計66点
●**観覧料**　無料
●**期間中の観覧者数**　5,168人
●**展示解説**
平成20年２月３日(日)　13：00～14：00
参加者41名

(2)　2007年度文化の森人権問題啓発展

文化の森５館と徳島県教育委員会（生涯学習政策課・人権教育課）との共催で、人権問題啓発展（識字学級生の作品展）を行った。

●**主催**　文化の森５館・徳島県教育委員会
●**期間**　平成19年12月４日(火)～９日(日)
●**入場者数**　589人

４．企画展示室の会場提供

(1) 第22回国民文化祭

第22回国民文化祭（国文祭）が平成19年10月27日～11月４日の会期で開催され、文化の森（博物館・美術館・二十一世紀館）は美術展の会場となった。博物館では、企画展示室を美術工芸部門の展示室として提供した。

会期中、延べ71,244人の入場者があった。

５．館外での展示

(1) 展示パッケージの貸し出し

県内博物館の支援及び収蔵資料の展示機会の増加を図るため、展示パッケージ（テーマに応じた展示資料及びパネル、ラベルのセット）の貸し出しを行っている。19年度には、県内博物館施設のほか、市町村教育委員会等に貸し出しの案内チラシを配布し、活用の促進を図った。

19年度の貸し出し実績は、次のとおりである（パッケージ名称、貸し出し先、期間の順に記載）。

・徳島大空襲(徳島県立あすたむらんど子ども科学館)
　平成19年６月26日～平成19年９月12日
・徳島大空襲（徳島県立人権教育啓発推進センター）
　平成19年６月27日～平成19年７月31日
・全国銘菓の由来（阿波市立阿波図書館）
　平成19年８月31日～平成19年10月24日

(2) 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、展示パッケージの貸し出しとあわせて、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。19年度は、次のような実績があった。

■**移動展「牟岐大島の考古資料」**
●**主催**　牟岐町教育委員会・牟岐町文化財保護審議会・徳島県立博物館
●**会期**　平成19年４月26日(木)～５月15日(火)

●会場　牟岐町海の文化センター
●展示品　牟岐大島で採集した陶磁器及び瓦
●入場者数　353人

■移動展「阿波の板碑」
●主催　阿南市立阿波公方・民俗資料館・徳島県立博物館
●会期　平成19年６月５日(火)～７月22日(日)
●会場　阿南市立阿波公方・民俗資料館
●展示品　板碑の拓本及び写真
●入場者数　197人

■移動展「中世阿波の板碑」
●主催　藍住町歴史館・藍の館・徳島県立博物館
●会期　平成19年８月２日(木)～８月27日(月)
●会場　藍住町歴史館・藍の館
●展示品　板碑の拓本及び写真
●入場者数　4,540人

■移動展「くらしの中の藍染め」
●主催　徳島県立博物館
●共催　東かがわ市教育委員会
●会期　平成19年10月20日(土)～11月18日(日)
●会場　東かがわ市歴史民俗資料館
●展示品　藍染織品
●入場者数　291人

(3) 共催展

徳島県教育委員会による阿波歴史体感ネットワーク「いにしえ夢街道」推進事業「室町ロマンから藩政へのみち」のメイン事業である展示「天正の落日と曙光―守護町勝瑞から城下町徳島へ」の企画検討に参画し、当館からも資料を出品した。

■特別企画展「天正の落日と曙光―守護町勝瑞から城下町徳島へ」
●主催　徳島県教育委員会・徳島県立博物館・徳島市教育委員会・徳島市立徳島城博物館・藍住町教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター
●共催　徳島大学埋蔵文化財調査室
●後援　文化庁
●会期　平成19年12月４日(火)～平成20年１月27日(日)
●会場　徳島市立徳島城博物館
●入場者数　4,021人

6．常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

(1) 常設展更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめどに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館５年目にあたる平成７年度から９年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった（年報７号参照）。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアル・オープンする計画で、事業規模を縮小した基本計画案の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。

開館20年（22年度）が近づくが、厳しい財政状況のもとで、やはり常設展更新の実現可能性は乏しいが、できるだけ早い時期での更新が実現するよう、望ましい展示のあり方を絶えず検討することが求められる。19年度は、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を議論し、新たな基本計画案をまとめる作業を行った。今回策定した基本計画案は本章末(p. 25）に掲げるとおりである。

また、最近開館した博物館や展示のリニューアルを行った館に対する調査も継続してきており、19年度には次の調査を行った。

・島根県立古代出雲歴史博物館：新設館の展示状況の調査

(2) 常設展の活性化に向けての取り組み

常設展の全面更新が困難な状況にあることから、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを進めている。

しかし、購入による資料収集ができなくなっていることから、テーマ性をもったコレクションづくりが困難になっているため、展示替えを継続していくことも容易ではない。そのため、トピックコーナーや部門展示（人文）の運営を大幅に見直していくことも視野に入れた検討を始めた。

19年度の取り組みは、次のようなものである。

①トピックコーナーの展示替えの周知
　トピックコーナーは小規模だが、展示替えを広く伝えるため、資料提供や文化の森内の案内掲示に努めた。

②部門展示（人文）の計画的運営と広報
　年度当初に年間展示替え計画を明確にし、案内チラシを配布して広報に努めた。

③展示解説の促進
・部門展示（人文）における展示解説

「阿波古式打毬の道具と衣装」「職人絵の世界」で展示解説を実施した。

・「びっくり箱」を使用した展示解説や体験活動を行った。

・常設展示室内数箇所で、手作りのセルフガイドを設置・配布した。

④部門展示（人文）、トピックコーナーの活用

展示替えしたコーナーに関する内容を、定例のクイズラリーの設問に取り入れた。

7．展示関係出版物

■企画展図録・解説書

●第１回企画展解説書「ミネラルズ―きれいな、不思議な、そして意外に身近な鉱物の世界―」

2006年４月27日発行、Ａ４判48ページ（全カラーページ）、700部＋友の会増刷300部

■企画展パンフレット

●第２回企画展「世界の甲虫―石田コレクションのビートルズ―」パンフレット

2006年７月21日発行、Ａ４判２ページ（全カラーページ）、10,000部

●第３回企画展「発掘された日本列島2007―新発見考古速報展―　地域展示」パンフレット「眉山周辺の遺跡群」

2006年11月12日発行、Ａ４判６ページ（全カラーページ）、5,000部

常設展更新基本計画（案）

平成20年１月

徳島県立博物館

1　趣　旨

徳島県立博物館は平成２年11月３日に開館し、現在、開館から18年目に入っている。この間、90数万人の常設展観覧者を迎え、徳島県の中核博物館としての役割を果たしてきた。しかしながら、ここ数年は、観覧者が年間３～４万人程度で推移しており、部分的な展示替えなどによる一定の努力を重ねているにもかかわらず、「いつ行っても変わらない展示」とみられていることは否めず、常設展の全体的な新鮮さが保てなくなってきているのが実状である。

そこで、これまでの調査研究・資料収集活動の成果、各種の展示・普及教育活動の経験、最近の各地の博物館の展示傾向等をふまえ、県民に親しまれる博物館としての性格をより打ち出す方向で、全面的な常設展の更新（リニューアル）を目指すこととし、本計画（案）を作成した。

（※）　当館では、開館10周年（平成12年）を目処とした更新に向けて、平成７～９年の間、検討を重ね、常設展更新基本計画（案）を作成した。だが、更新が実現しなかったため、開館15周年（平成17年）における更新などを目指し、数度にわたって基本計画（案）を改訂しながら実現のタイミングを狙ってきたが、見通しが得られないまま今日に至っている。

この間、財政状況や当館の力量（学芸員の退職補充がなされていないことや、資料収集予算の減少と実質的な凍結などによる総体的な力量低下が生じている）、全国の博物館展示の動向、社会意識等が大きく変化しており、それらを踏まえると、もはや平成９年の段階に基礎を置く基本計画（案）は、現実的ではないと判断できる。そこで新たに全面的な検討を経てまとめたのが本計画（案）である。

2　常設展の更新の必要性

⑴ 実施設計からの年数の経過

現在の常設展は平成２年11月の一般公開ではあるが、内容は昭和59～61年度の資料収集展示委員会における討議に基づき、61年度に実施設計が行われたもので、基本的にはおよそ20年前の学問水準に基づく展示である。当時は学芸員が３、４名しかおらず、限られた主体的力量で作られた展示といえる。

⑵ 資料収集展示委員会の提言

「徳島県立博物館資料収集展示委員会のまとめと提言」（平成２年５月）では、「博物館の展示は、常設展示といえども一度できたらおしまいというものではなく、…（中略）…少なくとも10年をめどに、展示テーマの組み替えを伴う大幅な展示更新を行うよう要望する」と述べられている。

⑶ 開館以来の調査研究・資料収集活動の蓄積

開館以来、学芸スタッフによる調査研究活動や、種々の企画展の取り組み等により、県内の自然・歴史・文化に関する知見も増し、収蔵資料も大幅に増えた（平成２年12月末71,262点、18年度末471,746点）。これらの成果を常設展にも盛り込むことで、より広く深い内容を展開することが望まれる。

⑷ 最近の全国の博物館における展示動向

かつての常設展は、一方的に「見せる」かたちをとるところが多かったが、近年は利用者による調査成果を反映させたり、ハンズオンの導入により資料を身近に感じてもらう工夫をしたりするなど、多様な参加体

験的要素を導入する館が増えている。また、バブル期に流行した大規模造作物により圧倒するような展示よりは、豊富な資料に出会うことで学びのきっかけを得る場としての展示の意義が見直されていることにも留意したい。

⑸ 入館者（観覧者）の動向

博物館の常設展観覧者は、平成18年３月末で累計939,244人となった。しかしながら、平成３年度の年間137,117人をピークに減少傾向が続いたが、近年は３万人台後半～４万人前後で安定している。統計を検討すると、企画展の動員力や閑散期のイベント開催などに依存しているところが大きいことが分かり、部分的な手直しやPRの努力にもかかわらず、常設展が全体的な新鮮さを保てなくなっているためであると考えられる。

⑹ アンケート調査における意見

これまでたびたび行ってきた常設展示室等における利用者調査によると、「固定化していてかわりばえがしない」という意見が多数見られる。また、部門展示室（人文）やトピックコーナーなどといった常設展示室内の展示替えが、リピーターには一定の認知がなされているが、認知度と満足度が相関しておらず、部分的な展示替えでは、利用者のニーズに応えられないことがうかがえる。

3　常設展の現状と問題点

⑴ 現行の常設展の概要

現在の常設展は、総合展示・部門展示・ラプラタ記念ホールから構成されている。

●総合展示：「徳島の自然と歴史」の総合テーマのもと、７つの大テーマで構成。内容は次の３つに区分できる。

ａ．四国島の成立を中心とする地史を扱う「日本列島と四国のおいたち」

ｂ．人類の登場以降の歴史と文化を扱う通史展示「狩人たちの足跡」「ムラからクニへ」「古代・中世の阿波」「藩政のもとで」「近代の徳島」

ｃ．空間別（山地・吉野川流域・海）の生物と民俗を扱う「徳島の自然とくらし」

●部門展示：総合展示を補うための分野ごとの個別展示や分類展示。

●ラプラタ記念ホール：ラプラタ大学附属博物館から寄贈された南アメリカ特有の哺乳類化石を展示。

⑵ 特色の不明確さ

現行展示においては、全体を通じて、特色があまり明瞭ではない。とくに人文系では焦点が絞りきれていない憾みがある。地域の生活文化を扱い、とくに資料の蓄積が増した民俗分野の展示の拡充を機軸にしつつ、生活史重視の地域史展示をつくりあげるなどの工夫が必要である。ラプラタ記念ホールのような全国的に誇れる展示資料もあるものの、その性格づけがあいまいなのも惜しまれる。

⑶ 発見や学びを導く工夫の不足

博物館の展示には、新しい知識の獲得のきっかけとなることが期待される側面があるが、現在は概して資料数が少なく、発見の仕掛けとしては弱い。おもに自然史系を中心として、多種多様な資料を公開し、博物館特有のモノ（資料）を介した発見や学びの喜びを伝える取り組み、参加体験型要素の増加などが求められる。

4　常設展更新の基本方向

⑴ モノ（資料）が語る展示

博物館が他の社会教育機関や研究機関と大きく異なる点は、学術的背景をもってモノ（資料）を収集し、コレクションを形成することである。同時に、利用者に提供すべき展示も、コレクションの公開が原則といえる。当館の過去17年にわたる蓄積をもとに、モノにこだわった展示を展開することで、地域の多様な自然・文化資産に学ぶ場としたい。

⑵ 地域の特色を解き明かす展示

「徳島」という土地の特色を人文系・自然史の各分野による、それぞれのアプローチから提示する展示としたい。大まかには、地学、人文系、動物・植物の３ブロックから構成する総合展示を中心とする。

⑶ 学習に活用しやすく、馴染みやすい展示

当館の展示は、県民の日常的な利用を念頭に置いてつくられており、遠足や余暇の楽しみなどに利用されている。一方で、夏の阿波おどり期間などを中心に、県外からの観光・帰省客も多い。そうした利用を踏まえると、誰もが馴染みやすい展示構成をとる必要があり、時間軸に沿った通史的構成を基本として考え、時代区分の基準などは、地域レベルでの特色を考慮して設定することとしたい。

⑷ 展示替えが容易で、誰にもやさしい展示室

現在の展示では、展示替えをしてもあまり目立たないし、小規模な展示替えスペースがなく、かなりの資料がないとテーマをもった展示がむずかしい。また、ハードの設計が古く、展示ケースの構造など、障害者への配慮に欠けている。展示ケースの新設部分などで、こうした問題を多少なりとも改善し、快適な空間づくりに努めたい。

⑸ 参加体験型要素の追求

展示室では、資料そのものを見る楽しみだけでなく、資料をより身近に感じてもらうための楽しみ方の創出も必要である。各地で行われているハンズオンの事例に学びながら、新たな参加体験型要素の導入を図るとともに、県民による調査成果を展示に取りこめるような、「利用者とともに創る展示」を考えていきたい。

次期常設展テーマ一覧

●総合展示「徳島の自然と歴史」

大テーマ	中テーマ	小テーマ	内　　容	備考
地球の誕生と生命の進化	地球の誕生		隕石、アカスタ片麻岩	
	古生代の生物		エディアカラ生物群、SSF、澄江動物群、三葉虫、紡錘虫、徳島県と四国の古生代化石	
	中生代の生物		恐竜、魚竜、アンモナイト、三角貝など、徳島県と四国の中生代化石	
	新生代の生物		ビカリア、パレオパラドキシア、徳島県と四国の新生代化石	
第四紀の自然環境と人間	氷期の生物と旧石器人		ナウマンゾウ、トウキョウホタテ、旧石器(石材の流通)など	
	縄文海進と徳島平野の形成		貝化石、縄文土器、縄文海進高頂期の古地理図	
	活断層と地震活動		パネル、実体鏡、断層破砕岩	
クニの誕生とくらし（弥生・古墳）	弥生のムラ	米づくり		
		辰砂の採掘		
	銅鐸			
	クニと古墳			
律令制とくらし（古代）	律令国家の支配と生活	地方制度の整備	地方編成と古代氏族、戸籍、徴税、条里制	
		神と仏	寺院、延喜式	
	都への道		特産物、官人	
動乱とくらし（中世）	荘園公領と生活	交流と生活	列島内外の交流・交易 日常生活（生産など） 分業の発達（職人）	
		祈りの世界	経塚、板碑、写経 寺社参詣、聖の旅	
	戦うさむらい		剣山系の国人・土豪 細川・三好、長宗我部 阿波公方	
藩政とくらし（近世）	徳島城と城下町			
	海の道・陸の道		交通・経済の発達 大名、商人、民衆の旅	
	近世の文化		美術資料（絵画、陶磁器）	展示替えコーナー
激変する社会とくらし（近現代）	近代の社会と生活	維新変革と徳島	徳島県の誕生	
		生活の諸相	公害、部落差別も含む	
	戦争と生活	戦時体制と民衆		
		徳島空襲		
	復興から現代への道のり		生活の変化	
徳島の風物	くらしぶり（生産・生業）	藍		陸（畑）
		漁撈		海、川
		木地		山
	芸能とまつり	人形浄瑠璃		
		門付け芸		
		祭礼		

徳島の自然	山		剣山周辺標本、亜高山帯植物レプリカ、シコクシラベ他、剣山周辺ジオラマ	
	川		平野＋川の生物、水草、田畑の生物、渓流沿い植物	
	（里山？）		（照葉樹林の生物？）（暖温帯下部？）	
	海		海中ジオラマ、干潟ジオラマ、魚	干潟は川でも可
	絶滅危惧種		各種標本あり　タヌキノショクダイ等	

●部門展示（自然）

大テーマ	中テーマ	小テーマ	内　　容	備考
四国の地質	領家帯		花崗岩、和泉層群の化石、サヌカイト	
	三波川帯とみかぶ帯		結晶片岩類、キースラガー、緑色岩、エクロジャイト	
	秩父帯		黒瀬川古期岩類、紡錘虫石灰岩、放散虫電顕写真など	
	四万十帯		生痕化石、はんれい岩、チャートなど	
分類＋形態	脊椎動物			
	無脊椎動物			
	植物			
生態	脊椎動物			
	無脊椎動物			
	植物			

●トピック展示

大テーマ	中テーマ	小テーマ	内　　容	備考
（随時展示替え）			人文系大型資料の展示 分野を限定しないで展示替えにあてる（企画展に準じた位置付け）	

●ラプラタ記念ホール

大テーマ	中テーマ	小テーマ	内　　容	備考
（現状維持）			スペースの利用の仕方には工夫が必要	

Ⅳ　普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成19年度は台風の影響による中止などが５回あり、年間61回の普及行事実施となった（他にクイズラリーを24回を行った）。

普及行事は県民のあいだにかなり定着してきてはいるが、やはり参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。そのため、歴史散歩、野外自然かんさつ、移動講座等において、郡部での開催を増やすなどさらに工夫する必要があると考える。

徳島市以外での行事に対しては、地元やその近隣の町からの参加者の割合が増えるが、徳島市、鳴門市、板野郡からの参加者も多い。今後、広報の仕方等、さらに工夫が必要である。

１．普及行事

■歴史体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

６月10日（日）	トンボ玉をつくろう①	17人
６月17日（日）	トコロテンをつくろう②	14人
７月22日（日）	火おこし①	28人
８月26日（日）	勾玉をつくろう①	50人
９月９日（日）	土器づくり①	24人
10月７日（日）	土器づくり②	22人
10月14日（日）	火おこし②	21人
11月25日（日）	勾玉をつくろう②	29人
12月９日（日）	トンボ玉をつくろう②	23人
１月20日（日）	ベーゴマをまわしてみよう	31人
２月３日（日）	七輪で鍛冶ごっこ	15人
２月17日（日）	古代の乳製品をつくろう	５人

■歴史散歩

県内の主な遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

５月13日（日）	トコロテンをつくろう①（出羽島を歩こう）	35人
５月20日（日）	古墳見学①	47人
12月９日（日）	眉山山麓寺社めぐり	24人
12月16日（日）	縄文の谷ハイキング	18人
３月16日（日）	古墳見学②	34人
３月30日（日）	伊島を歩こう	雨天中止

■野外自然かんさつ

野外に出かけて行う、季節に応じた動植物の観察や地質の見学会。19年度は文化の森周辺のほか、徳島市、鳴門市、阿南市、上勝町、美波町、海陽町、四国中央市、まんのう町などで実施した。

５月20日（日）	磯のいきもの	60人
５月27日（日）	浜辺の植物かんさつ	10人
６月３日（日）	鳴門の地層見学	20人
７月８日（日）	貝化石を調べよう①	中止
７月15日（日）	川魚かんさつ	中止
７月29日（日）	漂着物を探そう！	41人
８月４日（土）	水生昆虫の観察	中止
８月５日（日）	セミの抜け殻を調べよう	31人
８月５日（日）	地質ハイキング？　上勝編	30人
９月８日（土）	鳴く虫の観察	20人
９月９日（日）	河口の生きもの	35人
９月16日（日）	ざくろ石を探そう！	10人
10月７日（日）	アサギマダラを探そう	16人
10月14日（日）	白亜紀の地層見学	９人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察会、講習会。内容に応じて実体顕微鏡、電子顕微鏡等の機器も併用して観察を行っている。

「標本の名前を調べる会」は、毎年８月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか７名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけにならないで、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

４月22日（日）	春の野草かんさつ	19人
５月20日（日）	木の葉化石の発掘体験①	30人
７月15日（日）	貝化石を調べよう②	19人
７月29日（日）	化石のレプリカをつくろう	31人
８月22日（水）	標本の名前を調べる会	52人
９月30日（日）	ミクロの世界―電子顕微鏡で植物を見よう①	18人
10月28日（日）	秋の野草かんさつ	15人
12月２日（日）	木の葉化石の発掘体験②	33人

1月27日(日)　ミクロの世界―電子顕微鏡で昆虫を見よう①　8人
2月10日(日)　アンモナイト標本をつくろう　36人
2月17日(日)　ミクロの世界―電子顕微鏡で植物を見よう②　19人
3月2日(日)　ミクロの世界―電子顕微鏡で昆虫を見よう②　中止

■みどりの工作隊

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習。

7月22日(日)　押し花カルタで遊ぼう　10人
8月19日(日)　葉っぱのスタンプをつくろう　27人
11月11日(日)　どんぐりごまとウツギの笛を作ろう　16人
12月16日(日)　リースを作ろう　44人

■ミュージアムトーク

土曜日の午後に、学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。申し込み不要・定員先着50名。

6月30日(土)　絶滅危惧種カワバタモロコ　10人
9月8日(土)　みやびの世界―阿波のやまと絵画家―　6人
1月19日(土)　写経が語る中世の世界　15人

■歴史文化講座（移動講座）

移動博物館の試みとして行っているもので、学芸員が講師をつとめ、館外の社会教育施設と共催で行う講座。19年度は5～7月に阿波海南文化村で実施した。

5月27日(日)　牟岐大島の歴史　32人
6月24日(日)　災害から文化財をまもる　15人
7月22日(日)　移住した漁民の話　24人

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「ミネラルズ」展示解説
第1回：4月29日(日)　参加者　100人
第2回：5月6日(日)　参加者　209人

●企画展「世界の甲虫」展示解説
第1回：8月5日(日)　参加者　80人
第2回：8月19日(日)　参加者　68人

●企画展「発掘された日本列島2007―新発見考古速報展―」関連行事
11月18日(日)　記念講演会　109人

●企画展「発掘された日本列島2007―新発見考古速報展―」展示解説

発掘された日本列島展示解説

12月2日(日)　参加者　147人

●特別陳列「徳島城下町の世界」展示解説
2月3日(日)　参加者　41人

●部門展示「阿波古式打毬の道具と衣装」展示解説
4月15日(日)　参加者　3人

●部門展示「職人絵の世界」展示解説
第1回：10月21日(日)　参加者　10人
第2回：12月2日(日)　参加者　18人

■クイズラリー

毎月第2・第4土曜日に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に始めたもので、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に記念品を贈呈している。

4月14日(土)　69人（小　65・中4・高0）
4月28日(土)　62人（小　57・中5・高0）
5月12日(土)　75人（小　74・中1・高0）
5月26日(土)　70人（小　67・中3・高0）
6月9日(土)　152人（小 150・中2・高0）
6月23日(土)　139人（小 137・中1・高1）
7月14日(土)　11人（小　10・中1・高0）　台風の影響
7月28日(土)　157人（小 150・中2・高5）
8月11日(土)　136人（小 134・中2・高0）
8月25日(土)　113人（小 105・中8・高0）
9月8日(土)　111人（小 110・中1・高0）
9月22日(土)　91人（小　89・中2・高0）
10月13日(土)　71人（小　71・中0・高0）
10月27日(土)　96人（小　96・中0・高0）
11月10日(土)　92人（小　92・中0・高0）
11月24日(土)　102人（小　99・中3・高0）
12月8日(土)　93人（小　93・中0・高0）

12月22日（土）	63人（小　63・中０・高０）
１月12日（土）	64人（小　62・中２・高０）
１月26日（土）	113人（小 110・中３・高０）
２月９日（土）	77人（小　77・中０・高０）
２月23日（土）	105人（小 105・中０・高０）
３月８日（土）	100人（小　99・中１・高０）
３月22日（土）	75人（小　73・中０・高２）
参加者合計	2,237人（小2188・中41・高８）

■その他の普及行事

●博物館こどもの日フェスティバル　　５月５日（土）

小中学生を対象にクイズラリーを実施した。また、体験コーナーとして、「米つきや粉ひきをしてみよう」「シカ皮でつくった衣服を着てみよう」「化石のレプリカをつくってみよう」「昆虫のからだや花のつくりを顕微鏡で見てみよう」を行った。クイズラリーに参加した子どもたちには記念品を贈呈した。

参加者：778人

●夜の博物館　ドキドキ体験ツアー　　８月４日（土）

夜間の常設展示室と考古収蔵庫、企画展示室を解説付きで見学した。常設展示室では、チラノサウルスの頭部を間近に観察できるようにしたり、夏の昆虫や植物についての解説を行ったりした。

参加者：46人

●準昆虫分類学者養成講座ジュニア

８月７日（火）・８日（水）

昆虫の採集法や標本の作り方などを、北海道大学と伊丹市昆虫館などの講師に学び、身につけることをめざして実施した。

参加者：15名

●博物館文化の日フェスティバル　　11月３日（土）

幼児から小中学生を対象に、クイズラリーを実施した。また、体験コーナーとして、「土器パズル」「かんたん拓本」「古代の衣服」「動物標本タッチング」「ミクロの博物館」「化石標本クリーニング」を行った。クイズラリーに参加した子どもたちには記念品を贈呈した。

参加者：982人

●博物館Ｖキング　　２月11日（月）

平成19年度文化庁芸術拠点形成事業「ヤングボランティアとの協働による体験キット開発事業」によって、博物館ボランティアのメンバーが中心となって企画した体験キットのワークショップをイベントとして行った。内容は次のとおり。「どんな顔になるKASHIRA」（人形頭をモチーフにした福笑いゲーム）、「かたどって似たものさがし」（展示資料の模型の型どり）「スタンプで展示づくり」（スタンプラリーでオリジナルの展示室のレイアウト）「徳島城へようこそ」（徳島城鷲の門をイメージしたポップアップカードづくり）。

「博物館Ｖキング」　チラシ

参加者：1,313人

２．学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって遠足での博物館見学以外にも様々な活用ができる場であるはずである。また、教育改革に伴う学校完全週５日制や「総合的な学習の時間」とも関連し、博物館等の社会教育機関に対して積極的な学校教育への支援が要請されるようになった。

当館でも、平成12～13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携のあり方等について模索した。それを踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣（出前授業）、学校への博物館資料の貸出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ案内パンフレットなどを配布することにより博物館の学校教育支援事業が周知されつつあり、利用が増えている。

(1) 学校の授業での博物館利用への支援

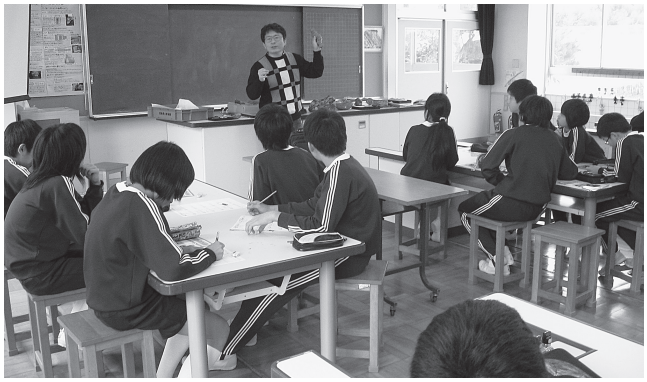
理科や社会科の授業や「総合的な学習の時間」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えてきた。受け入れに当たっては、展示資料だけでなく、必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言したりするなどの支援を行った。

①淡路市立生穂第一小学校　5月10日(木)
　5年生　21名
　化石のレプリカ　辻野
②淡路市立生穂第一小学校　5月10日(木)
　6年生　21名
　火おこし　魚島
③城ノ内中学校　8月17日(金)
　1～3年生　19名
　トンボ玉製作　魚島
④一宮小学校　9月12日(水)
　4年生　15名
　昔のくらし　庄武
⑤八万南小学校　9月20日(木)
　4年生　103名
　昔のくらし　庄武
⑥日和佐小学校　10月11日(木)
　6年生　27名
　火おこし　魚島
⑦一条小学校　11月13日(火)
　6年生　38名
　大地のつくり　辻野

3館授業「昔のくらし」

(2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

学校からの依頼に応じて、学校での授業に学芸員を派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。


出前授業「化石」

①加茂名小学校（徳島市）　5月9日(水)
　6年生　81名
　火おこし（講師：魚島）
②一宮小学校（徳島市）　5月14日(月)
　1～6年生　97名
　水辺教室（水生生物観察会）（講師：大原・山田）
③林崎小学校（鳴門市）　6月22日(金)
　4年生　73名
　磯の生き物観察事前学習（講師：佐藤）
④林崎小学校（鳴門市）　6月28日(木)
　4年生　73名
　鳴門の浜の植物（講師：茨木）
⑤林崎小学校（鳴門市）　7月3日(火)
　4年生　73名
　磯の生き物観察（講師：佐藤）
⑥大松小学校（徳島市）　7月17日(火)
　5年生　57名
　校庭の草木について（講師：小川）
⑦大松小学校（徳島市）　8月8日(水)
　5年生　57名
　学校付近の植物について（講師：小川）
⑧鴨島小学校（吉野川市）　9月18日(火)
　4年生　80名
　昔のくらし（講師：磯本）
⑨新野西小学校（阿南市）　10月16日(火)
　1～6年生　6名
　オヤニラミの放流について（講師：佐藤）
⑩大松小学校（徳島市）　11月7日(水)
　5年生　28名
　学校付近の用水路の魚観察（講師：佐藤）
⑪大松小学校（徳島市）　11月13日(火)
　5年生　54名
　徳島市の絶滅危惧種について（講師：佐藤）
⑫川内北小学校（徳島市）　11月28日(水)
　6年生　113人
　大地のつくり（講師：中尾・辻野）

⑬橘小学校（阿南市）　11月29日（木）
　６年生　28人
　大地をさぐる（講師：中尾）
⑭富岡小学校（阿南市）　12月14日（金）
　４年生　123名
　昔のくらし（講師：磯本）

(3) 博物館資料の学校への貸出し

小・中・高校の授業等で活用してもらうため、平成10年度から博物館資料の学校への貸出しを行っている。学校貸出用資料リストを学校に配布して利用を呼びかけているが、まだ利用は少ない。

貸出用資料の一層の利用促進を図るため、平成15年度末に学校貸出用資料解説シートを印刷し、小中学校および高校に配布した。また、来館した教職員には、必要に応じて解説シートを配布し利用を勧めた。

①北島中学校（北島町）　５月２日～12日
　貸出資料：石鏃・トロトロ石器・復元青銅器・ナウマンゾウ化石複製
　利用目的：社会科
②徳島北高校（徳島市）　６月２日～７月４日
　貸出資料：徳島空襲関係資料
　利用目的：LHR（人権）
③徳島県立牟岐少年自然の家　８月10日～８月27日
　貸出資料：火おこし道具15組
　利用目的：自然の家体験活動
④城東高校（徳島市）　８月21日～９月２日
　貸出資料：徳島空襲関係資料
　利用目的：
⑤岡山市立操山中学校（岡山県）10月５日～11月30日
　貸出資料：飛ぶ種子ほか、種子・果実類
　利用目的：理科（中四国理科研）
⑥渋野小学校（徳島市）　10月25日～11月２日
　貸出資料：ナウマンゾウ臼歯レプリカ・勝浦川流域白亜紀化石・アンモナイト・三葉虫
　利用目的：理科
⑦千松小学校（徳島市）　11月２日～14日
　貸出資料：コダイアマモ・アンモナイト・三葉虫・勝浦産植物化石・香川産異常アンモナイト・岡山県産二枚貝（モノチス）化石
　利用目的：理科
⑧小松島中学校（小松島市）　２月７日～19日
　貸出資料：徳島空襲関係資料
　利用目的：総合（平和学習）

(4) 職場体験の受け入れ

中学校・高校での職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

①八万中学校　７月10日～11日　５名
　資料の計測（美術工芸）、化石標本の作製（地学）、八万町の昔探し（民俗）、植物標本の画像入力（植物）
②徳島工業高校　９月25日～26日　２名
　博物館の概要説明・施設案内、歴史資料整理、資料のＸ線撮影、脊椎動物資料の整理

(5) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、教員対象の研修会を実施し、当館職員が指導に当たった。

①平成19年度教職10年経験者研修
　○７月31日（火）　参加者26名
　　・歩いて地図づくり（講師：辻野）
　　・道ばたの植物観察（講師：茨木）
　○８月１日（水）　参加者17名
　　・石器づくり（講師：高島）
　　・粉ひきとだんごづくり（講師：庄武）
　○８月２日（木）　参加者12名
　　・八万町石造物ウオッチング（講師：磯本）
　　・歴史・美術品等資料の取り扱い方（講師：大橋）

10年研「道ばたの植物観察」

②長崎県南島原市教育研究会理科部会
　８月17日（金）　参加者20名
　　北有馬層の化石について―概要と調べ方―
　　（講師：中尾）

(6) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等で自然観察、生活体験、歴史学習等をしようとする場合、どんなことをしたらおもしろいか、どんな資料が活用できるかなどについて、学芸員が博物館での普及行事等の経験を踏まえて教員の相談に応じることにしている。

3．博物館友の会

●会員（平成19年度末）

個人会員（年会費2,000円）		110人
（半年会費1,000円）		3人
家族会員（年会費3,000円）	72組	280人
（半年会費1,500円）	2組	9人
賛助会員（年会費10,000円）		2人

●役員（平成19年度）

会　長：石原　侑
副会長：和田賢次・関眞由子・大原賢二（博物館長）
幹　事：多田精介・大杉洋子・澤祥二朗・南部洋子
　　行成正昭・森本嘉訓
監　査：石尾和仁・川下浩子

●事業

①博物館出版物の増刷・頒布

19年度博物館企画展の図録の印刷・頒布を行った。また、企画展関連の図録を委託販売した。

②広報活動

19年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月間行事案内、年間催し物案内などを送付した。また、友の会会報「アワーミュージアム」No.34～36を発行し、会員に送付した。

③野外活動等

会員を対象とした行事を9行事実施（計画は11行事）した。

○「新緑の高丸山を歩こう」
　日　時：5月20日（日）
　場　所：高丸山（勝浦郡上勝町／那賀郡那賀町）
　参加者：23名

○海藻採集会「海藻を集めよう」
　日　時：6月3日（日）
　場　所：鳴門市竜宮の磯
　参加者：（雨天のため中止）

友の会「高丸山」

友の会「草花＆昆虫の観察会」

友の会「南予一泊研修」

○「淡路日帰り研修の旅」
　日　時：6月17日（日）
　場　所：兵庫県南あわじ市　洲本市　淡路市
　参加者：44名

○「地引き網を引こう」
　日　時：7月22日（日）
　場　所：阿南市北の脇海水浴場
　参加者：中止（最少催行人数に満たなかったため）

○「草花と昆虫の観察会」
　日　時：9月2日（日）
　場　所：徳島市八万町　園瀬川河川敷
　参加者：10名

○「草で虫をつくろう」
　日　時：9月16日（日）
　場　所：徳島県立博物館　3階実習室
　参加者：17名

○「南予一泊研修の旅」
　日　時：9月29日（土）～9月30日（日）
　場　所：愛媛県内子町 大洲市 西予市 宇和島市
　参加者：36名

友の会「八万の昔を探ろう」

○「八万町の昔を探ろう」
　第４回　柿谷・福万谷―信仰の道を辿る―
　日　時：11月18日（日）
　場　所：徳島市八万町柿谷～福万谷
　参加者：27名
○「鳥居龍蔵・モラエスゆかりの地を歩こう」
　日　時：12月24日（月）
　場　所：徳島市東船場町・寺町・伊賀町など
　参加者：32名
○「海藻おしばポストカードをつくろう」
　日　時：１月13日（日）・20日（日）
　場　所：徳島県立博物館　３階実習室・分析室
　参加者：11名
○「こんにゃくをつくろう」
　日　時：２月24日（日）
　場　所：徳島県立博物館　３階実習室
　参加者：26名

４．普及教育関係出版物

■博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture　Club”、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A４判・８ページ（全ページカラー）で6,000部を印刷している。

平成19年度には次の４号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

●No.67（2007年６月25日発行）
Culture Club
「小正月の火祭りと２つのサギッチョ（左義長）」
館蔵品紹介　大般若経巻521
企画展　「世界の甲虫」
情報ボックス
　高知県四万十市から発見されたオウムガイ化石
野外自然かんさつ　磯の生きものを飼ってみよう

●No.68（2007年９月15日発行）
Culture Club
「カメムシのはなし―よいカメムシ・わるいカメムシ・ただのカメムシ―」
館蔵品紹介　ハネフクベの不思議な種子と果実
企画展
「発掘された日本列島2007―新発見考古速報展―」
情報ボックス　博物館におけるＸ線の利用
レファレンスQ&A
　化石の名前を調べるのに役立つ図鑑を教えてください。

●No.69（2007年12月１日発行）
Culture Club
「わがやのぞうに―博物館Ｖキング『博物館冒険ツアー』の成果から―」
野外博物館　クロマダラソテツシジミ
特別陳列　「徳島城下町の世界」
情報ボックス
　絶滅危惧種の保全―環境との関係の探り方―
レファレンスQ&A　遺伝子汚染って何ですか？

●No.70（2008年３月25日発行）
Culture Club
「世界的なアンモナイト産地：蝦夷層群」
館蔵品紹介　樋殿谷の蔵骨器
企画展「郷土の発見―小杉榲邨と郷土史研究の曙―」
情報ボックス
「日本の地質百選」に宍喰の漣痕が選ばれました
レファレンスQ&A
　絶滅寸前!?　祖谷の美味しい珍作物ヤツマタ

■その他

●年間催し物案内

１年間の普及行事予定を掲載したＢ４判４つ折のリーフレット。13万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。また、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したＢ４判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した印刷物。年度初めに県内各学校に送付している。

●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレットを改訂した（20年度当初に県内各学校教職員に配布予定）。

Ⅴ　シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会等に貢献する活動を行うことは、博物館の重要な役割であると考え、博物館の他の事業に差し支えない範囲で積極的に取り組んで行くことにしている。

1．レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Ｅメール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的でデータベース化している。

平成19年度に行ったレファレンス件数の分野別内訳は下表のとおり。この記録は博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないので、実際の件数はこれより２～３割程度多いと考えられる。

●分野別レファレンス件数（平成20年３月31日現在）

分　　野	件　　数
動物（脊椎）	53
（無脊椎）	19
（昆虫）	45
植　　物	35
地　　学	65
考　　古	6
歴　　史	48
民　　俗	26
美術工芸	0
保存科学	0
そ の 他	5
合　　計	302

2．各種委員会委員等の受諾

平成19年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次のとおり。

大原賢二
- 日本博物館協会評議員（平成19．４．１～１年間）
- 徳島県博物館協議会会長（平成19．４．１～１年間）
- 東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー（平成16．８．16～）
- 徳島県田園環境検討委員会委員（平成18．１．17～２年間）
- マリンピア沖洲環境調査検討委員会委員（平成18．２．１～20．１．31）
- 環境省希少野生動植物種保存推進員（平成18．７．１～21．６．30）

佐藤陽一
- とくしま川づくり委員会委員（平成12.12.15～19.12.14）
- 徳島県ビオトープアドバイザー（平成14．４．11～20．３．31）
- 環境省希少野生動植物種保存推進員（平成９．７．１～21．６．30）
- 国土交通省四国地方整備局「河川・渓流環境アドバイザー」（平成19．４．26～20．３．31）
- 国土交通省四国地方整備局「吉野川学識者会議」委員（平成19．５．28～20．３．31）
- 日本魚類学会標準和名検討委員会副委員長（平成15．４．１～）
- 東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー（平成16．８．16～）
- 徳島県土木工事環境配慮アドバイザー（平成19．４．１～20．３．31）
- 独立行政法人水資源機構「河川水辺の国勢調査アドバイザー（ダム湖）」（平成19．５．18～20．３．31）
- 徳島県農林水産部環境配慮アドバイザー（平成19．６．27～20．３．31）
- 国土交通省四国地方整備局「那賀川学識者会議」委員（平成18.11．５～20．３．31）
- 中国四国農政局那賀川農地防災事業所「那賀川地区環境検討委員会」委員（平成19.12．６～20．３．31）
- 中国四国農政局四国東部農地防災事業所「吉野川下流域農地防災事業に係る環境検討委員会」委員（平成19.12.20～20．３．31）

小川　誠
　徳島県ビオトープアドバイザー
　　（平成18．4．11～20．3．31）
　環境省希少野生動植物種保存推進員
　　（平成15．7．1～21．6．30）
　徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
　　（平成19．4．1～20．3．31）
　高知県立牧野植物園評価委員
　　（平成19．6．1～20．3．31）
中尾賢一
　日本第四紀学会博物館連絡委員
　　（平成19．8．1～21．7．31）
茨木　靖
　東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー（平成16．8．16～）
　徳島県田園環境検討委員会委員
　　（平成18．1．17～2年間）
高島芳弘
　徳島市立考古資料館協議会委員
　　（平成18．7．1～19．6．30）
　いにしえ夢街道推進委員会協力者（平成18～19年度）
　徳島県中世城館跡総合調査調査員
　　（平成19．6．1～21．3．31）
長谷川賢二
　日本博物館協会常務委員
　　（平成18．4．1～21．3．31）
　いにしえ夢街道推進委員会協力者（平成18～19年度）
　徳島県中世城館跡総合調査調査員
　　（平成19．6．1～21．3．31）
　徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員
　　（平成19．5．1～）
　文部科学省「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」学芸員の養成に関するワーキンググループ委員（平成19．9．1～20．3．31）
　日本山岳修験学会理事（平成19.11月～21.11月）
魚島純一
　文化財保存修復学会運営委員（平成18．4月～20．3月）
庄武憲子
　松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館資料館協議会委員（平成19．4．1～20．3．31）
　第22回国民文化祭徳島県実行委員会吉野川文化探訪フェスティバル企画委員会委員
　　（平成17.10．3～20．3．31）
磯本宏紀
　第22回国民文化祭徳島県実行委員会人形浄瑠璃企画委員会委員（平成17．8．4～20．3．31）

3．講師の派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣等を、月日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す（内容に依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を省略）。なお、小・中・高校からの依頼による出前授業については、「IV 普及教育」の「2．学校教育支援事業」に記載している（p.33）。

4月4日　長谷川賢二
　徳島県自治研修センター「平成19年度新規採用職員研修　人権問題Ⅱ（同和問題［歴史］）」で講演「部落史と私たちの課題」（徳島県職員会館）
5月9日　佐藤陽一
　四国横断自動車道鳴門市域カワバタモロコ生息調査平成18年度調査報告会で講演「カワバタの生息に影響を及ぼす環境要因」（徳島大学工学部）
5月10日　長谷川賢二
　歴文クラブ例会で講演「中世の仏教と地方寺院」（徳島県立総合福祉センター）
6月17日　長谷川賢二
　徳島ユネスコ協会研修会で講演「四国遍路の歴史を遡る」（徳島市ふれあい健康館）
6月23日　長谷川賢二
　松茂町歴史民俗資料館「阿波・徳島ふるさと歴史講座」で講演「修験道史入門」
6月27日　長谷川賢二
　阿波市史談会6月例会で講演「阿波忌部の歴史」（阿波市久勝公民館）
7月12日　魚島純一
　イカリクリンネス大学四国文化講座で講演「博物館における文化財保存―環境のコントロールによる文化財保存―」（愛媛県紙産業研究センター）
7月21日　佐藤陽一
　吉野川交流推進会議「さかな博士の川魚かんさつ」講師（徳島市鮎喰川）
8月1日　魚島純一
　徳島県立文書館「古文書保存講座」で講演「文書資料の保存科学」
8月18日　長谷川賢二
　2007NHKとくしま文化講座「『風林火山』とその時代セミナー」で講演「戦国武将の信仰」（徳島県郷土文化会館）
9月6日　魚島純一
　四国地区博物館協議会総会で講演「博物館における資料保存―IPMによる環境のコントロール―」（高

知県立県民文化ホール）
９月15日　大橋敏雄
徳島県立男女共同参画交流センター「フレアとくしま土曜博物館」で講演「阿波のやまと絵」
10月１日　長谷川賢二
文部科学省「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」学芸員の養成に関するワーキンググループで意見発表「学芸員養成をめぐる私見」（学術総合センター）
10月17日　長谷川賢二
シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「熊野信仰の広がり」「阿波の熊野信仰」（徳島県立総合福祉センター）
10月18日　佐藤陽一
徳島県農山村整備課「経営体育成基盤整備事業段関地区地元説明会」で講演「徳島県鳴門市のカワバタモロコ」（JA 大津）
10月20日　高島芳弘
徳島県立男女共同参画交流センター「フレアとくしま土曜博物館」で講演「土器文様の不思議」
10月20日　佐藤陽一
阿南市中野島公民館「岡川の魚かんさつ」（中野島公民館前）
10月24日　長谷川賢二
シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「四国遍路の成立」「戦国軍記の歴史意識」（徳島県立総合福祉センター）
11月13日　長谷川賢二
徳島県立人権教育啓発推進センター指定管理者職員研修で講義「親しまれる施設づくりのために」
11月17日　長谷川賢二
徳島県立男女共同参画交流センター「フレアとくしま土曜博物館」で講演「中世の女性のくらし」
11月28日　小川　誠
独立行政法人水資源機構職員研修で講演「吉野川の帰化植物について」（徳島県立博物館）
12月22日　長谷川賢二
徳島県教育委員会「『天正の落日と曙光』連続講座」で講演「中世の民衆文化」（徳島市立徳島城博物館）
１月24日　長谷川賢二
人権問題研修で講演「部落史と私たちの課題」（徳島県自治研修センター）
１月27日　長谷川賢二
オンリーワンとくしま県民カレッジ「ふるさと再発見」講座で講演「一宮城とその歴史」（徳島県立総合教育センター）
２月15日　長谷川賢二
徳島県立人権教育啓発推進センター「あいぽーと徳島出前講座」で講演「戦争と人権」（徳島市応神公民館）
２月20日　長谷川賢二
文化庁平成20年度芸術拠点形成事業募集説明・事例発表会で事例発表「親しまれる博物館への道程」（京都国立博物館）
２月27日　長谷川賢二
徳島県自治研修センター人権問題職場研修で助言「人権問題研修のあり方について」
３月14日　山田量崇
徳島県地球温暖化防止活動推進委員会の研修会で講演「南方系昆虫類の分布拡大とその要因」（徳島県職員会館）

４．大学教育への寄与

⑴ 大学非常勤講師の受諾

平成19年度に博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤講師は次のとおり。

佐藤陽一
徳島大学総合科学部非常勤講師（流域圏環境生態学）
（平成19．７．25）
小川　誠
徳島大学総合科学部非常勤講師（科学と人間）
（平成19．６．15）
中尾賢一
徳島大学総合科学部非常勤講師（現代 GP 体験ゼミ）
（平成19．５．12）
長谷川賢二
鳴門教育大学嘱託講師（博物館特論）
（平成19．４．９～20．３．31）
徳島大学非常勤講師（全学共通教育）
（平成19.10.15）
高知女子大学非常勤講師（生涯学習概論）
（平成20．２．21）
磯本宏紀
四国大学非常勤講師（博物館実習１）
（平成19．４．１～19．９．30）

⑵ 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第１条において学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

博物館実習カリキュラム（平成19年度）

月／日	午前（９：30～12：00）			午後（13：00～16：00）		
８／20（月）	ガイダンス（辻野）	実習室＋講座室	全員	博物館資料のＸ線透過撮影（魚島）	講座室＆Ｘ線撮影室	Ａ班
	博物館の管理と運営（大原館長）			民俗資料の整理（磯本）	考古収蔵庫	Ｂ班
	館内施設見学（辻野）			化石資料の写真撮影法（辻野）	地学収蔵庫	Ｃ班
８／21（火）	歩測実習（辻野）	文化の森公園内	A/B班	博物館の情報提供（小川）	講座室	A/B班
	貝化石のクリーニングと整理（中尾）	実習室＆地学収蔵庫	Ｃ班	魚類の採集と標本作製（佐藤）	実習室	Ｃ班
８／22（水）	博物館資料の保存とIPM（魚島）	作業室or分析室＆歴史収蔵庫	A/B班	美術品の取り扱い・調査整理法（大橋）	資料鑑定室	A/B班
	標本の名前を調べる会・補助（茨木）				講座室＆実習室	Ｃ班
８／23（木）	瓦の拓本（高島）	作業室	A/B班	資料の整理（長谷川）	歴史収蔵庫	Ａ班
				資料の整理（庄武）	考古収蔵庫	Ｂ班
	昆虫標本作成と同定（山田）	実習室or分析室	Ｃ班	植物標本の作製と整理（茨木）	分析室	Ｃ班
８／24（金）	利用者調査の意義と方法（長谷川）	講座室	全員	発送作業・展示解説（豊崎・鈴木）	実習室＆常設展示室	全員

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。４月１日～５月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数名をめどに受け入れることにしている。

平成19年度は、８月20日（月）～24日（金）に実習生の受け入れを行った。実習生は21人で、大学別の内訳は次のとおりである。

鳴門教育大学	７人	四国大学	５人
徳島大学	１人	高知大学	１人
愛媛大学	４人	四国学院大学	１人
東京学芸大学	１人	広島大学	１人

カリキュラムは上の表のとおりである。学芸員と普及課職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

(3) 学生・院生の指導

平成18～19年度に研究課題の指導のために受け入れた学生・院生は次のとおり。所属、学年、人数、および研究テーマを記す。

徳島大学大学院先端技術科学教育部博士前期課程、１年（１名）、徳島県産トンボ類に関する調査研究

５．学会・研究会等の運営への寄与

(1) 学会・研究会等の開催

19年度に当館学芸員が担当し、当館および文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次のとおり。

●みどりクラブ（旧称：植物談話会）例会

開催日：毎月土曜日（不定）
会　場：博物館講座室
参加者：15名程度

●徳島地域文化研究会・連続講座（第２回）

開催日：８月17日（金）
会　場：博物館講座室
参加者：８名

●近畿民具学会・日本民具学会・四国民具研究会合同研究会

開催日：11月23日（金）
会　場：博物館講座室
参加者：12名

(2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

●みどりクラブ（旧称：植物談話会）

植物に関心のある県内同好者が、毎月１回（土曜日の18：30から）、博物館実習室で植物分類の勉強会や採集情報等に関する意見交換を行っている。

会員は約25名で、毎回10～15名の参加者がある。

●四国中世史研究会

四国地域をフィールドとしている中世史研究者によって構成されており、研究会・史料見学（年２回）、機関誌『四国中世史研究』の刊行（隔年１冊）を行っている。

●徳島地域文化研究会

主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム（年３回程度）、機関誌『徳島地域文化研究』の刊行（年刊）等を行っている。

６．博物館ネットワーク

⑴ 四国地区博物館協議会および日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在86館(園)が加盟している。４県が持ち回りで２年ずつ事務局をつとめることになっており、18・19年度は高知県立歴史民俗資料館が事務局館をつとめている。当館は徳島県幹事館になっている。

19年度の役員会及び総会は次のとおり高知市で開催された。はじめ８月２日に開催予定であったが、台風の接近ということで急遽予定が変更された。

●19年度役員会・総会

日時：９月６日(木) 10：30～
会場：高知県立県民文化ホール
議事：平成18年度事業報告及び決算報告について
　　役員改選について
　　平成19年度事業計画及び予算について
　　その他（会費の見直しについての調査報告）
講演：魚島純一氏（徳島県立博物館主任学芸員)「文化財の保護について」

●研修・視察

日時：９月７日(金) 10：00～12：30
場所：高知県立歴史民俗資料館　AV ホール
内容：日本博物館協会からの本部報告
　　視察　高知県立歴史民俗資料館

⑵ 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成８年２月27日に設立された。加盟館は、設立時は31館であったが、その後、年々増え、平成19年３月末現在では51館になっている。当館が事務局をつとめている。

●19年度事業

・役員会の開催
　６月７日(木)、徳島県立博物館応接室にて開催した。
・総会の開催
　日時：６月７日(木) 14：30～16：30
　場所：徳島県立博物館講座室
　議事：18年度事業報告及び決算報告
　　18年度監査報告
　　19年度役員選出
　　19年度事業計画及び会計予算
　　その他
　講演：山木朝彦氏（鳴門教育大学教授）
　　「博物館(美術館)と学校教育の連携について」
・加盟館園の職員状況と入館者数一覧を作成して配布した。
・徳島県博物館協議会ニュースの発行
　No.25、26、27を発行・配布した。
・研修会の開催　　参加者15名
　日時：20年２月26日(火) 13：00～16：30
　場所：那賀町「相生森林美術館」
　内容：講演会と施設見学
　講演：庄武憲子氏（徳島県立博物館主任学芸員）
　　「博物館ボランティア活動―徳島県立博物館の場合―」
　　：東浦博史氏（相生森林美術館学芸員）
　　「地域社会と美術館―相生森林美術館の取り組み―」
・先進地の博物館施設の調査　　参加者16名
　日時：19年12月５日(水) ８：15～19：00
　訪問先：愛媛県松山市「坂の上の雲ミュージアム」、愛媛県立美術館

⑶ 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成８年に結成された。現在、37機関・団体が加入している。

平成19年度は、第12回総会（７月17～18日）が大阪府堺市で開催され、21機関・団体から28名の参加があった。

当館は発足時から加入しており、総会に職員を派遣してきたほか、加入機関・団体との個別的な協力を行っている。また、17年度総会以降、事務局構成団体に入っており、人権ネットの運営についても参画している。

⑷ 西日本自然史系博物館ネットワーク

12・13年度に文部科学省の委嘱を受けて行われた環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館および兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織として NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワークが16年４月27日付けで設立され、34館園・団体の学芸員が参加している。

19年度（事業年度は１月～12月）は、自然系博物館における収蔵品データ整備に関する助成事業、自然史系博物館における標本情報の発信に関する研究会の開催、「凍結乾燥機技術交流会」、「標本救済ネット（仮称）ワークショップ」の開催等の事業が行われた。

Ⅵ　情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、博物館活動に関する様々な情報を発信していくことは博物館にとって非常に重要な活動である。最近はインターネットによる情報発信も重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

1．博物館の広報活動

博物館ニュース・企画展ポスター・年間催し物案内リーフレット・月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館の事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先

小学校	223カ所
中学校	93
高等学校・その他学校	53
学会・研究所・同好会等	102
県および県教育委員会各課・機関	60
市町村教育委員会	24
公民館・隣保館	226
市町村および大学図書館	32
博物館施設	50
宿泊施設	38
報道関係機関等	77

●催し物案内の電子メールサービス

登録者　（19年３月末現在の登録者265名）

●報道機関への資料提供

19年度は次のような資料提供を行った（各月の催し物あんない以外）。

４月　　「博物館こどもの日フェスティバル」の開催について
４月19日　移動展「牟岐大島の考古資料」の開催について
５月22日　移動展「阿波の板碑―石造供養塔が語る中世の信仰の世界―」の開催について
６月20日　部門展示「流通した民具」の開催について
６月20日　「博物館Ｖキング」（ボランティア企画型イベント）スタッフ募集の案内について
７月12日　企画展「世界の甲虫―石田コレクションのビートルズ―」の開催について
８月29日　トピックコーナー「カメムシの世界」の展示について
９月19日　部門展示「職人絵の世界」の開催について
10月３日　企画展「発掘された日本列島2007―新発見考古速報展―」の開催について
10月17日　「博物館文化の日フェスティバル」の開催について
11月27日　トピックコーナー「北上する昆虫たち」の展示について
12月25日　特別陳列「徳島城下町の世界」の開催について
１月　　「博物館Ｖキング」の開催について
１月25日　部門展示「レントゲンでのぞいた博物館の資料たち」の開催について
３月11日　部門展示「和泉層群の化石」の開催について
３月25日　企画展「郷土の発見―小杉榲邨と郷土史研究の曙―」の開催について

●企画展の新聞広告

企画展の広報として、徳島新聞に広告を出した。（各１回）

●文化の森橋への懸垂幕の設置

企画展の広報として、県に都市公園占用許可申請をして、企画展の期間中、文化の森橋に懸垂幕を設置した。

2．テレビ・ラジオへの出演等

博物館事業のPR等のためのテレビ・ラジオへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

４月20日　小川　誠　四国放送テレビ「おはようとくしま」（合体木について）
５月31日　庄武憲子　エーアイテレビ「テレビミュージアム」（部門展示「阿波古式打毬の道具と衣装」の解説）
６月20日　山田量崇　四国放送テレビ「おはようとくしま」（クビキリギスについて）
７月18日　庄武憲子　四国放送ラジオ（博物館Ｖキングボランティアスタッフ募集について）
８月７日　佐藤陽一　四国放送テレビ「530フォーカ

ス徳島」（シュモクザメについて）
8月8日　山田量崇　四国放送テレビ「四国放送　あさ630」（カブトムシの採り方について）
8月27日　佐藤陽一　NHKテレビ（徳島放送局）（アゴヒゲアザラシについて）
9月20日　山田量崇　四国放送ラジオ（この時期に見られる危険なハチについて）
9月27日　佐藤陽一　四国放送テレビ「530フォーカス徳島」（桑野川で捕獲されたアリゲーターガー）
10月10日　茨木　靖　四国放送テレビ（サクラの返り咲きについて）
11月11日　茨木　靖　ケーブルネットおえ（紅葉について）
11月24日　高島芳弘　NHKテレビ（松山放送局）カルナビ（企画展「発掘された日本列島2007」について）
12月12日　山田量崇　NHKテレビ（徳島放送局）（トピックコーナー「北上する昆虫たち」について）
1月7日　山田量崇　四国放送テレビ（トピックコーナー「北上する昆虫たち」について）
3月2日　博物館Vキングスタッフ　四国放送テレビ（オンリーワン徳島「博物館を楽しもう」）

3．インターネットによる情報提供

(1) 電子メール

希望者には電子メール（以下メール）による催し物案内を毎月行っている（20年3月末現在の登録者265名）。

また、ホームページ等を見た人からの質問もメールで寄せられており、各担当より回答を行っている。平成19年度には記録されたものだけでも32件の問い合わせが寄せられている。

(2) ホームページ

A. 概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。11年7月よりホームページhttp://www.museum.comet.go.jp/を開設した。18年3月からは、ネットワーク回線が徳島県教育情報ネットワークに移管されたためにホームページはhttp://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/に変更された。

ホームページの内容は下記のとおりである。
・博物館の紹介（開館日・交通案内など）
・展示案内（企画展、常設展）
・催し物、普及行事の案内
・調査研究活動の紹介
・収集保存活動（データベース）
・学校等への利用案内
・出版物（展示解説、研究報告、博物館ニュースなどの案内）
・関連活動紹介（友の会、博物館協議会など）
・学芸員関連のページ
・特別メニュー（子供向けメニュー、映像コーナーなど）

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

データベースによる検索では、資料データベースでは人文、動物、植物、地学の各分野ごとに収蔵資料を検索でき、資料の写真や動植物の分布図などが表示できる。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を専用フォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は毎月の催し物案内のように定期的に行うもののほか、各担当により随時行っている。平成19年度の主な追加内容については下記のとおりである。
・平成19年度　文化庁芸術拠点形成事業「ヤングボランティアとの協働による体験キット開発事業」の様子を掲載した。

図1　展示解説書「ミネラルズ」のホームページ

・ブロードバンドに対応した高精度画像の試みとしてブラウザ上で画像の拡大縮小が任意にできるツールを利用し、植物写真や標本画像を公開した。またその技術を応用し、展示解説書「ミネラルズ―不思議な、きれいな、そして意外に身近な鉱物の世界―」をホームページに加工し、写真を拡大して見られるようにした（図１）。

B．アクセスについて

トップページのアクセス数の累計および１日あたりのアクセス数は図２のとおりである。どちらも順調に増加しており、19年度１年間でトップページに約47,500件のアクセスがあった。

18年度に高精度画像をつけてホームページで公開した展示解説書「徳島の自然と歴史ガイド No.３化石―常設展の中の四国周辺地域の化石」（http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/bb/chigaku/fossils/index.html）のアクセス等を調べ、どのくらい活用されているかを調査した。この展示解説書は１ページに一つの資料が掲載されているので、2008年２月４日に資料名をgoogleの検索サービスに入力し、検索結果の総数と、そのうち何番目になるかを記録した（表１）。全般的に検索エンジンで上位に来ていることがわかる。2007年５月４日から2008年２月５日までのWEBサーバ（Apache）のアクセスログを解析したところ、当該ページに4895人のアクセスがあり、そのうち3,424人がgoogleやyahooなどの検索ページから入って来ていた。約70％の閲覧者が検索サービスを利用していることがわかる。検索エンジンで検索しても数件しかヒットしないものもあり、よく活用されていることがうかがえる。

４．外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成12年度および13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

18年度より国立科学博物館が行っている自然系博物館における収蔵品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は全国の科学系博物館のホームページの内容の横断検索で、サイエンスミュージアムネット（http://science-net.kahaku.go.jp/）で160館以上のホームページを一度に検索することができる。また、収蔵品データの検索も準備されており、当館からは徳島県産維管束植物のデータを整備し提供した。日本語の検索およびGBIF（Global Biodiversity Information Facility：地球規模生物多様性情報機構）のデータとしても横断検索できるようになった。

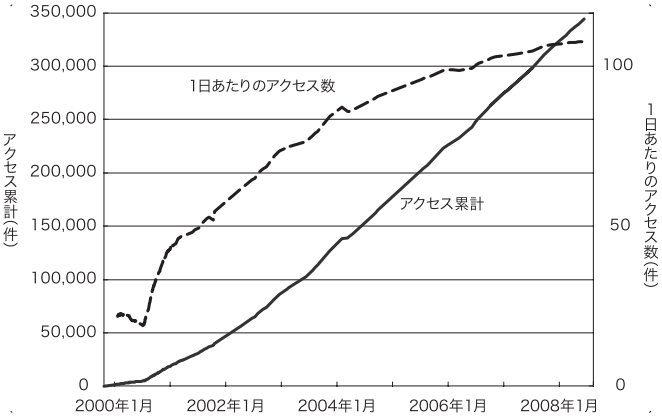


図２　トップページへのアクセス累計と１日当たりのアクセス数

表１　Googleでの検索結果

和　名	検索結果総　数	順位	備　　考
ホモミア	1	1	
プリューログラマトドン	3	1	
オキシトマ	8	1	
プロトバーギュラリア	10	1	
プテリネラ	17	1	
クリソコルス	26	1	
フィロパキセラス	41	1	
ダオネラ	43	1	
カケハタアカガイ	45	1	
ニルソニア	50	1	
ランダイコウバシ	50	1	
プラビトセラス	60	1	
キイキリガイダマシ	94	1	
クサリサンゴ	1,250	1	
ゴードリセラス	2,010	1	
トウキョウホタテ	2,180	1	
六放サンゴ	2,660	1	
ピンナ	8,770	1	
ヤーディア	35	2	
ディディモセラス	65	2	
コダイアマモ	280	2	
パキディスカス	1,210	2	
クラドフレビス	1,220	2	
ハチノスサンゴ	1,180	3	
ナノナビス	88	4	
イノセラムス	4,450	4	
ビカリア	5,720	7	
トリオニクス	1,320	8	地学関係では１位
モノチス	632	9	
マリエラ	39,500	9	地学関係では１位
プテロトリゴニア	93	15	
ナウマンゾウ	28,200	17	

５．情報システムの概要

平成17年度には４期目となるCOMET（徳島県文化・学習情報システム）のコンピュータシステム更改が行われた。平成19年度はその運用開始２年目にあたる。システムの構成は下記のとおりである。

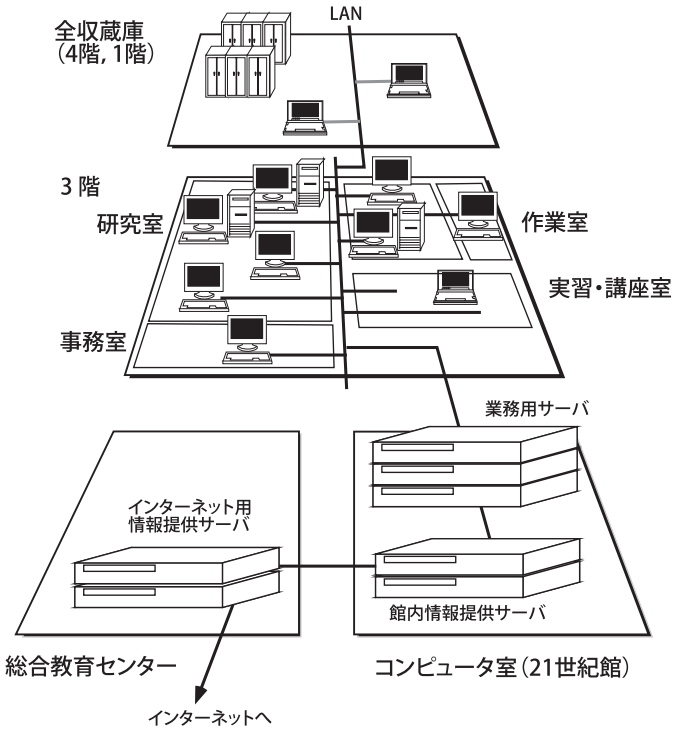


図３　徳島県立博物館の情報システムの構成

博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の２つに大別できる。４期目の博物館システムの更改については次のような方針で臨んだ。

・博物館の業務システムは基本的に現状をベースに改良を加える。
・情報提供はインターネットを用い、ブロードバンド（大容量通信）や携帯電話等の新しい通信手段に対応する。

その結果、次のような構成で４期システムを運用することになった。

a）業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサーネット（1000BaseT）のLANでつないだ。ファイルサーバ（MacOSXサーバ）とデータベースサーバ（FileMaker Server 8）の２台のサーバを設置した。サーバのデータは、21世紀館に常駐するSE（システムエンジニア）によって毎日バックアップがとられている。職員１人に１台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなくノート型パソコンを活用している。

b）情報提供用システム

情報提供用としては、Linuxサーバを用いて、WWWサーバと資料データベースを構築した。また、文化の森で共通で使用する全文検索用サーバを１台設置した。さらに、柔軟なデータベース公開ができるようにMacOSXサーバとFileMaker Server 8 AdvancedによるWebデータベースを構築し、新聞記事データベースを公開した。インターネットの回線が徳島県総合教育センターに集約されたために、これらの情報提供用サーバを２組用意し、館内用は文化の森のコンピュータ室に、外部（インターネット）用は教育総合センターに設置し、館内用サーバから自動的にデータが更新される仕組みを用意した（図３）。

Ⅶ　管理運営・マネージメント

1．組織・職員

(1) 組織図（平成20年５月１日現在）

館長(1)――副館長(1)┬― 普及課(4)
　　（事務職員2､臨時補助員1、
　　文化推進員１）
　　├― 自然課(8)（学芸員６、文化
　　推進員２）
　　└― 人文課(8)（学芸員６、文化
　　推進員２）
博物館協議会

(2) 職員名簿（平成20年５月１日現在）

館　　長　大原　賢二
副 館 長　林　　正明

〈普及課〉
普 及 課 長（林　副館長の兼務）
主査兼係長　豊﨑　　勲
事 務 主 任　向原　敬夫
臨時補助員　藤本　誉世
文化推進員　小川　裕加

〈自然課〉
自 然 課 長　佐藤　陽一（動物）
専門学芸員　小川　　誠（植物）
主任学芸員　中尾　賢一（地学）
〃　　茨木　　靖（植物）
学　芸　員　辻野　泰之（地学）
〃　　山田　量崇（動物）
文化推進員　近藤さえ子
〃　　三木田友紀

〈人文課〉
人 文 課 長　高島　芳弘（考古）
専門学芸員　長谷川賢二（歴史）
〃　　大橋　俊雄（美術工芸）
主任学芸員　魚島　純一（考古・保存科学）
〃　　庄武　憲子（民俗）
学　芸　員　磯本　宏紀（民俗）
文化推進員　武田美千代
〃　　坂島美津子

(3) 人事異動

〈平成20年４月１日付、カッコ内は前職〉
転出：鈴木　康司・事務主任、牛島小学校教頭へ
転入：向原　敬夫・事務主任（牟岐中学校教諭）
昇格：大橋　俊雄・専門学芸員（主任学芸員）

(4) 平成19年度非常勤・臨時職員

●臨時補助員
柴山　祐子（平成19.４.１～20.３.31）
小川　裕加（平成19.４.１～20.３.31）

●文化推進員（非常勤特別職）
武田　佳子（平成17.４.１～20.３.31）
市原　孝江（平成18.５.１～20.３.31）
近藤さえ子（平成19.４.１～　　）
武田美千代（平成19.４.１～　　）
坂島美津子（平成17.４.１～　　）

2．予算

２月補正後の予算を下記に示す

●平成19年度博物館費（２月現計予算額）（単位：千円）

19年度予算	管理運営	展覧事業	調査研究	収集保存	普及教育
47,695	14,249	16,862	5,112	8,955	2,517

3．博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

19年度は協議会を１回開催した。

●19年度博物館協議会
日時：平成19年９月21日（金）13：30～15：20
会場：博物館講座室
議事　(1)　平成18年度事業の実施状況について
　　(2)　平成19年度事業計画について
　　(3)　その他

●徳島県立博物館協議会委員名簿

（平成20年３月31日現在）

区　分	氏　名	役　　職　　等
学校教育	岩佐　茂美	県小学校教育研究会理科部会吉野川市理事　種野小学校長
	土岐　昭典	県中学校校社会科教育研究会会長木屋平中学校校長
	結城　孝典	県高等学校教育研究会地歴学会副会長池田高等学校教頭
社会教育	澤田　英敏	徳島市立徳島城博物館館長
	一山　　典	徳島市考古資料館館長
	大石　雅章（副会長）	鳴門教育大学教授
学識経験	中村　昌宏（会長）	徳島文理大学教授
	佐野佳代子	四国放送報道制作局美術部部長代理
	友滝　洋子	藍住町国際交流協会会長
	田中　育代	車いすテニスサークル「フィフティー・ラブ」選手

４．県民参加の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討

⑴ ボランティア企画型行事の実施

平成17～18年度における公募ボランティアと職員との共同でのイベント企画・実施の経験を踏まえ、19年度もボランティアを公募した。別に進めていた文化庁芸術拠点形成事業による学生ボランティアの活動と並行して、独自の活動を展開してもらう予定だったが、芸術拠点形成事業の遂行の必要から、学生グループに合流して活動を進めることとした。体験キットの開発及び活用機会としてのイベント「博物館Ｖキング」の実施に当たった。詳細については、次項を参照されたい。

⑵ 平成19年度文化庁芸術拠点形成事業「ヤングボランティアとの協働による体験キット開発事業」の実施

この事業は、平成16年９月に策定した中期活動目標をもとに当館で取り組んできた博物館評価、平成17年度文化庁芸術拠点形成事業「元気な博物館づくりプロジェクト」によって見えてきた課題、平成17～18年度に取り組んできた公募ボランティアによるイベント企画運営の成果と課題を踏まえて、若者との連携による親しまれる博物館づくり、とくに人文系資料をもとにした子ども向け体験キットの開発・活用を目指して実施した（事業期間：平成19年７月～平成20年３月）。

当館が事業主体だが、館外から指導者として、一森勇人氏（阿南工業高等専門学校）、吉野達也氏（徳島文理大学）、松下師一氏（松茂町歴史民俗資料館／徳島博物館研究会）、友井伸一氏（徳島県立近代美術館）、金原祐樹氏（徳島県立文書館）を迎え、地域連携型の事業として行った。

事業の大まかな内容は次のとおりである。

①大学生等、20歳前後の若者によるボランティアチームの編成

徳島文理大学４名、阿南工業高等専門学校５名により活動を始めた。しかし、若者だけではキット開発がうまく進まなかったため、公募により集まった一般ボランティアに支援を要請し、学生を中心としながらも、合同で活動するかたちとした。体制が固まってからは、学生・一般を一体として、開発キットの対象年齢別に３グループに分けて作業を進めていった。

②体験キットの開発

・就学前児童向け「どんな顔になるKASHIRA」…人形浄瑠璃の頭をモチーフにした福笑いキット。
・小学校低学年向け「かたどって似たものさがし」…埴輪や瓦など、常設展示室に展示されている資料の模型から型取りしたシリコン型、資料の写真と簡単な説明の載っているカード、キーホルダーで構成されたキット。
・同　「スタンプで展示づくり」…常設展示室の展示資料をイメージしたゴム印、スタンプシートで構成されたキット。
・小学校高学年向け「徳島城へようこそ」…常設展示室にある徳島城鷲の門の原寸大模型をイメージしたポップアップ模型キット。

③合同ワークショップ「博物館Ｖキング」

開発・制作してきたキットを楽しんでもらう機会として実施した（２月11日）。名称は、これまでのボランティア企画運営イベントを踏襲した。参加者1,313人。

④評価とまとめ

指導者会議を３回開催し、その時点での進行状況や評価、課題の確認等を行った。また、事業最終段階でボランティア自身による総括も行った。これらを通じて、今後の事業の方向性を検討する素材を得た。また、事業終了時点で、大まかな経緯と成果・課題をまとめた報告書（Ａ４判、６ページ）を作成した。

⑤事業実施状況の情報発信

当館のホームページに、事業の状況を紹介するページを開設し、日誌風の紹介を継続した。

⑶ 昆虫パラタクソノミスト養成講座「ジュニア編」の実施

北海道大学の「準自然分類学者養成講座」の一環として、当館との共同事業の第３回目は子ども向けの昆虫採集や体のつくりなどを見ながら昆虫分類を体験させるコースを実施した。

日時：８月７日(火)～８日(水)　９日30分～16時
場所：博物館実習室及び文化の森総合公園内
内容：昆虫の採集から、かんたんな分類、標本作りなどを学ぶ。

どのような昆虫が、どんなところにいるのかを見ながら、ネットの使い方や、毒ビン、吸虫管の使い方なども覚える。

いろいろなトラップを、どのように使い、どのようなものが採れるのかをみる。

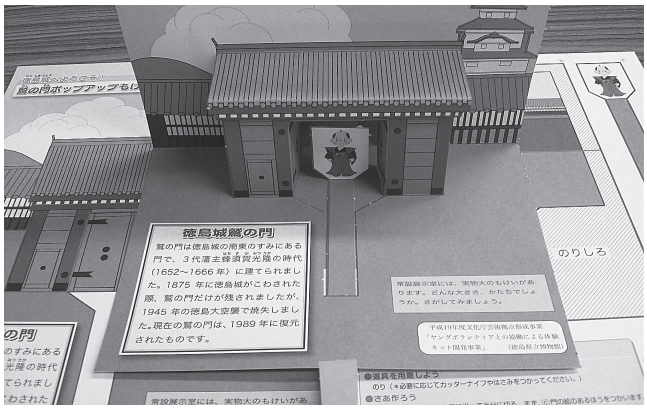
二日目は昨日採集した昆虫の、かんたんな見分け方と、標本の作り方をグループごとに実際に作った。

参加者：15名

５．視察等博物館関係来訪者

５月27日　松阪市教育委員会　杉本喜一氏
６月22日　福岡市博物館　堀本一繁氏ほか　３名
８月２日　奈良文化財研究所　西村康氏ほか　２名
10月２日　東京大学史料編纂所　菊地大樹氏ほか　３名
11月10日　伝統芸能研究千町の会　川元祥一氏
12月22日　愛媛県歴史文化博物館　平井　誠氏
２月21日　鳥取県立博物館　深川博美氏
３月６日　岐阜県博物館　山田政春氏

キット開発中の様子



キット「徳島城へようこそ」

キット「どんな顔になるKASHIRA」

Ｖキング「かたどって似たものさがし」

Ⅷ　中期活動目標と自己点検・評価

博物館活動の改善・活性化を図る目的で、平成16年に中期活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに点検と評価を行っている。中期活動目標はおおむね５年ごとに改訂することとし、本年度で４年目となる。平成20年から改訂作業に入る予定である。なお、評価指標等の軽微な見直しは、毎年度行っている。

１．中期活動目標（平成16年９月９日策定）

⑴ 中期活動目標の目的

徳島県立博物館（以下「県博」という）は、「徳島県立博物館基本構想」（昭和59年１月）に基づいて設置された。この基本構想には県博の基本理念と基本的性格が次のように示されており、これらが活動の目標・指針となってきた。

これらの「基本理念」及び「基本的性格」は今でも県博の指針であることには変わりない。しかしながら、生涯学習社会の進展等に伴う最近の博物館をとりまく状況の急速な変化に伴い、博物館に対して学校教育支援、社会貢献、博物館活動への県民参画等の新たな課題への取り組みが求められるようになった。その一方で、財政状況の悪化による運営予算の削減、事業評価、公的施設の運営の見直し等も進められている。こうした状況を踏まえ、「博物館の望ましい姿」についての議論に基づき今後５年間（平成16年度～平成20年度）に推進すべき活動の目標（中期活動目標）を明確にするとともに、活動の点検・評価を行う際の評価指標を示して共有することとした。この目標に沿って計画的に活動を推進し、点検・評価を行うことにより、博物館活動の改善・活性化を図ることとしたい。

〈基本理念〉

・郷土に根ざし世界に広がる博物館―徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設
・開かれた博物館―博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設
・研究を大切にする博物館―学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設
・文化財を守り自然の保全をめざす博物館―県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

〈基本的性格〉

・人文科学（考古、歴史、民俗、美術［近代美術を除く］）と自然科学（動物、植物、地学）が有機的に結びついた総合博物館とします。
・収集保存、調査研究、展示、普及教育の４つの機能を備え、本県の文化、学術、教育及び生涯学習センターとしての役割を果たします。
・国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

⑵ 中期活動目標の構成

中期活動目標では、県博の果たすべき機能を従来の４つ（資料収集保存、調査研究、展示、普及教育）に新たに社会貢献、情報の発信、マネージメント（経営）を加えた７分野に整理・区分し、それぞれに数項目の活動目標を掲げるとともに、活動を評価する際の指標と目標値を設定した。各評価指標には、年次あるいは計画年度（５年）を通じての目標値を設けることが望ましいが、博物館評価には必ずしも数的評価にはなじまない内容も含まれることから、全ての評価指標に目標値を設けるには至っていない。今後、順次改訂して行きたい。

(3) 中期活動目標の推進方法

・中期活動目標は、博物館協議会での協議を経た上で公表する。
・それぞれの活動目標に基づき、館内で具体的な取り組みの年度・年次計画を立てて活動を行う。
・年度末に活動実績の評価指標に基づく自己点検・評価を行い、結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
・活動実績および自己点検・評価の結果を博物館評議会に報告して議論していただき、外部評価意見として年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動の改善に役立てる。

1．資料の収集・保存と活用

資料の収集・保存は、博物館の最も基本的な機能です。様々な方法で徳島及び関連する地域の自然や歴史、文化に関する資料の継続的な収集を行います。また、収蔵資料は公共的な財産として安全に保管し、次世代に伝えるとともに、その活用を図ります。

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備　考
1-1	継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数	当該年度における収蔵資料の総数	2008年度末で50万点	
			対前年度増加点数	当該年度の資料点数―前年度の資料点数	9,030点	
			対前年度増加率	(当該年度の資料点数／前年度の資料点数)×100	102.0%	
			新規寄贈件数	当該年度において寄贈された資料の件数	80件/ 年	
			新規受入図書冊数（雑誌類以外）	購入図書数	400冊/ 年	
1-2	寄託資料の受け入れ促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託の受け入れを促進します。	総寄託件数	当該年度に寄託されている資料の総件数		
			新規寄託件数	当該年度に新たに寄託された資料の件数	10件/ 年	
1-3	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、収蔵資料データベースの整備を図ります。	収蔵資料DB登録点数 収蔵資料DB登録率	(DB登録点数／収蔵資料点数)×100	H20年度までに50%	
1-4	収蔵資料の活用の促進	貸出しなどによる収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	特別利用(閲覧、貸出、撮影、出版物掲載など）およびそれ以外の利用記録を含む 小・中・高への学校貸し出しを除く	50件/ 年	学校への貸出は「普及教育」参照.
1-5	資料の適切な保管	収蔵庫や展示室の点検や資料の燻蒸等により、収蔵資料の安全な保管を図ります。				
1-6	常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室での安全な資料の保存環境を確保するため、空調に除湿機能を付加するよう関係方面に働きかけます。				
1-7	収蔵スペース確保	将来の収蔵資料の増加に備え、収蔵スペースの確保に向けた方策を探ります。				

2．調査研究

調査研究は、博物館活動の学術的基盤となる重要な機能です。徳島及び関連する地域の自然や歴史、文化に関する基礎的な調査研究、資料の保存や展示、普及教育活動等に関する博物館学的調査研究を行うとともに、成果の博物館の諸活動へのフィードバックを図ります。

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備　考
2-1	調査研究活動の強化	調査研究方針に沿って課題調査及び分野別調査研究等を積極的に行い、徳島県における自然史・人文科学及び博物館学の中核を担う水準を維持します。	課題調査実施状況			
			個別調査研究の実施状況			
2-2	調査研究成果の公表	研究報告の出版のほか、学術論文、著述、学会発表等により調査研究成果を公表するとともに、展示や普及教育活動を通じて成果の活用を図ります。	学術論文数	すべての論文および報告をここに編入し、そのうち査読付き論文の数を付記している。	25本/ 年（査読付き５）	指標の定義の変更に伴い、今回より目標値を変更した。
			図書・雑誌等の一般著述		40本/ 年	目標値は本および雑誌などでの一般むけ解説。指標の定義の変更に伴い、今回より目標値を変更した。
			学会・研究会での発表	各種学会や研究会でのオーラル、ポスターセッション等の講演の合計。	25回/ 年	
2-3	外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会等との連携による共同研究等を積極的に進めます。	共同研究プロジェクト数	大学等、職業的研究者との共同研究数。	10件/ 年	人的・予算的規模の大小は問わない。科研費の研究分担はここに含める。
2-4	県民参画型調査研究の推進	調査研究活動にも県民が参画できるよう、県民参画型調査等のプロジェクトを企画します。	県民参画型調査の実績	一般市民（アマチュア研究者、コレクター等含む）との共同研究。	２件/ 年	とくに不特定多数を相手するものだけをカウントしている。
2-5	外部資金の獲得による研究活動の推進	科学研究費補助金や民間の研究助成金等の外部資金を獲得し、研究活動の推進とレベルアップを図ります。	科研費申請・採択数	文部科学省・独立行政法人日本学術振興会の科学研究費補助金。	申請６・採択１件/ 年	種目等は問わない。今回より、学芸員の人数の減少(15→13)に伴って、指標の目標値（７→６）を変更した。
			民間研究助成金獲得状況			藤原ナチュラルヒストリー振興財団、日本科学協会「科学研究助成制度」など。

3．展示

実物資料や最新の情報に基づき、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示し、楽しく学べ、新しい発見や家族のふれあいのきっかけとなる場を創出します。

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備　考
3-1	常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	40,000人/ 年	
			観覧者のリピーター率	アンケート回答者のうち、複数回利用者の占める割合		過去１年以内の利用有無でとらえるよう指標の再定義が必要か
			観覧者の満足度	アンケートで展示の総合評価（５点満点）を４～５点とする回答の占める割合	70%	
			展示改善の実施状況	定期的に展示替えするコーナーは対象外		
3-2	多様なテーマの企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	年間の総観覧者数	15,000人/ 年	
			観覧者の満足度	アンケートで展示の総合評価（５点満点）を４～５点とする回答の占める割合	80%	
			企画展の検討状況			
3-3	収蔵資料の公開促進と企画展示室の有効利用	企画展のほか、特別陳列、部門展示（人文）、トピックコーナー展示等の多様な展示を行うことにより、収蔵資料の公開促進と企画展示室の有効利用を図ります。	特別陳列等の開催回数	企画展として位置付けられているもの以外の各種の展示の取り組み回数	10回（特３・部４・ト３）	常設展ロビーにおける資料紹介なども含む。
			企画展示室活用回数	企画展以外の事業（他機関が主体となった共催の展示を含む）での活用回数	企画展以外に１回/ 年	
3-4	館外での展示の促進	移動展、パッケージ展示の貸出等により、館外での展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。	移動展等の実施状況	文化の森外の博物館等における当館を主催者に含む展示の開催件数	１回/ 年	
			パッケージ展示の貸出数	他博物館等への貸出用展示メニューの利用件数。該当する展示が当館を主催者に含む場合は、移動展と見なす	１件/ 年	
3-5	展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況	年間の刊行件数		
			展示解説等の実施状況	展示の理解を支援する各種の活動の実施回数		
3-6	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	開館20周年（平成22年）での常設展のリニューアルを目標に、館内での検討を進めるとともに、関係方面の理解が得られるよう努力を継続します。	リニューアルに向けての進捗状況	リニューアルに向けての協議や施設調査等の取り組み		

4．普及教育

収蔵資料や学芸員の能力を活かし、自然や歴史、文化について体験したり、楽しく学ぶことができる多様な学習機会を提供することにより、県民の生涯学習を支援します。また、学校教育を積極的に支援します。

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備　考
4-1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し、多様な学習機会を提供します。また、移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数		70回/ 年	
			普及行事参加者数		3,000人/ 年	
			参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合	満足した者の割合80%	
			アウトリーチ活動数	館外での普及行事(展示を除く)	３回/ 年	
4-2	学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出や出前授業、また博物館での授業や教員研修、職場体験、遠足等を受け入れ、学校教育を支援します。	学校教育支援事業件数		出前授業15件/ 年 資料貸出15件/ 年 館での授業 教員研修 職場体験 遠足	18年度より、その他の項目を館での授業、教員研修、職場体験、遠足の４項目に分けて記すことにした。
			教員・生徒の満足度	出前授業等実施後の満足度	80%	
4-3	ガイドブックの出版等の促進	身近な自然や歴史、文化に関する理解を手助けするため、ガイドブックの出版や、新聞・雑誌等への解説記事の執筆を進めます。	ガイドブック出版状況		１冊/ 年	
			普及記事の執筆数		20件/ 年	
4-4	友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	500人/ 年	
			会員の継続率	当該年度会員に占める前年度会員の割合	前年度会員の70%	
			友の会行事実施回数		10回	
			常設展・企画展観覧者率	観覧者として入館した会員の割合	50%	

5．シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備　考
5-1	レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、「何でも相談にのってもらえる博物館」との評価の定着を図ります。	レファレンス件数	レファレンス記録 DB における記録件数	300件/ 年	
5-2	講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数	15件/ 年	小中高への出前授業は「4．普及教育」に記載
			講演会等の受講者数			
5-3	自治体等の政策課題への提言	各種検討委員会委員等として、自然環境保全や文化財保護等に関する自治体等の政策課題への提言を行います。	委員等受託数	自治体・大学などの各種委員会委員の受諾数（学会・博物館関連団体の委員等を除く）	15件/ 年	
5-4	大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受諾、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受諾数		3 件/ 年	
			博物館実習生受入人数		20人/ 年	
			学生・院生指導人数			
5-5	学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数		
			学会等役員受託数	学会・研究会における役員・委員等の受託数		
			学会等事務局受託数	当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		今年度新たに指標を設けた
5-6	民間団体等への専門知識の提供	博物館が蓄積した専門知識を幅広く活かすため、各種民間機関・団体等との連携を進めます。	各種機関・団体等との連携の状況			
5-7	博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携強化のために尽力します。	博物館関連団体委員等受諾数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数		
			博物館関連団体加入数	当館が加入している博物館関連団体の数		今年度新たに指標を設けた
			連携事業の実施数	移動展・移動講座や他館との共催事業などの実施回数		

6．情報の発信と公開

博物館の催し物案内等だけではなく、博物館活動に関連する様々な情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、インターネットや様々なメディアを通じて積極的に情報を発信します。

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備　考
6-1	積極的な資料提供の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	当該年度にマスコミに対して資料提供を行った数	30件/ 年	
			マスコミ取材報道件数	当該年度に新たに新聞が取材し、報道した数		
6-2	様々なメディアの活用による広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓、マスコミ出演や新聞・雑誌への寄稿を行うなど、様々なメディアを活用して広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況	当該年度に新たに開拓した広報手段		
			マスコミ出演等件数	当該年度に学芸員がマスコミに出演した数	15件/ 年	
			E メールサービス登録件数	当該年度末時点の E メールサービスの登録件数	250人/ 年	
6-3	インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP アクセス数	当該年度のトップページへのアクセス総数	32,000件/ 年	
			新規コンテンツ数	当該年度に新たに作られたページの数	30ページ/ 年	
			内容の更新頻度	当該年度に内容が更新された回数	月 3 回以上	

7．マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備　考
7-1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者や障害者にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。	点検・改善の状況			
7-2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況			
			県外利用者の割合			
7-3	県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について、NPO 法人設立も含めて検討します。	ボランティア導入事業数			
			ボランティア活動参加者数			
			運営支援組織の検討状況			

中期活動目標の項目		中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義・説明	指標の目標値	備　考
7-4	設置者による理解の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県及び県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。	博物館予算の状況			
7-5	防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施状況 危機管理マニュアルの整備状況			
7-6	職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割及び当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。				
7-7	博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立し、博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況 自己点検評価の状況 外部評価の状況			

「博物館の評価と改善」の手順

使命・理念（館の存在理由や目的）

- ●博物館法
- ●徳島県立博物館基本構想報告書
- ●徳島県文化の森総合公園文化施設条例
- ☆使命書（ミッションステートメント）
- ＊現時点では、新たに作成するのではなく、基本構想に謳われている「４つの基本理念」及び「３つの基本的性格」を県立博物館の「使命」と位置づける。

↓

活動目標・計画（使命を達成するための活動目標・計画）

- ●資料収集方針
- ☆調査研究方針
- ●中期活動目標
- ＊博物館活動においては、評価指標の数的目標値の設定が難しく、また、数的評価になじまない項目も多い。
- ●年間事業計画

↓

活　　動（博物館の諸活動）

↓

自己点検・評価（館員による評価指標に基づく活動実績の評価）

- ☆自己点検・評価（各担当、各委員会）→会議での報告
- ＊博物館の評価は、入館者数や費用対効果などの外形的数値のみの評価では不十分であり、質的評価も重要になる。
- ☆自己点検・評価報告書→公表（年報、HP）

↓

外部評価

- ●外部評価委員会（博物館協議会）→議事録の公表（年報、HP）
- ●アンケート調査→結果の公表
- ☆各種会合等での外部意見の聴取

↓

業 務 改 善（事業計画・活動目標の見直し、施設・設備、組織、財政等の見直し）

2．19年度実績と自己点検・評価

(1) 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
1-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数 対前年度増加点数	H20年度末で50万点 9,030点/年	468,294 6,120	471,746 3,452	478,394 6,648
		対前年度増加率	102.0%	101.3%	100.7%	101.4%
		新規寄贈件数	80件/年	111	87	86
		受入図書冊数 （雑誌類以外）	400冊/年	108	116	145
1-2	寄託資料の受け入れ促進	総寄託件数		65	66	62
		新規寄託件数	10件/年	5	1	5
1-3	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料DB登録点数		192,740	225,547	235,419
		収蔵資料DB登録率	H20年度までに50%	41.20%	47.80%	49.21%
1-4	収蔵資料の活用の促進	資料特別利用件数	50件/年	45	67	71
1-5	資料の適切な保管	収蔵庫等の点検回数				
1-6	常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室空調改善の検討状況				
1-7	収蔵スペース確保の検討	収蔵スペース確保の検討状況				

●自己点検・評価

資料の活用促進についてはやや改善傾向にあるものの、博物館機能の根幹である資料の収集状況は明らかに鈍化している。また、収集した資料は適切に整理・保管されてこそ、次代に継承し活用も可能となるが、それもここ数年で困難な状況になってきている。これらは予算と人員の削減によるものが大きく、今のところ改善の兆しはない。よりいっそうの効率化・工夫が求められるが、それも限界に近づきつつある。

〈１－１〉

・平成19年度における資料点数は、前年度に比べて6,648点増加したが、増加点数の目標値9,030点を2,382点下回った。対前年増加率は101.4%であり、体前年度増加率の目標値102.0%まで0.6ポイント及ばなかったものの、前年度に比べて0.7ポイント改善された。その理由として、欠員となっていた無脊椎動物担当学芸員１名が新たに採用されたこと（歴史［近世］担当学芸員１名は依然として欠員）、一部の分野で整理作業がやや進んだことが挙げられる。しかし、予算不足から資料の購入ができなかったこと、および規模の大きなコレクションの受入がなかったことが、資料点数の伸びを鈍化させており、この傾向は近年続いている。そのため平成20年度における50万点の目標達成は困難と思われる（目標達成にはH20年度に21,606点の増加が必要で、これはH19年度における増加点数の3.3倍に相当する）。

・寄贈資料件数は、目標値80件を６件上回った。平成14年度以降に経年的傾向は見られず、平均は90.3件（標準偏差12.6）であることから、ほぼ平年並みと考えられる。

・受入図書冊数（購入図書）は145冊で、前年度に比べて29冊多かったものの、目標値400冊にはるかに届かず、依然として低調である。これは予算額に依存しているためで、予算額が縮小している中では、今後とも目標達成は困難である。当館における図書購入は分野ごとの専門図書が多く、研究の進展に伴い常に最新の図書を揃えておく必要があるが、このような状況下では困難であり、結局、学芸員個人の負担による購入に頼らざるを得ない状態となっている。文献も博物館資料であるという観点からは、中～長期的には大きな損失になると思われる。

〈１－２〉

・平成19年度末における総寄託件数は62件で、ほぼ平年並みであった。

・平成19年度の新規寄託受入件数は５件で、昨年度の１件より増加したものの、目標値の10件を５件下回った。
〈１－３〉
・平成19年度のDB登録資料点数は、前年度に比べて9,872点増加し、DB登録率は49.2％で、昨年度に比べて1.4ポイント上昇した。しかし、１－１で述べたように、収蔵資料点数の延びが低調であることから、今後、DB登録率は見かけ上は上昇していく可能性もある。その一方で、登録作業の重要な戦力である自然課の臨時補助員１名が今年度より削減されたため、その分、登録率の伸びは相殺されている部分もあると考えられる。
〈１－４〉
・平成19年度の資料特別利用件数は71件で、目標の50件を21件上回り、達成率は139％であった。昨年度と比べても４件多く、資料の利用が促進されつつある。
〈１－５〉
・収蔵庫等の点検は、収蔵庫や展示室を利用したときに日常的に行っている。
・常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間でないため、害虫などの侵入を防ぐことができない。実際、平成18年度に引き続き、19年度も害虫が確認されたため、発生源の資料を特定し、それらの資料の燻蒸を行った(p.6参照)。
〈１－６〉
・常設展示室内の空調は温度設定のみ可能で、湿度のコントロールができない。そのため、時期によってはカビの発生が懸念される。
・常設展示室の構造的・設備的な問題であるので、現時点では抜本的な対策およびその検討はなされていない。
〈１－７〉
・鳥居記念館博物館の文化の森総合公園三館棟への移転に伴い、収蔵庫をどうするかが問題となっていたが、平成19年度末に博物館保存処理室１を転用することで決定された（検討委員会答申は平成19年12月９日)。しかし、改装や資料の整理に掛かる人員の確保など、予算措置が不透明であること、また、たとえ予算措置がなされたとしても、博物館学芸員がこれに係る作業でかなりの負担が予想され、博物館の人文系資料の収集・保存作業が遅れることが懸念される。
・不定形で大型の資料の多い民俗分野では、すでに収蔵スペースがなく、考古収蔵庫の一部を借用している状況である。
・民俗分野以外でも、収蔵スペースに余裕がなくなりつつあることから、収納方法を工夫するなどして対応している。

(2) 調査研究

●中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
2-1	調査研究活動の強化	課題調査実施状況		４件 （外部との共同２）	４件 （外部との共同２）	３件 （外部との共同２）
		個別調査研究の実施状況				
2-2	調査研究成果の公表	学術論文数	25本/年 （査読付き５）	29本 （査読付き５）	22本 （査読付き５）	26本 （査読付き８）
		図書・雑誌等での一般著述	40本/年	29本	50本 （普及記事含む）	40本 （普及記事含む）
		学会・研究会での発表	25回/年	21回	17回	28回
2-3	外部研究機関等との連携の推進	共同研究プロジェクト数	10件/年	14件 （課題調査以外）	17件 （課題調査以外）	14件 （課題調査以外）
2-4	県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の実績	２件/年	アサギマダラのマーキング調査、貝化石調査、漂着物の調査	アサギマダラのマーキング調査、漂着物の調査	アサギマダラのマーキング調査、漂着物の調査

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
2-5	外部資金の獲得による研究活動の推進	科研費申請・採択数	申請６・採択１件/年	申請４・採択１	申請３・採択０（継続１）	申請２・採択０（継続１）
		民間研究助成金獲得状況		１件	２件	０件

●自己点検・評価

〈２－１〉

・課題別、分野別に調査研究を実施し、それぞれ成果をえた。

〈２－２〉

・分野および学芸員ごとに多少の偏りがあり、成果の公表数では自然系については論文・調査報告数が多く、人文系では普及的記事が多い傾向がある。

・平成17年度から学術論文数と図書・雑誌等での一般論述の振り分けを変更したため、今年度より目標値を再設定した。

・前年度は欠員であった無脊椎動物担当学芸員が19年度に新たに採用されたこともあり、学術論文数および学会・研究会での発表数が昨年と比較して増加した。一方、図書・雑誌等での一般著述は少数に留まっている。昨年度多かった雑誌や機関誌への記事が今年度はあまり多くなかったため、全体的な減少につながったと考えられる。

〈２－３〉

・昨年より減少し、平成17年度と同程度となった。

〈２－４〉

・アマチュア研究者（または研究グループ）との共同研究のうち、とくに不特定多数の県民を巻き込んで行っている研究をカウントしている。特定のアマチュア研究者との継続的な共同研究も多いが、その件数は不明である。

〈２－５〉

・今年度は、文部科学省および日本学術振興会による科学研究費補助金（科研費）および民間の研究助成金は新規獲得できなかった。この数年来、課題調査や消耗品・備品等の予算も大幅に削減されている。学芸員の自主的な発想に基づく研究を行うためには、これらの競争的資金や研究助成金の獲得が必要になっていくと考えられる。外部資金の獲得に関しては、今後はとくに積極的に取り組む必要がある。

⑶ 展　示

●中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
3-1	常設展の改善・充実	常設展観覧者数	40,000人/年	35,637人	41,475人	40,632人
		観覧者のリピーター率		47.8%（４～５月） 71.4%（８～10月）	57.5%（７～８月）	49.5%（７～８月）
		観覧者の満足度	70%	87%（４～５月）	76.1%（７～８月）	79.9%（７～８月）
		展示改善の実施状況		準備１件	２件	１件
3-2	多様なテーマの企画展の計画的開催	企画展観覧者数	15,000人/年	18,444人（３回）＋7,323人（特陳）	23,285人（３回）＋7,200人（特陳）	38,262人（３回）＋5,168人（特陳）
		観覧者の満足度	80%	69%（縄文）	87.4%（種と実）、71.4%（海人）	80.2%（ミネラルズ）、81.7%（考古速報展）
		企画展の検討状況		19年度以降の計画の協議	20年度以降の計画の協議	21年度以降の計画の協議
3-3	収蔵資料の公開促進と企画展示室の有効利用	特別陳列等の開催回数	10回（特３・部４・ト３）	21回（特4・部6・ト6・共2・他3）	15回（特３・部６・ト６）	16回（特2・部5・ト8・他1）
		企画展示室活用回数	企画展以外に１回/年	２回（特陳）	１回（特陳）	２回（国文祭、特陳）

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
3-4	館外での展示の促進	移動展等の実施状況	1回/年	5回（移動展＝藍住町図［2回］・出羽島・牟岐・松茂）	1回（海陽）	5回（移動展＝牟岐・阿南・藍住・東かがわ、共催展＝徳島城）
		パッケージ展示の貸出数	1件/年	2件（松茂・ガレ）	0件	3件（あすたむ・あいぽーと・阿波図）
3-5	展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録3＋自然と歴史ガイド2（空襲・銅鐸）	企画展図録3＋特陳パンフ（鳴教大との共編。経費は鳴教大負担）	企画展図録1＋パンフ2
		展示解説等の実施状況		企画展解説　4回 特陳解説　3回 部門展示解説 5回 クイズラリー（第2・4土）24回 受付案内員による常設展解説　14回 常設展示室活用イベント　2回（当初計画外分。全体では4回）	企画展解説　7回 特陳解説　3回 部門展示解説 7回 クイズラリー（第2・4土）24回 びっくり箱を使った解説　1回 受付案内員による常設展解説　3回 常設展示室活用イベント　2回（当初計画外分。全体では4回）	企画展解説　6回 特陳解説　1回 部門展示解説 3回 クイズラリー（第2・4土）24回 びっくり箱を使った解説　7回 常設展示室活用イベント　1回（当初計画外分。全体では3回） セルフガイドの設置
3-6	常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	リニューアルに向けての進捗状況		先進館調査2館（九博、大阪人権博）	先進館調査5館（長崎、山梨、九博、科博、国立新美） 展示のイメージの再検討着手	先進館調査1館（島根県古代出雲博） 基本計画（案）の全面改訂

●自己点検・評価

〈3 - 1〉

・常設展観覧者数は40,632人で、目標を上回った（前年度比843人減）。18年度と同様、2月にボランティア企画イベントを実施したところ、当該月の観覧者数の伸びが大きかった。
近年、常設展示室では、職員だけで運営するフェスティバルが年2回、ボランティアとの協働イベントが年1～2回の開催となっている。展示を見るとか、資料に関心があるとかというのとは違って、イベントを楽しむことだけが目的となっている利用者が定着しつつあるように見える。表面的には常設展に入場すれば、「観覧者数」として扱うが、質の異なった利用の増加をどう位置付けるのか、また、博物館にふさわしいあり方なのか、検討すべきでことであろう。

・19年度の利用状況調査（7～8月実施）では、リピーター率は49.5%であった。夏期は観光客などが多いこともあり、やや低めの数字になるが、19年度はとくに低かった。映画「眉山」の公開による徳島への観光客の増加、企画「世界の甲虫」がこれまでにない利用者層を誘引したためとも思われる。
なお、新規利用者が絶えず得られることも必要であるため、リピーター率が高いほどよいというものではない。

・展示の改善（部門展示［人文］の展示替えを除く）は、ハード面での取り組みができない上、新規の資料購入ができなくなっていることもあり、低調だった。今の展示に理解を深めてもらうための工夫として、セルフガイドの設置・配布などが始まった。

・18年度に続き、19年度の観覧者調査でも、部門展示（人文）やトピックコーナーにおける展示替えの認知状況を問い、その回答と利用頻度との関係、満足度との関係を検討した。回答時の来館以前から知っている者が24.5%、当日初めて知った者が42.1%だったが、31.1%が認識しておらず、室内の表示などに工夫が必要だと思われる。
利用頻度が高まるほど、展示替えの認知度は高くなる傾向にあるが、認知度と満足度は関連しておらず、展示替えが満足度を高める効果をもたらしているとはいえないようである。この点は昨年度と同じであり、現状で常設

展の変化・鮮度の維持、満足度を両立するにはどうすればよいかということになるが、妙案は得られていない。なお、展示替えの継続を評価する意見が見られることから、15年度から始めた、部門展示（人文）の計画的な展示替え、トピックコーナーの設置・展示替えが定着し、その意義を認める利用者がいることも確かである。したがって、満足度に直結しないからといって清算主義的な評価をするのは避けるべきである。

〈３－２〉

・企画展観覧者数は38,262人で、前年度と比べて15,000人近い増加である。

・企画展は、テーマとタイミングがうまくマッチすれば大量動員が可能になるが、その見極めは難しい。娯楽性、新規性、学術性等の諸要素を取り合わせた計画的運営が求められるところだが、予算の見通しが立たない状況のもと、将来的な開催計画についての検討はあまり進んでいない。

・観覧者の満足度を調査したのは「ミネラルズ」、「新発見考古速報展」の２回。総合的に満足感を示した観覧者の割合は、前者で80.2%、後者で81.7%であった。概して満足度が高かったようである。

〈３－３〉

・特別陳列等の開催回数は16回あり、目標の10回を大きく超えている。ただし、そのうち１回は近代美術館ギャラリーを会場とする文化の森人権啓発展、１回は国民文化祭である。これらを差し引いた博物館独自の取り組み回数は14回となる。

〈３－４〉

・財政状況が深刻になっているせいか、移動展・パッケージ展示貸出の希望が多かった。中には、東かがわ市歴史民俗資料館のように、県外の施設への協力もあった。
移動展について、小規模な施設では、展示ケース等の設備もなく、当館からケースを持ち込んで展示を行うことがあった一方、ケースの搬入がむずかしいことから、先方の希望テーマでは展示できなかったこともあった。

〈３－５〉

・展示解説等については、「びっくり箱」の活用など、ミニワークショップの試みが繰り返され、成果を得ている。年間計画外の常設展活用イベントがボランティアとの協働により行われたほか、セルフガイドの設置も進み始めた。取り組みに偏りがあるが、今後、こうしたソフト面での充実を図ることが必要になると思われる。

〈３－６〉

・常設展リニューアルの実現は厳しいが、常設展を通じて博物館の目指すものを体現していくという考えに立てば、リニューアルに向けた検討を「改善」に反映させることも可能であり、絶えず議論が求められるところである。そのような考えから、これまでに作成したリニューアル案を全面的に再検討し、常設展更新基本計画（案）を新たに作成した。

⑷ 普及教育

●中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
4-1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	90回	80回	61回（中止５回）
		普及行事参加者数	3,000人/年	5,944人	6,143人	5,140人
		参加者の満足度	満足した者の割合80%	90.8%（15行事）	86.6%（13行事）	93.6%（15行事）
		アウトリーチ活動数	３回/年	移動講座３回	移動講座５回	移動講座４回
4-2	学校教育支援事業の推進	学校教育支援事業件数	出前授業15件/年	21件	22件	15件
			資料貸出15件/年	４件	９件	７件
			その他　20件/年	19件		
			・館での授業		６件	７件
			・教員研修		６件	７件
			・職場体験		２件	２件
			・遠足		117(園)校	107(園)校
		教員・生徒の満足度	80%	８割強	８割強	93.3%

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
4-3	ガイドブックの出版等の促進	ガイドブック出版状況	1冊/年	2冊	0冊	0冊
		普及記事の執筆数	20件/年	17件	45件	34件
4-4	友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	500人／年	483人	431人	404人
		会員の継続率	前年度会員の70%	69%	66%	71%
		友の会行事実施回数	10回	10回	9回	9回
		常設展・企画展観覧者率	50%	38.6%（394件）	53.3%（478件）	51.9%（399件）

●自己点検・評価

〈４－１〉

・普及行事は台風や雨天による中止などが５回あったことも含め、実施回数は前年の80回から61回（計画は66回）に減ったことで参加者数は減少したものの、１回あたりの参加者平均数は増加した。

・普及行事参加者数5,140人のうち、こどもの日・文化の日フェスティバルとボランティアが中心になって行った博物館Ｖキングでは、それぞれ778人、982人、1,313人と参加者数が特に多く、年々増加傾向にある。

・普及行事への参加者の満足度は、前年に比べて高くなっており、15行事で行ったアンケート結果からは93.6%と好評であった。

〈４－２〉

・出前授業数は前年より７件減り、15件であった。その内訳は、徳島市内の小学校が７校と全体の約半数を占めており、その他の学校についても近郊の小学校が多い。出前授業の内容で多いのは、人文分野においては「昔のくらし」に関するもの、自然分野においては「水生生物」・「地層」に関するものである。

・出前授業については､新しくつくったアンケートでの評価項目から､教員・生徒の授業に対する満足度を調べた。その結果、93.3%の高評価を得ることができた。

・資料貸し出し等、事業件数が増えていないのは、博物館が学校教育支援事業を実施していることを知らない教職員が多いと推察される。そこで、学校向けのパンフレットを新しく作成し、次年度当初に各学校教職員に配布することにした。

・その他の「館での授業」「教員研修」「職場体験」「遠足」の実績は、前年度と大差はなかった。

〈４－３〉

・新聞・雑誌の普及記事執筆については、目標値を大きく上回っており、今後も機会あるごとに執筆を働きかけていきたい。

〈４－４〉

・友の会では、会員数が431人から404人に減少したが、継続率は66%から71%に増加した。これは、個人会員の継続が比較的多く、家族会員の継続や新規加入会員が少ない現状を表している。

・会員が自主的に行事を立案・企画し、実施できているものもある。

・友の会会員の常設・企画展観覧者率は51.9%で、目標値を上回った。

(5) シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
5-1	レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	300件/年	357	303	302
5-2	講師派遣等の推進	講師派遣等件数	15件/年	12	18	28
		講演会等受講者数		未計数	未計数	
5-3	自治体等の政策課題への提言	委員等受諾数	15件/年	28	34	29

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
5-4	大学教育への寄与	非常勤講師受諾数	3件/年	3	2	7
		博物館実習生受入人数	20人/年	24（8大学）	17（7大学）	21（8大学）
		学生・院生指導人数		1	1	1
5-5	学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		16	16	14
		学会等役員受託数		5	5	4
		学会等事務局受託数		4	4	3
5-6	民間団体等への専門知識の提供	各種機関・団体等との連携の状況				
5-7	博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受諾数		3	6	6
		博物館関連団体加入数		5	5	5
		連携事業の実施数		8	7	9

●自己点検・評価

〈５－１〉

・レファレンス件数は昨年度に比べて１件減少したが、目標値を２件上回っていた。ただし、電話での問い合わせなど記録として残されていないものもあるため、実数はこれより多い。分野別の件数では、今年度は地学がもっとも多い65件で、昨年度より20件増加した。次いで、動物（脊椎）53件、歴史48件、動物（昆虫）43件であった。以上の４分野で全体の70％占めていた（p.38参照）。

〈５－２〉

・今年度の講師派遣は28件で、昨年度に比べて10件増加し、目標値の15件を13件上回った。ただし、昨年度と同様に、特定分野に集中する傾向が顕著で、歴史分野が17件、全体の61％を占めた。

・派遣先の受講者数は現在のところ計数できていない。講演終了後に派遣先に問い合わせるなどの記録方法を検討したい。

〈５－３〉

・各種の委員会などの委員等の受諾数は昨年度より５件減少したが、目標値の15件を14件上回っている。これらのうち21件（72％）は動物・植物分野における自然環境の評価に係わるもので占められており、県や国における公共事業における環境配慮や希少野生生物の保全対策事業に対応している。

〈５－４〉

・今年度の大学における非常勤講師の受諾数は昨年度より５件増加し、目標値の３件を４件上回った。

・今年度の博物館実習生の受入人数は21人で、昨年度に比べて４人増加し、目標値の20人を１人上回った。

・学生や院生の指導のための受入人数については、今のところとくに目標値は定めていない。大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。今年度は、昨年度に引き続き１名のみであった。

〈５－５〉

・今年度の学会や研究会の当館における開催数は昨年度より２件減少した。これらには毎月例会が開催されるみどりクラブ（旧称：植物談話会）が含まれている。目標値は定めていない。

・学会等役員受託数は昨年度より１件減少した。目標値は定めていない。

・学会等の事務局受託数は昨年より１件減少した。目標値は定めていない。

〈５－６〉

・民間団体等への博物館の有する専門知識の提供は、主として日常的な個別のレファレンス業務の中で行われており（例えば、環境調査コンサルタントに対する調査方法、調査結果とりまとめなどの指導。ほとんどは行政担当者の立ち会いの下に実施）、民間団体への組織的な支援は行っていないし、これまでのところその必要性は認められない。今後はレファレンス業務内容の分析を行い、そちらの指標とし、本項目は削除することが考えられる。

〈５－７〉
・博物館関連団体の委員等受託数は昨年度と同様に６件であった。目標値は定めていない。
・博物館関連団体加入数は５件で、ここ５年間は内容に変化がない。これらのうち１件は当館が事務局を引き受けている。目標値は定めていない。
・他館等との連携事業数は、昨年度より２件増加した。目標値は定めていない。移動展４回および共催展１回のほか、四国地区博物館協議会・日本博物館協会四国支部の講演会への講師派遣、徳島県博物館協議会講演会および研修会の実施、先進地博物館施設調査のための見学会も行った。

⑹ 情報の発信と公開

●中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
6-1	積極的な資料提供の推進	資料提供件数	30件/年	25件	31件	28件
		マスコミ取材報道件数		55件	59件	86件
6-2	様々なメディアの活用による広報活動の強化	広報手段の新規開拓状況		ちらし配布場所の新規開拓及び増数	新規雑誌への催し物案内の提供	ちらしやポスター配布場所の新規開拓
		マスコミ出演等件数	15件/年	９件	17件	15件
		Ｅメールサービス登録件数	250人/年	251人	260人	265人
6-3	インターネットによる情報発信の推進	HPアクセス数	32,000件/年	35,600件/年	49,300件	47,500件
		新規コンテンツ数	30ページ/年	224ページ/年	180ページ/年	507ページ/年
		内容の更新頻度	月３回以上	4.6回/月 (56回/年)	3.3回/月 (39回/年)	3.6回/月 (43回/年)

●自己点検・評価

〈６－１〉
・資料提供件数は28件と目標の30件/年に達しておらず、前年より減少している。博物館からのより効果的な情報発信として、マスコミに対する資料提供を今後とも積極的に続けていく必要がある。
・マスコミ取材・報道件数については、新聞のみの数であるが86件となっており、活発な取材や報道が行われていることが伺える。

〈６－２〉
・広報手段の新規開拓としては、コンビニエンスストアへのちらしとポスターの配布、空港へのチラシの配布（以前はポスター掲示のみ）を行った。限られた予算内で効果的な広報媒体の開発の改善努力を今後とも続けていくことが望まれる。
・マスコミ出演等件数は前年よりやや減ったものの、目標値を達成した。
・電子メールサービス登録件数は目標値をやや上回った。

〈６－３〉
・インターネットによる情報発信はすべて目標値に達しており、良い状態である．特に、18年度にインターネットで公開した展示解説書「徳島の自然と歴史ガイド３　化石」のサイトを解析したところ、良質な情報が発信できていることがうかがえた。19年度末にも同様の手法で展示解説書「ミネラルズ―不思議な、きれいな、そして意外に身近な鉱物の世界―」を公開したので同様の活用が期待される。ただ、全体的に見ると、発信している情報に偏りがある点については改善の余地があり、より広い内容での発信が求められる。

(7) マネージメント

●中期活動目標および19年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	指標の目標値	17年度実績	18年度実績	19年度実績
7-1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況				
7-2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		「元気な博物館づくりプロジェクト」事業によるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
		県外利用者の割合		「縄文の美」10.0%、「絶滅」　14.0%	「種と実」11.3%、「海人の見た世界」19.8%	「ミネラルズ」7.0%、「発掘された日本列島2007」12.4%
7-3	県民参画の仕組みづくり，博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業数		2回（9/23、11/3）	2回（2/12、3/21）	1回（2/11）
		ボランティア活動参加者数		19人	18人	16人
		運営支援組織の検討状況		文化庁芸術拠点形成事業「元気な博物館づくりプロジェクト」の実施		文化庁芸術拠点形成事業「ヤングボランティアとの協働による体験キット開発事業」の実施
7-4	設置者による理解の獲得	博物館予算の状況		2月補正後102,392千円	2月補正後65,526千円	2月補正後47,695千円
7-5	防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊総合訓練6月、12月	自衛消防隊総合訓練6月、12月	自衛消防隊総合訓練6月、12月；文化財防火デー　1月28日
		危機管理マニュアルの整備状況				
7-6	職員の意識改革と資質の向上					
7-7	博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況				
		自己点検評価の状況		16年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	17年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載；自己点検・評価の再検討に着手	18年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載；自己点検・評価の再検討
		外部評価の状況		博物館協議会8月	博物館協議会8月8日	博物館協議会9月21日

●自己点検・評価

〈7－1〉

・19年度は特段の取り組みは行われなかった。

〈7－2〉

・県外利用者の割合は、2つの企画展で調査した。

〈7－3〉

・17及び18年度に続きボランティアを公募し、ボランティア主体の企画イベントを2月11日に実施した。これは、平成19年度文化庁芸術拠点形成事業「ヤングボランティアとの協働による体験キット開発事業」の一環として行ったものである。16名が準備及び当日の運営に参加した。

〈７－４〉

・厳しい財政状況を反映し、館運営予算は18年度より約17,800千円減少した。企画展開催経費の削減や、執行保留が主なものである。

・これまで博物館資料の購入に充ててきた美術品等取得基金が16年度末で廃止された。それに伴い、17年度から博物館費（一般会計予算）に13,000千円の資料購入費が計上されたが、19年度は100万円となり、さらに執行保留のため１点の購入もできず、２月補正予算での全額減額を余儀なくされた。

〈７－５〉

・年２回の防災訓練は、３館合同で実施された。また、文化財防火デーに関係した特別防災訓練を実施したが、これは博物館を中心とし、３館棟の全職員を動員して徳島市消防局の全面的な協力の下、大がかりな訓練となった。

・停電、盗難、けが人や病人の発生等に備えた防災マニュアルも整備していく必要がある。

〈７－６、７－７〉

・16年９月に策定した「徳島県立博物館の中期活動目標」に基づき、19年度事業の自己点検・評価を行い、その内容を年報やホームページに掲載した。また、９月の博物館協議会において討議いただいた（外部評価）。

・中期活動目標を、活動目標に基づく実践、自己点検・評価をきちんと行い、博物館活動の改善・活性化に結びつけるために、全職員がいま一層の意識統一を図ることが大切であり、すでに現状での目標見直し等も行っている。

Ⅸ 観覧者統計

平成14年度から小・中・高校生の土曜、日曜、祝日及び長期休業中は、常設展、企画展とも無料になったため、無料観覧者数が大きく増えている。そのために、13年度までの無料入館者とまったく同質の表示はできなくなった。累計表においてはすべての区分での入館者数を表示するのは困難であるため、13年度までの方式で表示したものもある。

●平成19年度　博物館常設展観覧者数

（単位：人）

月	開館日数	有料観覧者												無料観覧者															観覧者総数
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）					有料観覧者計	学校教育										個人				無料観覧者計	
								大人						幼稚・保育園		小学校		中学校		高校		計							
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者	障害者	計	高校・大学生	小・中学生		園数	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数	小学生	中学生	高校生	その他		
4月	26	522	28	13	21	0	0	83	2	85	0	0	669	0	0	0	0	2	110	1	169	3	279	669	85	34	920	1,987	2,656
5月	26	489	39	8	155	0	1	52	13	65	0	0	757	10	311	24	1,787	2	448	1	84	37	2,630	1,341	153	101	2,543	6,768	7,525
6月	26	581	23	3	25	0	0	60	17	77	0	0	709	1	8	8	307	1	29	1	4	11	348	565	39	34	310	1,296	2,005
7月	26	720	13	7	60	1	0	96	5	101	0	0	902	1	30	0	0	1	9	0	0	2	39	759	46	38	647	1,529	2,431
8月	28	1,909	67	0	67	7	0	181	41	222	2	0	2,274	2	33	0	0	1	4	0	0	3	37	1,874	166	96	1,271	3,444	5,718
9月	26	627	43	1	28	0	0	50	41	91	0	0	790	2	70	3	144	0	0	0	0	5	214	784	47	24	1,196	2,265	3,055
10月	27	373	15	13	43	2	0	453	26	479	0	0	925	5	185	12	894	1	9	0	0	18	1,088	446	40	42	1,632	3,248	4,173
11月	26	303	18	11	22	0	0	193	17	210	0	0	564	3	293	12	800	0	0	0	0	15	1,093	727	67	31	2,423	4,341	4,905
12月	23	296	13	3	12	0	0	73	20	93	1	0	418	2	106	1	30	0	0	0	0	3	136	329	20	10	368	863	1,281
1月	23	534	17	6	23	1	0	82	11	93	0	0	674	2	206	0	0	0	0	0	0	2	206	338	39	22	472	1,077	1,751
2月	25	612	28	2	28	2	0	70	17	87	0	0	759	2	33	2	94	0	0	0	0	4	127	800	35	30	1,153	2,145	2,904
3月	26	685	47	11	20	0	1	87	20	107	0	0	871	4	178	0	0	0	0	0	0	4	178	546	44	27	562	1,357	2,228
計	308	7,651	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	9,178	781	489	13,497	30,320	40,632

●常設展観覧者数累計（平成２年度～平成19年度）

（単位：人）

年度	開館日数	有料観覧者												無料観覧者															観覧者総数
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）					有料観覧者計	学校教育											その他	無料観覧者計	
								大人						幼稚・保育園		小学校		中学校		高校		計		土・日・祝休業期間				
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者	障害者	計	高校・大学生	小・中学生		園数	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数						
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722			55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282			202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568		2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861			114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	13,744	23,280	38,132
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	98	5,541	2,275	12,017	19,833	32,038
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373	9,766	27,315	37,349
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	93	6,488	11,732	10,264	28,484	39,797
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532	11,705	31,705	44,669
17	306	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432	9,157	25,372	35,637
18	307	8,917	413	46	566	5	0	1,451	176	1,627	0	1	11,575	39	1,579	61	4,472	12	605	5	511	117	7,167	11,252	11,481	29,900	41,475
19	308	7,651	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	10,448	13,497	30,320	40,632
計	5,293	316,713	23,893	99,233	28,442	2,057	4,970	48,905	4,624	53,529	166	209	529,212	413	19,712	1,414	122,910	278	36,539	134	16,146	2,239	195,307	84,721	170,636	450,664	979,876

●平成19年度　博物館企画展観覧者数

（単位：人）

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者												無料観覧者														観覧者総数
			個人			団体(割引20%)			減免（割引50%）					有料観覧者計	学校教育										個人				無料観覧者計	
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般			高校・大学生	小・中学生		幼稚園		小学校		中学校		高校		計		小学生	中学生	高校生	その他		
									高齢者	障害者	計				園	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数						
第１回企画展「ミネラルズ」	H19.4.27 H19.6.3	33	3,245	119	34	193	3	1	408	65	473	0	0	4,068	9	292	25	1,960	2	448	3	217	39	2,917	1,681	218	154	825	5,795	9,863
第２回企画展「世界の甲虫」	H19.7.21 H19.9.24	58	9,043	143	7	182	1	0	768	193	961	0	0	10,337	7	163	3	144	1	4	0	0	11	311	7,568	440	200	5,288	13,807	24,144
第３回企画展「新発見考古速報展」	H19.11.13 H19.12.9	24	890	24	19	77	0	1	457	63	520	0	0	1,531	2	187	6	257	1	148	0	0	9	592	491	78	35	1,529	2,725	4,256
合計		115	13,178	286	60	452	4	2	1,633	321	1,954	0	0	15,936	18	642	34	2,361	4	600	3	217	59	3,820	9,740	736	389	7,642	22,327	38,263

●企画展観覧者数累計（平成３～19年度）

（単位：人）

企画展名	開催日数	有料観覧者											無料観覧者計	観覧者総数
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）					有料観覧者計		
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般			高校・大学生	小・中学生			
								高齢者	障害者	計					
平成３年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,541	84	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成４年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,176	50	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成５年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	980	28	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成６年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,264	36	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成７年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	862	55	917	0	3	15,332	17,213	32,545
平成８年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,054	64	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101
平成９年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	53	1,315	4	1	10,219	1,981	12,200
平成10年度	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	660	71	731	0	15	12,565	3,476	16,041
平成11年度	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	2,773	12,738
平成12年度	145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	24,581	33,415
平成13年度	90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	2,070	12,159
平成14年度	93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	5,466	10,945
平成15年度	102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	15,268	21,481
平成16年度	99	12,474	310	118	65	35	0	1,211	94	1,305	0	3	14,310	18,500	32,810
平成17年度	98	6,331	271	26	12	12	0	1,385	63	1,448	0	0	8,100	10,344	18,444
平成18年度	125	7,765	248	34	140	0	0	1,245	136	1,381	0	0	9,568	13,717	23,285
平成19年度	115	13,178	286	60	452	4	2	1,633	321	1,954	0	0	15,936	22,327	38,263
総合計	1,782	138,595	8,751	32,833	2,613	341	6,924	21,712	1,374	23,086	61	54	213,258	153,431	366,689

●特別陳列観覧者数累計（平成４～19年度）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第１回館蔵品展	平５.２.16～３.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平６.２.１～２.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平７.１.13～２.５	21	3,165
第２回収蔵品展	平８.２.16～３.17	27	5,358
第３回館蔵品展「自然コレクション」	平11.７.17～８.29	38	22,372
写生大会作品展	平12.12.５～12.24	18	1,850
勝瑞時代―細川・三好氏と阿波―	平13.10.25～11.25	32	5,766
丹波マンガン鉱山の記録―在日コリアンの労働史―	平14.６.25～７.７	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平15.１.21～３.２	36	4,655
知里幸恵誕生100年記念巡回展自由の天地を求めて―知里幸恵『アイヌ神謡曲集』への道―	平15.７.19～７.27	8	1,317
日本刀の美―赤羽刀とその他の館蔵品―	平16.１.27～３.７	35	8,698
収蔵品展	平16.６.18～７.19	28	5,703
ひまわり作品展	平16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平18.１.８～１.29	19	3,475
吉野川の渡し	平18.２.18～３.19	26	3,848
旅と祈りの道―阿波の巡礼―	平19.１.19～３.18	51	7,200
徳島城下町の世界	平20.１.17～３.２	40	5,168
合計		446	93,793

●移動展観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
昆虫の世界（海南町立博物館）	平14.10.26～11.24	26	1,328
「日本画書展―江戸から昭和まで―」（藍住町歴史館藍の館）	平16.12.２～12.27	26	898
戦争体験（藍住町立図書館）	平17.８.３～８.18	14	2,342
昆虫展（藍住町立図書館）	平17.８.19～９.11	21	3,210
北アメリカの植物（松茂町歴史民俗資料館）	平18.２.４～３.５	26	1,867
海陽町の指定植物・北アメリカの植物（海陽町立博物館）	平18.７.22～８.27	32	481
牟岐大島の考古資料（牟岐町海の総合文化センター）	平19.４.26～５.15	20	353
阿波の板碑（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平19.６.５～７.22	42	197
中世阿波の板碑（藍の館）	平19.８.２～８.27	24	4,540
くらしの中の藍染め（東かがわ市歴史民俗資料館）	平19.10.20～11.18	26	291
合計		257	15,507

●博物館利用者総数年度別一覧

	常設展		常設展観覧者合計	企画展観覧者	特別陳列観覧者	移動展	普及行事参加者	その他	利用者総数
	有料観覧者	無料観覧者							
2　年　度	88,722	8,555	97,277	0	0		646		97,923
3　年　度	99,282	37,835	137,117	24,237	0		1,387		162,741
4　年　度	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712		1,718		110,655
5　年　度	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090		1,686		94,431
6　年　度	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165		2,843		77,913
7　年　度	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358		4,132		98,408
8　年　度	22,434	34,687	57,121	16,101	0		2,419		75,641
9　年　度	18,573	26,147	44,720	12,200	0		2,232		59,152
10　年　度	16,590	22,301	38,891	16,041	0		1,890		56,822
11　年　度	14,870	23,018	38,888	12,738	22,372		2,461		75,459
12　年　度	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850		4,513	1,561	79,471
13　年　度	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766		3,634	2,137	55,734
14　年　度	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15　年　度	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015		4,501	2,628	81,818
16　年　度	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	95,822
17　年　度	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	79,396
18　年　度	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	85,347
19　年　度	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	170,438
累　　計	529,212	450,664	979,876	372,375	93,793	15,507	58,395	100,136	1,620,082

※「特別陳列」は、自主事業のみの観覧者数。「その他」は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数。
※「企画展」は、他館との共催事業（14年度2,290、15年度3,396）を合わせた観覧者数。

●人権啓発展等観覧者

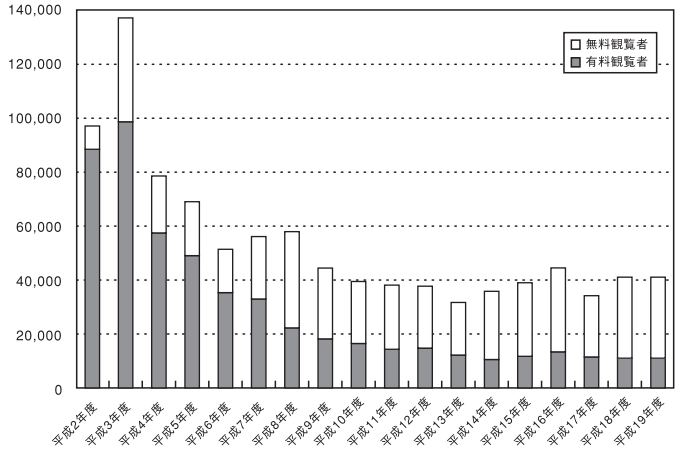
展　示　会　名	開催期間	開催日数	観覧者総数
2000年度同和問題啓発展	平12. 8.26～ 9. 8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平13. 8. 4 ～ 8.12	8	1,290
〃　第 2 回	平13.12. 4 ～12. 9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平14. 7.27～ 8. 4	8	1,066
〃　第 2 回	平14.12. 3 ～12. 8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平15. 8. 2 ～ 8.10	8	1,414
〃　第 2 回	平15.12. 2 ～12. 7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平16. 8. 7 ～ 8.15	8	1,568
〃　第 2 回	平16.12. 7 ～12.12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平17. 8. 6 ～ 8.14	8	1,594
〃　第 2 回	平17.12. 6 ～12.11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平18. 8. 5 ～ 8.13	8	1,532
〃　第 2 回	平18.12. 5 ～12.10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平19.12. 4 ～12. 9	6	589
合　　計		102	15,039

●その他（啓発展を除く共催事業）観覧者数（平成15年度～）

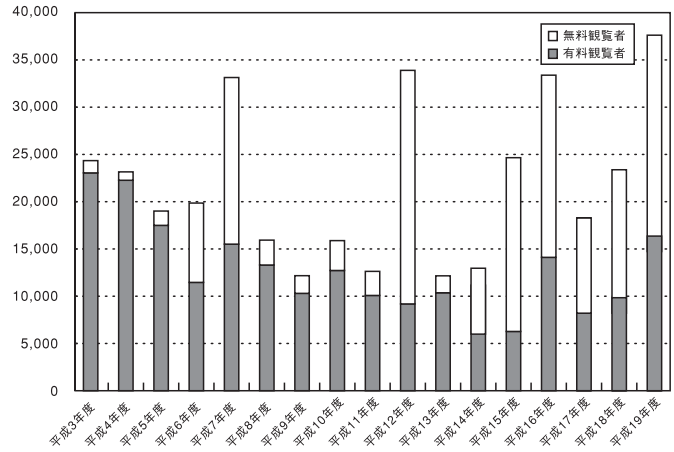
展　示　会　名	開催期間	開催日数	観覧者総数
21世紀館との共催事業（アイヌ工芸品展）	平15. 7.19～ 8.31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平16. 7.30～ 8. 3	5	2,508
人形ウィーク	平17. 8.20～ 8.28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平18. 3.25～ 3.26	2	555
子どもの絵	平18. 4.29～ 5. 7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平18. 5. 5	1	950
日本古生物学会	平19. 2. 2 ～ 2. 3	2	325
パラタクソノミスト養成講座	平19. 2.17～ 2.18	2	26
第22回国民文化祭・とくしま2007	平19.10.27～11. 4	9	71,244
「天正の落日と曙光―守護町勝瑞から城下町徳島へ―」（徳島城博物館）	平19.12. 4 ～平20. 1.27	41	4,021
合　　計		116	85,097

※平成12～14年度の「その他」は、人権啓発展のみ。

●常設展観覧者数（平成２～19年度）



●企画展観覧者数（平成３年～19年度）



X　施　設　の　概　要

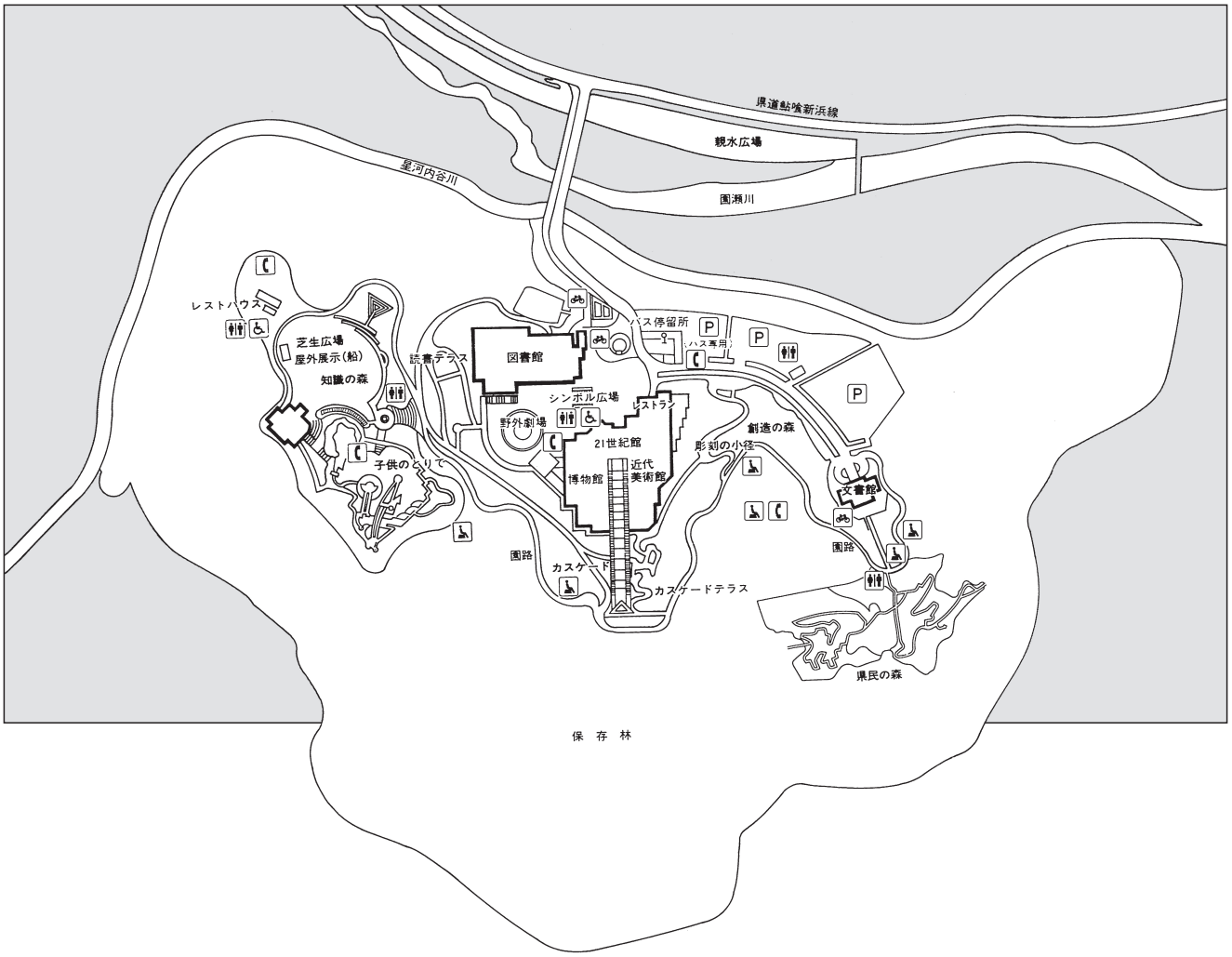
1．沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館
	（旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照）
昭和55年１月	文化の森構想発表
４月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年２月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年３月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年３月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年１月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
４月	美術品等取得基金設置
５月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年８月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手
	徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年３月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年３月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
８月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年７月	博物館展示工事着手
平成元年４月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・21世紀館棟本体工事竣工
平成２年３月	旧博物館閉鎖
４月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成３年２月	博物館資料収集委員会設置
平成４年３月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成８年４月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施
平成15年７月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される

2．施設の概要

●所 在 地	徳島市八万町向寺山
●敷地面積	40.6ha（文化の森総合公園全体）
●建築面積	8,363㎡（３館棟）
●延床面積	22,382㎡（３館合計－積層部分を含めると23,814㎡）
	8,133㎡（博物館占用スペース）
●構造規模	鉄筋鉄骨コンクリート造　地上４階・塔屋１階・地下１階

●設　　計　　㈱佐藤武夫設計事務所・㈱日建設計・㈱環境建築研究所　共同企業体
●施　　行
建　築 ---------- 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組　共同企業体
電　気 ---------- 四国電気工業・近畿電気工事　共同企業体
空　調 ---------- 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ　共同企業体
管 ---------- 朝日工業社・大成設備　共同企業体
エレベータ ---------- ㈱東芝
家　具 ---------- 富士ファニチア㈱
移動展示ケース ---------- ㈱三井
展　示 ---------- ㈱丹青社



3．博物館各室面積

1　　階	
室　　名	面積㎡
企画展示室	325
同　上　準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉　　庫	135
冷　凍　室	19
石　工　室	41
保存処理室　1	70
その他共用部分※	771
小　　計	2,043

2　　階	
室　　名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休　憩　室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊　　下	65
その他共用部分※	442
小　　計	2,957

4　　階	
室　　名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫　1	37
特別収蔵庫　2	37
馴　化　室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小　　計	1,042

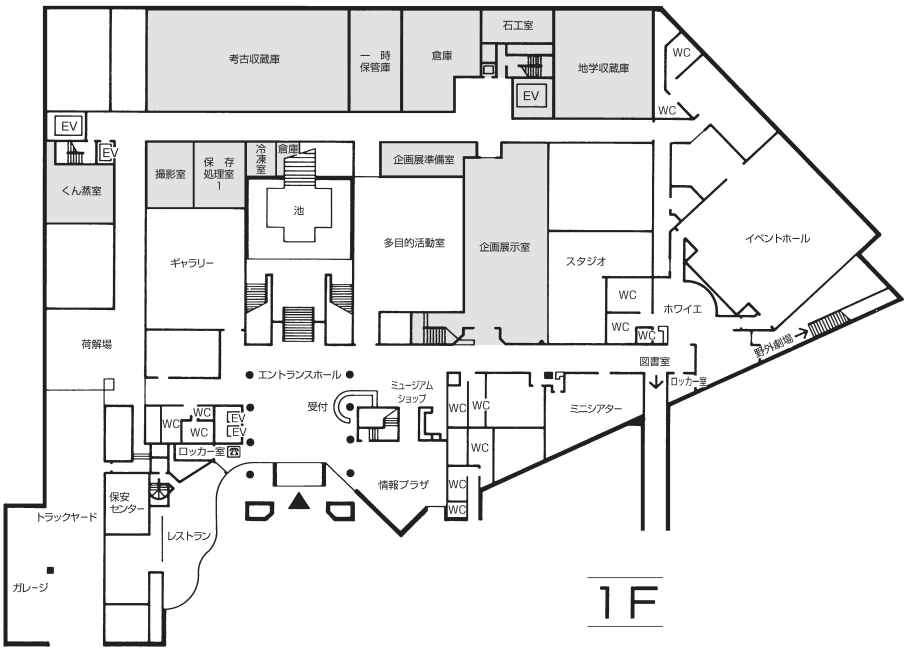
屋　1　階	
室　　名	面積㎡
その他共用部分※	39
小　　計	39

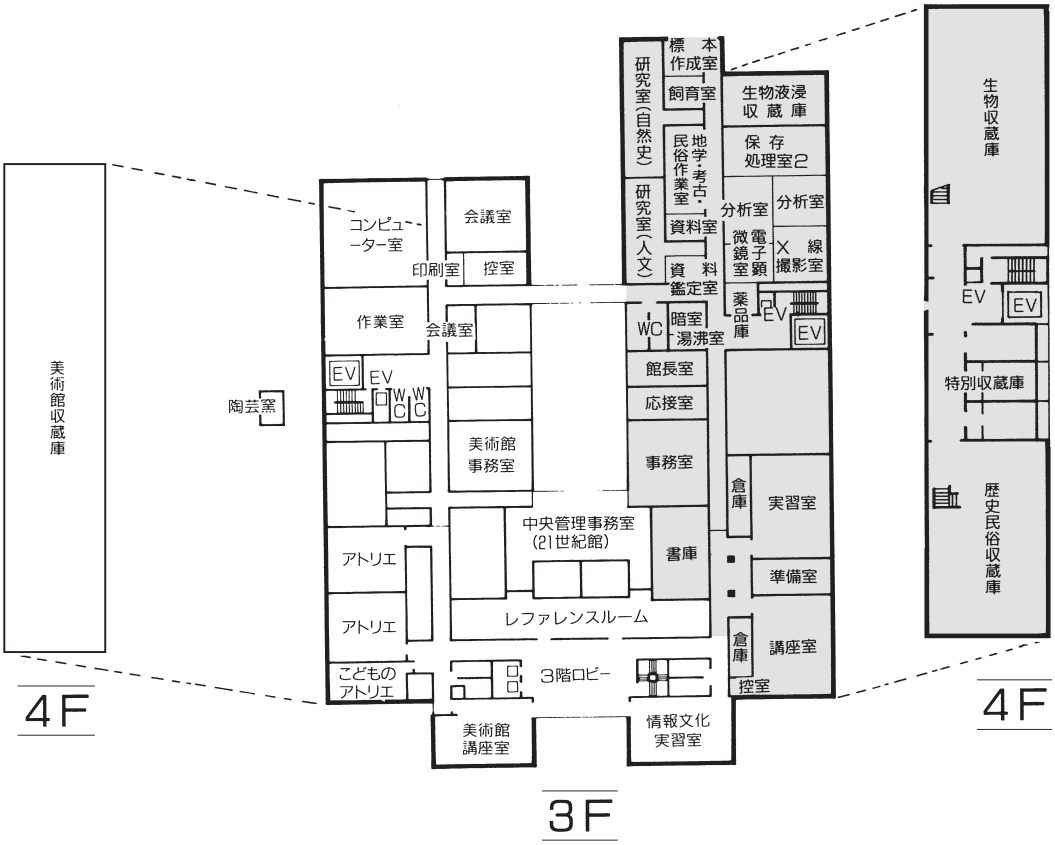
合　　計
8,133㎡

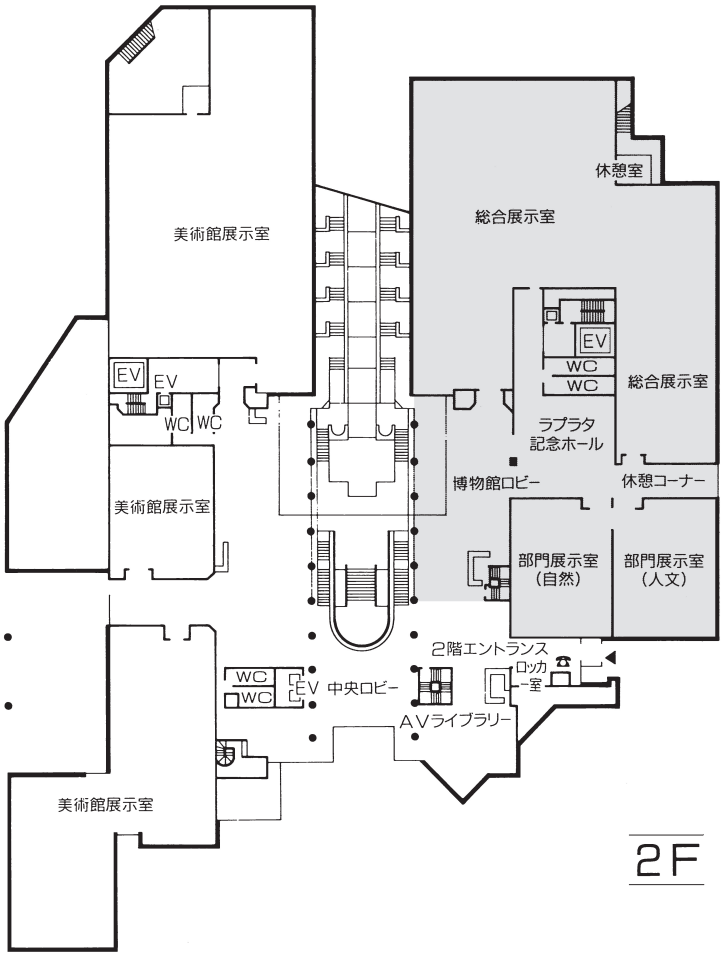
※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館および21世紀館との案分面積。

3　　階	
室　　名	面積㎡
暗　　室	23
倉　　庫	21
倉　　庫	15
エレベーターホール	37
湯　沸　室	12
講　座　室	123
実　習　室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館　長　室	53
応　接　室	21
事　務　室	133
研究室（自然史）	106
生物標本作成室	28
飼　育　室	21
研究室（人文）	80
地学考古民俗作業室	64
分　析　室　1	64
分　析　室　2	48
X 線撮影室	48
保存処理室　2	100
薬　品　庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書　　庫	97
資　料　室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小　　計	2,052

博物館占用スペース




美術館収蔵庫
4F
陶芸窯
コンピューター室
印刷室
控室
会議室
作業室
会議室
EV
EV
WC
WC
美術館事務室
アトリエ
アトリエ
こどものアトリエ
中央管理事務室（21世紀館）
レファレンスルーム
3階ロビー
美術館講座室
情報文化実習室
研究室（自然史）
研究室（人文）
標本作成室
飼育室
民俗作業室
地学・考古・資料室
資料鑑定室
WC
暗室
湯沸室
館長室
応接室
事務室
書庫
生物液浸収蔵庫
保存処理室2
分析室
分析室
微鏡室
電子顕
X線撮影室
薬品庫
EV
EV
倉庫
実習室
準備室
倉庫
講座室
控室
生物収蔵庫
EV
EV
特別収蔵庫
歴史民俗収蔵庫
4F
3F


美術館展示室
EV
EV
WC
WC
美術館展示室
美術館展示室
休憩室
総合展示室
EV
WC
WC
総合展示室
ラプラタ記念ホール
博物館ロビー
休憩コーナー
部門展示室（自然）
部門展示室（人文）
2階エントランス
ロッカー室
WC
WC
EV
中央ロビー
AVライブラリー
2F

Ⅺ　例　規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例［抜粋］

制　　定　平成２年３月26日　徳島県条例第11号
最近改正　平成９年３月28日　徳島県条例第34号

（設置）
第１条　個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。
（名称及び業務）
第２条　文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名　　称	業　　務
徳島県立博物館 （以下「博物館」という。）	⑴　考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 ⑵　博物館資料に関する調査研究を行うこと。 ⑶　博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 ⑷　その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

（徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立21世紀館の業務は省略）

（利用の許可）
第３条（省略）
（観覧料等）
第４条　博物館が展示する博物館資料又は美術館が展示する美術館資料を観覧する者に対しては、別表第１に掲げる額の観覧料を徴収する。
２　（省略）
３　知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。
４　観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。
（損害の賠償）
第５条　文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。
（職員）
第６条　図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。
（協議会）
第７条　教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

（４館の各協議会の所掌事務は省略）

２　協議会は、委員10人以内で組織する。
３　（省略）
４　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
５　委員は、再任されることができる。
６　前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。
（教育委員会規則への委任）
第８条　この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第１（第４条関係）

区分	単位	金額			
		常設展		企画展	
		個人	団体（20人以上をいう。以下同じ。）	個人	団体
小学校の児童及び中学校の生徒	１人１回	50円	40円	知事がその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	１人１回	100円	80円		
その他の者（学齢に達しない者を除く。）	１人１回	200円	160円		

●徳島県立博物館管理規則

制定　平成２年３月31日　徳島県教育委員会規則第９号
改正　平成８年３月29日　徳島県教育委員会規則第７号

（趣旨）
第１条　この規則は、徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。
（休館日）
第２条　博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。
⑴　月曜日　ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
⑵　12月28日から翌年の１月４日までの日
２　徳島県立博物館長（以下「館長」という。）は、特に必要があると認めたときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。
（供用時間）
第３条　博物館の供用時間は、午前９時30分から午後５時までとする。
２　館長は、特に必要があると認めたときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。
（遵守事項）
第４条　博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号）及びこの規

則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。
（入館の禁止等）
第５条　館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。
⑴　泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
⑵　前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者
（資料の特別利用）
第６条　学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。
（補則）
第７条　この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

●徳島県立博物館協議会規則

制定　平成２年３月31日　徳島県教育委員会規則第４号

（趣旨）
第１条　この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号）第７条第６項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。
（会長及び副会長）
第２条　協議会に、会長及び副会長１人を置く。
２　会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
３　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
（会議）
第３条　協議会の会議は、会長が招集する。
２　協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
３　協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
（雑則）
第４条　この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則［抜粋］

制　　定　昭和45年３月31日　徳島県教育委員会規則第４号
最近改正　平成20年３月28日　徳島県教育委員会規則第３号

第１章　総　則（省略）
第２章　事務局（省略）
第３章　教育機関［博物館に該当する条項のみの抜粋］
第３節　徳島県立博物館
（名称及び位置）
第24条　徳島県文化の森総合公園文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名　　称	位　　置
徳島県立博物館	徳島市八万町向寺山

（内部組織等）
第25条　博物館に普及課、自然課及び人文課を置く。
２　前項の課の分担事務は、館長が定める。
（業務）
第26条　博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。
⑴　考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
⑵　博物館資料に関する調査研究を行うこと。
⑶　博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
⑷　鳥居記念博物館に係る予算及び物品に関すること。
⑸　その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。
（所長等の職務）
第32条　総合教育センター、少年自然の家及び埋蔵文化財総合センターの所長、文書館及び二十一世紀館の館長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。
（次長等）
第33条　上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教育機関
副館長	図書館、博物館、美術館、文書館、21世紀館、鳥居記念館

（総合教育センターその他の次長は省略）

２　教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、教育委員会が指定する職員が、その職務を代行する。ただし、やむを得ない事由により教育委員会が教育機関の長の職務を代行する職員を指定することができないときは、当該機関に属する次長又は副館長（二人以上置かれているときは、当該教育機関の長が指定する次長又は副館長）が、その職務を代行する。
（主幹等）
第34条　前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
課長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
主査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務又は技術に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
係長	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し命ぜられた事項又は係の事務を処理する。
事務主任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
主事	上司の命を受け、事務に従事する。
学芸員	上司の命を受け、博物館又は美術館の専門的事務に従事する。

（司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略）

第４章　附属機関
（附属機関）
第37条　附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名　　称	庶務を担当する課又は教育機関
徳島県立博物館協議会	博物館

（事務局の各審議会、他館の協議会等は省略）

●徳島県立博物館観覧料減免要綱

制　　定　平成２年11月３日
最近改正　平成19年１月１日

（趣旨）
第１条　この要綱は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号。以下「条例」という。）第４条第３項の規定に基づき、徳島県立博物館の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。
（観覧料の減免）
第２条　観覧料を減免することができるとき及びその減免の割合は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、その額に10円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てる。
⑴　小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者並びにこれらの引率者が、教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
⑵　身体障害者手帳の交付を受けている者及び第一種身体障害者（昭和57年１月６日付け社更第４号厚生省社会局長・児童家庭局長通知に定めるところによる。）の介護者（１名に限る。）、療育手帳の交付を受けている者及びその介護者（１名に限る。）並びに精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者（１名に限る。）が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
⑶　年齢満65歳以上の者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
⑷　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する祝日及び休日（１月１日を除く。以下「祝日という。）に観覧するとき。常設展観覧料の全額
⑸　祝日に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準する者が観覧するとき。企画展観覧料の全額
⑹　土曜日（祝日を除く。）に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
⑺　日曜日（祝日を除く。）に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
⑻　各学校の学則等に規定する学年始休業日、夏季休業日、秋季休業日、冬季休業日及び学年末休業日（土曜日、日曜日及び祝日を除く。）に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
⑼　その他徳島県立博物館長（以下「館長」という。）が特に必要と認めるとき。館長が必要と認める額
（観覧料の免除申請等）
第３条　前条第１号により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館観覧料免除申請書（様式第１号）を館長に提出し、承認を受けなければならない。
２　館長は、前項の申請を適当と認めたときは、観覧料の免除を承認するものとする。
３　前条第２号又は第３号に該当する者は、身体障害者手帳、療育手帳並びに精神障害者保健福祉手帳又は年齢を証明する資料を提示し、承認を受けるものとする。

様式第１号（省略）

●徳島県立博物館資料特別利用要綱

制　定　平成３年12月１日

（趣旨）

第１条　この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成２年徳島県教育委員会規則第９号）第６条の規定に基づき、徳島県立博物館が所蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の特別利用について必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　資料の特別利用とは、学術その他の研究及び展示、又は出版物掲載等のため、資料を特別に閲覧、模写、複写、複製、撮影しようとする場合、あるいは資料の貸出を受けようとする場合をいう。

（手続）

第３条　資料の特別利用をしようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料特別利用申請書（様式第１号）を提出し、資料特別利用許可書（様式第２号）の交付を受けなければならない。

２　資料の特別利用のうち、資料の館外貸出を受けようとする者は、貸出を受けようとする日の30日前までに、特別利用申請書を提出するものとする。

３　館長は、資料の館外貸出をする際、借受者から資料借用書（様式第３号）を提出させるものとする。

（許可基準等）

第４条　資料の特別利用ができる場合は、学術その他の研究及び教育又は文化に関する事業の用に供することを目的とするときに限るものとし、次の各号のいずれかに該当するときは許可しないものとする。

⑴　特別利用によって、資料の保存に悪影響を及ぼす恐れがあるとき。

⑵　特別利用によって、博物館の業務に支障をきたす恐れがあるとき。

⑶　寄託資料の特別利用をしようとする場合で、寄託者の同意を得ていないとき。

⑷　その他、館長が不適当と認めるとき。

２　資料の館外貸出を受けることができる者は、次のとおりとする。ただし、貸出期間は原則として45日以内とする。

⑴　国立の博物館、博物館法に定める博物館及び博物館に相当する施設

⑵　社会教育法に定める公民館

⑶　国立の図書館及び図書館法に定める図書館

⑷　学校教育法に定める学校

⑸　その他、館長が適当と認める者

（条件）

第５条　資料の特別利用を許可された者は、特別利用に際し次の各号を遵守しなければならない。

⑴　資料特別利用申請書に記載した目的以外に資料を利用しないこと。

⑵　係員の指示に従って資料を取り扱うこと。

⑶　資料の借受及び返納に当たっては、係員立ち会いのもとで、資料の確認、点検を行うこと。

⑷　特別利用に伴って必要となる経費は、特別利用する者が負担すること。

（損害賠償）

第６条　資料の特別利用を受けた者が、資料を損傷又は亡失したときは、速やかに館長に届け出てその指示するところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

様式第１号～第３号（省略）

●徳島県立博物館資料寄贈及び寄託取扱要綱

制　　定　平成３年12月１日
最近改正　平成19年７月１日

（趣旨）
第１条　この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成２年徳島県教育委員会規則第９号）第７条の規定に基づき、博物館資料（以下「資料」という。）の寄贈及び寄託に関する取扱について必要な事項を定めるものとする。
（寄贈手続）
第２条　徳島県立博物館に資料を寄贈しようとする者（以下「寄贈者」という。）は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料寄贈申込書（様式第１号）を提出し、資料寄贈承諾書（様式第２号）の交付を受けなければならない。
２　館長は、資料の寄贈を受けたときは、寄贈者に資料受領書（様式第３号）を交付するものとする。
（寄託手続）
第３条　徳島県立博物館に資料を寄託しようとする者（以下「寄託者」という。）は、あらかじめ館長に資料寄託申込書（様式第４号）を提出し、資料寄託承諾書（様式第５号）の交付を受けなければならない。
２　館長は、資料の寄託を受けたときは、寄託者に資料受託書（様式第６号）を交付するものとする。
３　寄託者に寄託資料を返還するときは、資料受託書と引き替えに行うものとする。
（受入基準）
第４条　館長は、資料の寄贈又は寄託の申請があったときは、次の各号のいずれかに該当する資料について受け入れるものとする。
⑴　国指定文化財及び県・市町村指定文化財に指定されている資料、若しくはそれに準ずる資料
⑵　博物館資料として展示等に活用できる資料
⑶　博物館資料として保存すべき価値が高く、かつ現状のままでは資料の保存が危惧される資料
⑷　その他、館長が特に必要と認める資料
（寄託期間等）
第５条　資料の寄託期間は、５年とする。
２　寄託者が、寄託期間満了後において引き続き資料を寄託しようとする場合は、改めて第３条による手続を行わなければならない。
３　寄託者が、寄託期間満了以前に寄託資料の返還を求めるときは、返還を希望する日の30日前までに館長に申し出なければならない。
４　寄託者は、寄託期間内に寄託資料の所有権に変更があったときは、速やかに館長に申し出なければならない。
５　館長は、前項の申し出を受けたときは、新たに所有権を有することになった者と協議し、引き続き資料の寄託を希望する場合は、改めて第３条による手続を行うものとする。
（寄託資料の特別利用）
第６条　徳島県立博物館又は第三者が、徳島県立博物館資料特別利用要綱に基づく寄託資料の特別利用をしようとするときは、あらかじめ寄託者の承諾を得なければならない。
２　第三者が寄託資料を特別利用しようとするときは、寄託者の承諾を得た後、資料特別利用要綱に基づく手続を行い、館長の許可を得るものとする。
（経費等）
第７条　寄贈資料又は寄託資料の運搬等に要する費用については、寄贈者又は寄託者が負担するものとする。
２　寄託資料の保管料については徴収しない。
３　寄託資料に補修等の必要が生じたときは、館長と寄託者と協議して行うものとする。
（管理）
第８条　寄託資料の管理は、徳島県立博物館が所蔵する資料に準じて行うものとする。

様式第１～６号（省略）

徳島県立博物館年報　第17号（平成19年度）

平成20年（2008）8月1日　発行
編集・発行：徳島県立博物館
〒770-8070　徳島市八万町向寺山
（文化の森総合公園内）
TEL（088）668-3636　FAX（088）668-7197
Eメール　museum@mt.tokushima-ec.ed.jp
ホームページ　http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/
印　　刷：㈱教育出版センター